

近江八幡市の文化振興

(令和6年度版)



(アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業【芸術鑑賞プログラム】)

令和7年3月

近江八幡市

目 次

第 1 章 文化振興基本計画の概要

- 1. 文化振興基本計画について 1
- 2. 文化振興基本計画の体系 2
- 3. 計画の進行管理 4
- 4. 事業評価方法について(事後評価) 5
- 5. 事業一覧(令和 5 年度実施事業) 6

第 2 章 事業評価報告

- 1. 事業評価結果 9
- 2. 事業実施状況(令和 5 年度) 26

(参考資料)

- 1. 近江八幡文化振興条例 60
- 2. 令和 6 年度近江八幡市文化振興審議会委員名簿 63
- 3. 令和 6 年度近江八幡市文化振興基本計画
進捗管理プロジェクト委員名簿 64

第1章 文化振興基本計画の概要

1. 文化振興基本計画について

現代社会は、価値観の多様化やグローバル化、少子高齢化や高度情報化の進行、環境問題の深刻化や自然災害の多発など、人々の暮らしや都市を取り巻く状況は大きく変化し、先行き不透明な時代といわれています。また、新型コロナウイルス感染症の流行は我々の行動変容を余儀なくし、新しい生活様式を生み出しました。こうしたなか、人々はこれまで以上に、単なる物質的な豊かさだけでなく、精神的なゆとりや豊かさを求め、文化に対する関心を寄せています。生きがいのある市民の暮らしと温かいふれあい、豊かな地域社会の形成に、近江八幡市の文化特性を活かしていくことがますます期待されています。

国の動きとしては、平成13年に文化芸術政策の指針を定めた「文化芸術振興基本法」が制定されました。また平成24年には、実演芸術の水準向上を図った「劇場・音楽堂等活性化法」が成立し、公共劇場の使命を、教育機関、福祉機関との連携、地域コミュニティの活性化などに求めています。さらに、平成29年に「文化芸術振興基本法」が改正され成立した「文化芸術基本法」は、文化芸術そのものの振興に加え、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など関連分野の政策と有機的に連携させることなどを盛り込みました。また同時に、社会包摂の概念を提示し、共生社会形成に向けた方法を示しており、このことは平成30年の「障害者文化芸術活動推進法」成立にもつながっています。

本市では、合併前の旧安土町において、昭和60年3月に「安土町文化条例」が制定され、また、旧近江八幡市においては、平成19年3月に「近江八幡市文化振興基本計画」が策定され文化施策を推進してきました。

合併後の平成26年3月には、「近江八幡市文化振興条例」が制定され、文化の振興に関する基本理念を定め、市および市民の役割を明らかにするとともに、文化の振興に関する施策の基本となる事項を定めることにより、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進し、個性豊かで活力ある地域の文化生活に寄与することとしています。

この条例に基づき、平成28年3月に、平成28（2016）年度から令和7（2025年度）までの10年間を計画の期間とする『近江八幡市文化振興基本計画』を策定しました。文化振興基本計画では、本市の有する多様な文化資源を活かして豊かな文化的都市景観を形成しながら、歴史的文化遺産を守り、地域産業の振興や文化活動の担い手の育成に資する、4つの基本理念を掲げ、その理念に基づき6つの基本方針を定めています。

2. 文化振興基本計画の体系

近江八幡市文化振興基本計画

基本目標

基本施策

具体的取り組み

Ⅰ 文化的都市景観の形成

(第14条)

1. 文化的な環境・景観の
保全と継承

① 環境保全対策
② 風景計画

2. 歴史、文化と調和のとれ
たまちづくり

① 歴史・文化環境の保存・整備
② 食文化の継承と振興
③ 地域の文化資源を活用した文化芸術活動の推進

3. 地域文化の継承と発展

① 地域に根ざした文化活動の継承と活用
② 歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用
③ 伝統文化の担い手の育成
④ ふるさとに愛着心を持てる仕組みづくり

Ⅱ 歴史的文化遺産の保存と継承

(第7条、第11条)

1. 伝統文化の保存と継承

① 歴史的遺産、伝統文化の継承と発展
② 豊かな自然環境の活用
③ 人的資源の発掘と連携

2. 文化財の保存と活用

① 伝統的建造物群保存地区の保存・活用
② 無形文化財の保存
③ 埋蔵文化財の保護・保存と活用
④ 市民と行政相互の協働による文化財の保存活用の推進
⑤ 体験学習等の文化財を学び親しむ機会の充実

Ⅲ 文化交流と地域産業の振興

(第10条、第12条)

1. 文化交流の促進

① 海外の姉妹都市との文化交流の促進
② 夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進

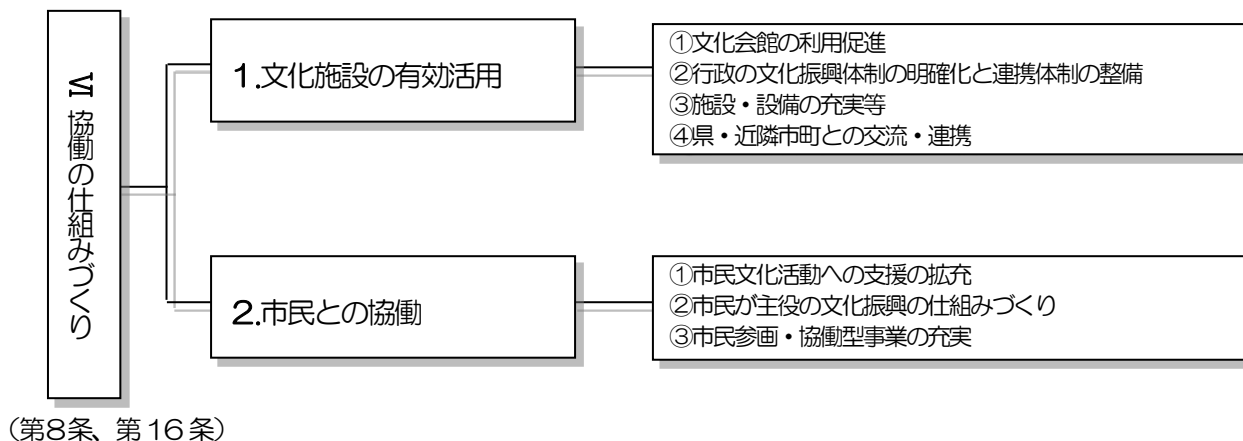
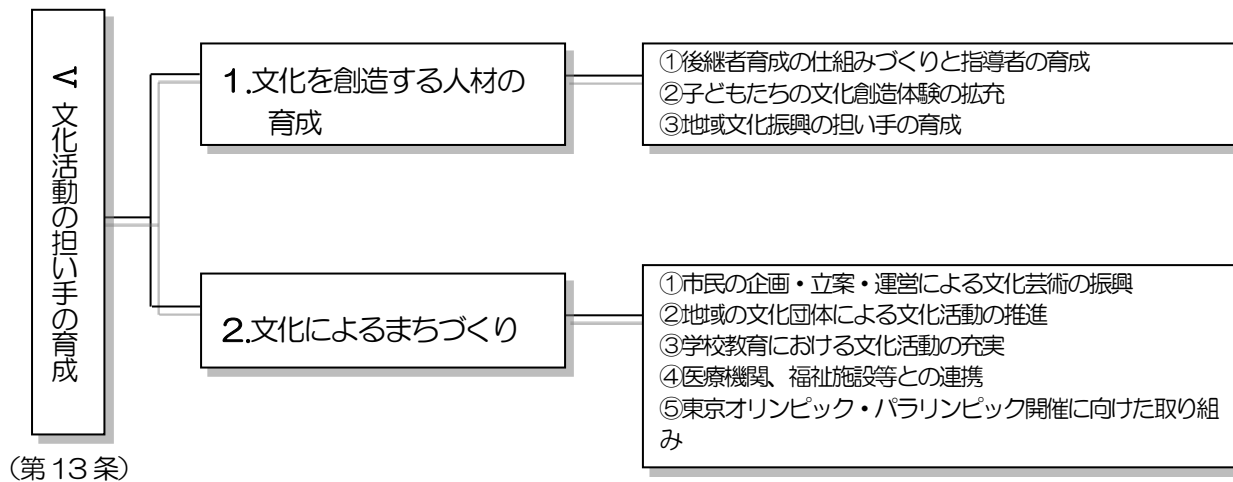
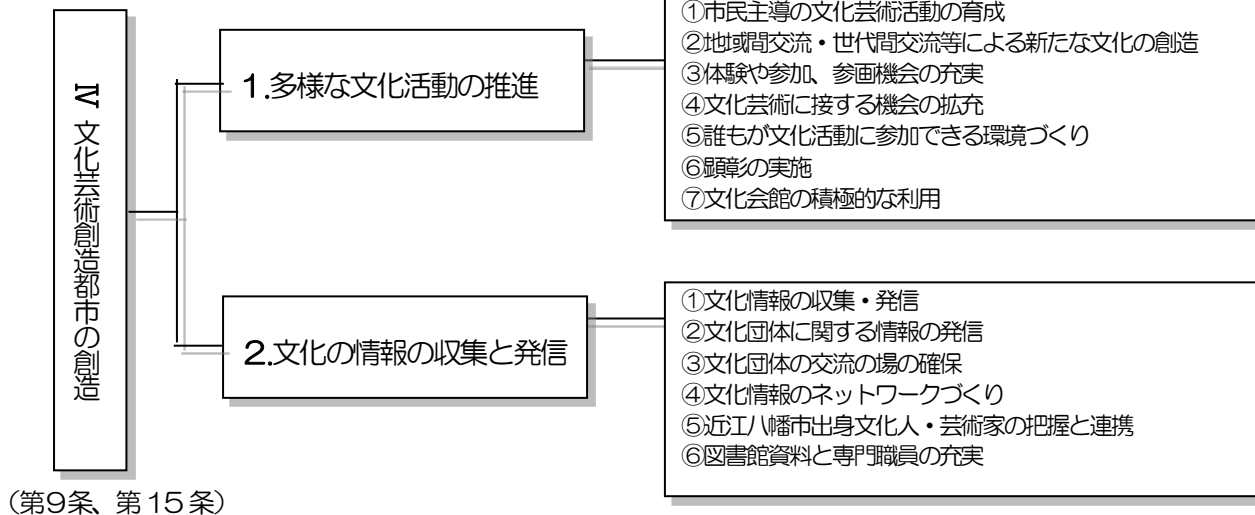
2. 地域資源を活かした産業
や観光の振興

① 近江八幡版 DMO の推進
② 西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進
③ 沖島と湖魚文化（料理）を活用した取り組み
④ 市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進

基本目標

基本施策

具体的取り組み



3. 計画の進捗管理

近江八幡市文化振興基本計画の推進にあたっては、市や市民、文化団体、地域団体、文化人、アーティスト等それぞれによる主体的かつ活発な活動を促進しながら連携を図り、協働によって取り組んでいきます。

また、市の文化施策については、個別事業の進捗管理を中心に、関係各部局間が連携・調整を図り、効率的・体系的に施策を推進するものとし、「評価・検証・審議」を通して、文化振興基本計画との整合性を図りながら、文化振興推進のための施策を総合的に展開していきます。このため、次の組織により計画の実効性を高めていくこととしています。

【文化振興審議会】

学識経験者、文化振興に関して識見を有する市民等で組織し、本市における文化施策全般についての審議を行う「文化振興審議会」において、社会情勢等も踏まえた幅広い視野や観点から、文化振興基本計画の各施策・事業の進捗管理や評価、事業提案等を行います。

【文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員会】

市の文化関連事業実施課職員の中から構成する、計画の進捗管理を行うための委員会で、各課が実施した文化関連事業について点検・評価を行います。

【庁内体制および事務局】

市の総合政策部文化振興課に文化振興審議会および文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員会の事務局を置き、庁内関係各課との連絡調整を行い、文化振興関連施策の進捗管理や点検評価について企画調整を行います。

4. 事業評価方法について（事後評価）

文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員会では、市の文化関連事業実施課が前年度に実施した事業について自己評価した結果を客観的に点検・評価し、文化振興基本計画の基本施策から見た事務事業評価を行いました。また、プロジェクト委員会で評価した結果を、文化振興審議会で幅広い観点から審議し、その結果を取りまとめました。

【基本施策からみた事業評価】

文化振興基本計画では、4つの基本理念に基づき6つの基本目標を設定しています。基本目標にはそれぞれ基本施策と具体的取組があり、これらの体系に基づき各事業は実施されていますが、基本施策の立場から事業の貢献度、進捗状況等を評価し、文化振興の面から見た事業間の優先度を判定し総合的に評価しました。

プロジェクト委員会および文化振興審議会では、基本施策として各事業から相対的に力を入れて取り組む必要がある事務事業を重点事業（今年度は「文化振興の中核を担う社会教育施設に関連する事業」を抜粋）として評価し、その結果を記載しています。なお、未選出事業であっても、今後、事業縮小、廃止を検討する性格の評価ではありません。

※事業評価結果は、最終的に市の方針として決定されるものではありませんが、市として現状をふまえ、今後どのように取り組むべきか方向性を見出すための重要な情報として位置付けています。したがって、市ではこの情報を事業実施課が有効に活用し、文化振興基本計画との整合に努めるものとします。

基本理念

- ◆ 文化活動を行うことが市民の権利であることに鑑み、市民が等しく文化活動に参加できる環境の整備が図られなければならない。
- ◆ 市民一人ひとりの自主性及び創造性が尊重されなければならない。
- ◆ 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
- ◆ 先人たちの営みによって築かれた文化が市民共有の財産としてわかちあわれ、次代に引き継がれるよう配慮されねばならない。

事業一覧（令和5年度実施事業）

◎審議会
●プロジェクト委員会

基本目標	基本施策	具体的取組	No	事業名	担当課	文化の区分(※)	R5 重点事業
Ⅰ 文化的都市景観の形成	1. 文化的な環境・景観の保全と継承	①環境保全対策	1	びわ湖を美しくする運動	近江八幡市水産協議会（事務局：農業振興課）	都市文化（環境）	
			2	伝統的建造物群保存地区保存事業 重要文化的景観保存活用事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化（景観）	●◎
			3	環境保全対策事業	環境政策課	都市文化	
		②風景計画	4	風景計画区域内における行為の制限	都市計画課	都市文化（景観）	
	2. 歴史、文化と調和のとれたまちづくり	①歴史・文化環境の保存・整備	5	河川管理事業	土木課	都市文化（環境）	
			6	選択無形文化財保存事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
		②食文化の継承と振興	7	水郷ブランド農産物認証制度	農業振興課	都市文化	
			8	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター	市民文化 都市文化	
		③地域の文化資源を活用した文化芸術活動の推進	9	安土文芸の郷指定管理事業	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市民文化 都市文化	●◎
	3. 地域文化の継承と発展	①地域に根ざした文化活動の継承と活用	10	ふるさと文化育成事業（地域まちづくり支援交付金事業）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市民文化 都市文化	
			11	文化団体活動支援事業	文化振興課（文化振興G）	市民文化 都市文化	●◎
		②歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用	12	人生伝承塾	生涯学習課	都市文化	●◎
			再	選択無形文化財保存事業（6の再掲）	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
		④ふるさとに愛着心を持てる仕組みづくり	再	学校給食「はちまんの日」の実施（8の再掲）	学校給食センター	市民文化 都市文化	
			13	やまのこ・たんぽのこ体験学習	学校教育課	都市文化 市民文化	●
		③伝統文化の担い手の育成	再	選択無形文化財保存事業（6の再掲）	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
Ⅱ 歴史的文化遺産の保存と継承	1. 伝統文化の保存と継承	①歴史的遺産、伝統文化の継承と発展	14	茶道体験	幼児課	市民文化（生活）	
			15	図書館運営事業（地域資料のデジタル化）	図書館	都市文化	
			16	安土城主信長の館 自主文化事業	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市民文化 都市文化	
		②豊かな自然環境の活用	17	西の湖ヨシバ展の開催支援	環境政策課	都市文化	
		③人的資源の発掘と連携	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	都市文化	（●◎）
	2. 文化財の保存と活用	①伝統的建造物群保存地区の保存・活用	再	伝統的建造物群保存地区保存事業（2の再掲）	文化振興課（文化財保護G）	都市文化（景観）	（●◎）
			18	ライティングプロジェクト事業	観光政策課	都市文化（景観）	
		②無形文化財の保存	19	指定文化財保存事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化（景観）	
			20	埋蔵文化財発掘調査事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	●
		③埋蔵文化財の保護・保存と活用	21	市史編纂事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
			22	旧伊庭家住宅施設維持管理事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
		④市民と行政相互の協働による文化財の保存活用の推進	23	歴史文化資産普及啓発事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
Ⅲ 文化交流と地域産業の振興	1. 文化交流の促進	①海外の友好都市との文化交流の促進	24	国際交流事業	まちづくり協働課	都市文化	●
			25	朝鮮通信使関連推進事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
		②夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進	26	広域観光および友好都市交流事業（富士宮市親善訪問）	観光政策課	都市文化	
			27	夫婦都市児童相互交流事業	学校教育課	都市文化	
	2. 地域資源を活かした産業や観光の振興	①近江八幡版DMOの推進	28	観光プランディング事業	観光政策課	都市文化	●◎
		②西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進					
		③沖島と湖魚文化（料理）を活用した取り組み	29	沖島離島振興事業	企画課	市民文化 都市文化	
		④市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進	30	VR安土城事業	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	

市民文化 … 市民が創出する文化。年齢、性別、国籍や体力・障がいの有無にかかわらず、すべての人にアートに触れる権利があり、その権利を保障していくとするもの。公平・平等・緻密がコンセプト。大きく分けて茶道、華道その他生活に係る生活文化と、音楽や美術等の芸術文化がある。

都市文化 … 単なるハードとしての空間設備や環境整備だけでなく、総体として（八幡堀、安土城跡等の）観光資源なども含む。人間同士のつながりを重視し選択的・集中的戦略的に行うべき政策。環境形成に関するもの、景観形成に関するものなどがある。

基本目標	基本施策	具体的取組	No.	事業名	担当課	文化の区分(※)	R5重点事業
Ⅳ 文化芸術創造都市の創造	1. 多様な文化活動の推進	①市民主導の文化芸術活動の育成	再	文化団体活動支援事業（１１の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	（●◎）
		②地域間交流・世代間交流等による新たな文化の創造	31	多文化共生推進事業	まちづくり協働課	都市文化 市民文化	●
		③体験や参加、参画機会の充実	再	茶道体験（１４の再掲）	幼児課	市民文化（生活）	
			32	市民文化祭共催事業	文化会館	市民文化	
			33	各学区文化祭	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市民文化	
			34	音楽振興事業	文化振興課（文化振興G）	市民文化	
			35	ブックスタート事業	図書館	市民文化	
			36	図書館運営事業（おはなし会）	図書館	市民文化	
			37	図書館運営事業（ブックトーク）	図書館	市民文化	
			38	図書館運営事業（図書館見学）	図書館	市民文化	
			39	図書館運営事業（職場体験等）	図書館	市民文化	
			40	本のまち！動く図書館事業	図書館	市民文化	●◎
		④文化芸術に接する機会の拡充	再	茶道体験（１４の再掲）	幼児課	市民文化（生活）	
			41	文化会館自主文化事業	文化会館	市民文化	●◎
			42	中央公民館講座	生涯学習課	市民文化	
			43	市民大学講座	生涯学習課	市民文化	●◎
			44	やよいコンサート	総合医療センター 総務課	市民文化（音楽）	
			45	絵画展示	総合医療センター 総務課	市民文化（美術）	
			46	左義長まつり写真コンクール	観光政策課	市民文化 都市文化	
			47	図書館運営事業（歴史講座、コンサートの開催）	図書館	市民文化	
			再	安土文芸の郷指定管理事業（９の再掲）	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市民文化	（●◎）
			48	関連施設における自主事業（資料館、旧西川家住宅、かわらミュージアム、特別史跡安土城跡ガイダンス施設）	文化振興課（指定管理）	都市文化 市民文化	
			49	関連施設における自主事業（安土城郭資料館、白雲館）	観光政策課（指定管理）	都市文化 市民文化	●
			50	市美術展覧会	文化振興課（文化振興G）	市民文化（美術）	
		⑤誰もが文化活動に参加できる環境づくり	51	人権フェスティバル	人権・市民生活課	市民文化	●◎
			52	人権尊重のまちづくり市民講座	人権・市民生活課	市民文化	
			53	人権尊重のまちづくり推進員事業	人権・市民生活課	市民文化	
			再	市民文化祭共催事業（３２の再掲）	文化会館	市民文化	
			54	図書館運営事業（貸館）	図書館	市民文化	●
			55	文化会館管理事業（貸館）	文化会館	市民文化	
			56	障害者福祉事務事業	障がい福祉課	市民文化	
			57	市民共生センター運営事業（地域共生型サークルづくり）	障がい福祉課（市民共生センター）	市民文化	●
			58	市民共生センター運営事業（ふくふくフェスタ）	障がい福祉課（市民共生センター）	市民文化	
		⑥顕彰の実施	59	子ども文化芸術賞	文化振興課（文化振興G）	都市文化	●◎
		⑦文化会館の積極的な利用	再	文化会館自主文化事業（４１の再掲）	文化会館	市民文化	（●◎）
	2. 文化の情報の収集と発信	①文化情報の収集・発信	60	広報事業	秘書広報課	市民文化	
			61	読書活動推進事業（館報、ホームページ）	図書館	市民文化	
			62	ヴォーリス建築文化ネットワーク	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
			63	マナビ通信	生涯学習課	市民文化	
		②文化団体に関する情報の発信	64	広報活動	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市民文化	
			65	文化団体機関紙発行（文化団体活動支援事業）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	
		③文化団体の交流の場の確保	再	市民文化祭共催事業（３２の再掲）	文化会館	市民文化	
		④文化情報のネットワークづくり	再	各学区文化祭（３３の再掲）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市民文化	
			再	観光ブランディング事業（２８の再掲）	観光政策課	都市文化	（●◎）
		⑤近江八幡市出身文化人・芸術家の把握と連携	再	人生伝承塾（１２の再掲）	生涯学習課	都市文化	（●◎）

基本目標	基本施策	具体的取組	No.	事業名	担当課	文化の区分(※)	R5重点事業
Ⅳ 文化芸術創造都市の創造	2. 文化の情報の収集と発信	⑥図書館資料と専門職員の充実	66	読書活動推進事業（資料収集）	図書館	市民文化	
			67	読書活動推進事業（雑誌スポンサー）	図書館	都市文化	
Ⅴ 文化活動の担い手の育成	1. 文化を創造する人材の育成	①後継者育成の仕組みづくりと指導者の育成	68	いきいき職員育成事業	人事課	都市文化	
			69	バイブオルガン奏者育成事業	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	都市文化 市民文化 （音楽）	
		②子どもたちの文化創造体験の拡充	70	青少年美術展覧会	学校教育課	市民文化（美術）	●
			71	アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業	文化振興課（文化振興G）	市民文化	
			再	音楽振興事業（34の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	
		③地域文化振興の担い手の育成					
	2. 文化によるまちづくり	①市民の企画・立案・運営による文化芸術の振興	再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市民文化	（●）
			再	文化会館管理事業（貸館）（55の再掲）	文化会館	市民文化	
			再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	（●◎）
		②地域の文化団体による文化活動の推進	再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	（●◎）
			再	各学区文化祭（33の再掲）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市民文化	
		③学校教育における文化活動の充実	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	都市文化	（●◎）
			再	図書館運営事業（ブックトーク）（37の再掲）	図書館	市民文化	
			72	図書館運営事業（学校図書館活用支援事業）	図書館	市民文化	
			再	音楽振興事業（34の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化（音楽）	
		④医療機関、福祉施設等との連携	再	やよいコンサート（44の再掲）	総合医療センター総務課	市民文化（音楽）	
			再	絵画展示（45の再掲）	総合医療センター総務課	市民文化（美術）	
			73	市民共生センター運営事業	障がい福祉課（市民共生センター）	市民文化	
		①文化会館の利用促進	再	市民文化祭共催事業（32の再掲）	文化会館	都市文化	
		②行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備	74	近江八幡市文化振興審議会	文化振興課（文化振興G）	都市文化	
			75	文化振興基本計画進捗管理	文化振興課（文化振興G）	都市文化	
		③施設・設備の充実等	76	図書館施設維持管理事業	図書館	都市文化	
			77	市民共生センター維持管理事業	障がい福祉課（市民共生センター）	都市文化	
			78	文化関連施設維持管理（指定管理施設）	文化振興課（指定管理）	都市文化	
			79	文化関連施設維持管理（文化会館）	文化会館	都市文化	●◎
			80	文化会館整備事業	文化振興課（文化振興G）	都市文化	
			81	文芸セミナー等長寿命化整備事業	文化振興課（文化振興G）	都市文化	
		④県・近隣市町との交流・連携	82	信長サミット	観光政策課	都市文化	
			83	広域観光および友好都市交流事業	観光政策課	都市文化	
			再	ヴォーリス建築文化ネットワーク（62の再掲）	文化振興課（文化財保護G）	都市文化	
Ⅵ 協働の仕組みづくり	1. 文化施設の有効活用	①市民文化活動への支援の拡充	再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市民文化	（●）
			再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	（●◎）
			84	文化関連事業に対する後援	文化振興課（文化振興G）	市民文化	
		②市民が主役の文化振興の仕組みづくり	再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市民文化	（●）
			再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課（文化振興G）	市民文化	（●◎）
		③市民参画・協働型事業の充実	85	広聴事業 未来を築く提言	秘書広報課	市民文化	
			86	図書館資料リサイクル事業	図書館	市民文化	
			87	近江八幡市障がい児者の居場所づくり事業	障がい福祉課（市民共生センター）	市民文化	●◎

87事業+再掲31事業=118事業

●P委員会にて評価点検
◎審議会にて評価点検

20
12

第2章 事業評価報告

1. 事業評価結果

基本目標Ⅰ 文化的都市景観の形成

市は、文化及び自然に配慮し、周囲の自然環境及び地域の歴史的景観と調和のとれた都市景観の形成に努めるものとします。

基本施策１．文化的な環境・景観の保全と継承（都市文化政策）４事業

近江八幡市の魅力ある風景を守り、次世代に引き継ぐことにより、文化的な環境・景観づくりに努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①環境保全対策		1	びわ湖をきれいにする運動	近江八幡市水産協議会 （農業振興課）	都
	●◎	2	伝統的建造物群保存地区保存事業 重要文化的景観保存活用事業	文化振興課	都
		3	環境保全対策事業	環境政策課	都
②風景計画		4	風景計画区域内における行為の制限	都市計画課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見

<No.2 伝統的建造物群保存地区保存事業 重要文化的景観保存活用事業>

- ヨシ刈り・ヨシ焼きについて、活動している団体や企業は多くあると思うが目標値１件の基準・選別はどうしているのか。
- 全ての評価が件数になっており、評価しづらいのではないかと。件数がイコール成果に繋がりにくい。例えば評価に対する数値が全体の何%達したかなどの方がわかりやすいのではないかと。
- 数値目標を作るのが難しい。伝統的建造物群保存地区であれば、修理件数とできるが、景観に関しては、修理する件数があつたりなかったりするもので、定期的にやっているものでもない。去年は予算がついたが、今年がついていない。そのため目標設定が困難。ただ今年はヨシの屋根の修理に対して補助金の交付を行い、景観保全を図っている。
- ヨシ灯りなど他にも色々な団体が様々な活動している中で、なぜこの１団体だけが補助金の交付を受けられたのか。文化的景観に直接関係している根拠が必要ではないかと。
- 保全した後の効果については、伝統的建造物群保存地区の美装化事業の場合、国から外国人観光客がどのくらい増加したか指標が求められてはいる。ただ本市には現在その指標がなく検討が必要である。
- ◎ 景観保存に力を入れているのは分かるが、残しておくべき古い建物から出てきたものが処分されて無くなってしまうとか、本当は残しておいてもらいたいものがきっちり保存されていないところが気になる。博物館という大層だが、きちんとものを残していくことを事業化して考えていかないといけない。古い家を潰す時に中のものを捨てるしかないとなると勿体ない。貴重なものがあるかもしれないため、そういったものを収集するようなことを考えていった方がよいのではないかと。
- ◎ 西の湖の環境について、もっと子ども達を入れて環境教育と結び付けていく観点も持てたらいいのではないかと。

基本施策２．歴史、文化と調和のとれたまちづくり（都市文化政策・市民文化政策）５事業

創造性豊かな地域の特色ある資源の活用は、地域の魅力的なまちづくりにつながります。このため、地域固有の文化資源を掘り起こすとともに、伝統に基づく食文化やものづくり技術などを活用することなどにより、歴史・文化環境と調和のとれたまちづくりにつなげていきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①歴史・文化環境の 保存・整備		5	河川管理事業	土木課	都
		6	選択無形文化財保存事業	文化振興課	都
②食文化の継承と 振興		7	水郷ブランド農産物認証制度	農業振興課	都
		8	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター	市 都
③地域の文化資源を 活用した文化芸術活 動の推進	●◎	9	安土文芸の郷指定管理事業	文化振興課（安土町文芸 の郷振興事業団）	市 都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（全体）>

- ◎ 非常にたくさん行われ、頑張っておられると思う。少し多すぎるくらいと思う。評価は、定量よりも定性の方が事業を行っているプロセスが見えてよいのではないかと。事業を行って、チームでブラッシュアップしたとか、去年と比べてこういう所を工夫したという所が見えればよいと思う。人材育成の面で、ホールで人をどう育てるかという問題があるため、チラシとかだけでなく、事業を評価し、それをアーカイブすることで、次の世代に事業のプロセスをしっかりと残し、若い職員がパッと開いたら過去先輩がこういうことをしていたと分かるようになればよいと思う。事業評価について、記録を残していくことは大変なことだが、そういう意味からも続けていくことが大事ではないか。
- ◎ 今まで、きちんと基本計画に合致した仕様書になっているか見ていなかった。セミナリヨの次の指定管理の選定時は、仕様書等を審議会に諮ってもらいたい。条例が整備され、基本計画が第２期に入る、そして審議会でもこうして事業点検を行っている中で、審査の対象としないとなつじつが合わない。合併したという経過も踏まえ、文化会館と差があるということを認めた上で、あるべき姿を議論しなければならない。

<No.9 安土文芸の郷指定管理事業（ワンコインコンサート）>

- 参加者が多く、また参加者の満足度が高いので、文化振興基本計画の方針に沿った事業になっているのではないかと。
- 初めて参加される方が多いので、PRの方法によってはまだまだ新規の方が増えるのではないかと。特に若年層のファミリー向けにSNS等の広報媒体を活用するなど工夫して周知すれば、参加者が増えるのではないかと。またそれを一つの指標にしても良いのではないかと。
- 昨年と比較して参加者の増減で評価しがちだが、毎年繰り返して同じ事業を続けていくことも重要ではないかと。指標の一つに事業の継続性を評価するものがあるのも良いのではないかと。
- 満足度が高いので、評判が良く、内容が充実しているものになっているのではないかと。
- 70代が一番多く、事業のメインターゲットからズレているのではないかと。開催日時を変更するなど子育て

て世代が来やすい工夫が必要だと思う。文芸の郷が乳幼児向けの事業をしていることを知らなかった。広報の仕方を考えていかれたらと思う。もしかしたら市役所庁内の方もこういったことをしているというのが知らない方もいるかもしれないので、もっと発信していたければ、子どもの頃から音楽や歴史を学べる機会が増えるのではと思う。

＜No.9 安土文芸の郷指定管理事業（はつらつコンサート）＞

- 入場者の多くが60歳以上であり、高齢者が気軽に楽しめるコンサートとして事業実施のねらい通りになっているのではないかな。
- 毎回入場者も多く、アンケートによる満足度も高い人気のある事業だと思うので、継続していただきたい。障がい者の方も気軽に参加できているのがよい。

＜No.9 安土文芸の郷指定管理事業（クラシックコンサート）＞

- 情報収集先で、チラシ・ポスターが一番多く、SNSフォロワー数35万人の人を呼んでもSNSは6%に留まる。事業ごとにターゲットを絞った宣伝方法や開催日時など相手に合わせた工夫が必要ではないかな。

＜No.9 安土文芸の郷指定管理事業（共催事業）＞

- 既得権益にならないようにしていただきたい。また施設だけが苦しまないような運営を行っていただきたい。

＜No.9 安土文芸の郷指定管理事業（参加型事業）＞

- 参加者数や来場者数、アンケートによる満足度など指標をもっと出せるのではないかな。

＜No.9 安土文芸の郷指定管理事業（リトミック教室）＞

- 参加者数が計144組で満足度が100%あり、リピート率も良いように思えるが、事業廃止になっているのはなぜかな。

＜No.9 安土文芸の郷指定管理事業（能楽教室）＞

- 能楽は、日本の伝統芸能であり、演者も観覧者も文化芸術を強く感じるものなので、事業が終了してしまい残念。人が集まらなかったから事業を辞めてしまうのではなく、子どもを対象にしたワークショップや歴史塾など他の事業と絡めることで、継続できたかもしれない。
 - 参加者の数や満足度も重要だが、参加者のうち何人が文化芸術に興味を持ち、継承したい、あるいは継承する手伝いをしたいと思ったかを示すための指標があってもいいのではないかな。
 - 能楽教室を実施していたことを知らなかった。潜在的に興味や関心を持っている人はいると思うので、事業のPRについて工夫が必要だったのではないだろうか。
- ◎ 希望者が減ったから廃止したとあったが、日本の古典芸能というのは、ゼロになっても違う観点から切り込んで残していくのがよかったのではないかな。また、再開できるようなシステムにしておくのがよいのではないかな。

＜No.9 安土文芸の郷指定管理事業（貸館）＞

- 以前は、生の音楽や舞台を観るのが楽しみという世代が多かったが、今の世代の人たちはパソコンやスマホでいつでもどこでも簡単に音楽や映像を観ることができるので、わざわざ足を運んで観に来る人は少

ないのではないか。今後は文化芸術のホールとして、いかに人を集めるかホールのあり方や事業内容について精査が必要だと思う。

- 評価に対する数値として、申請団体数や利用者数、アンケートなど他にも事業評価に繋がる指標があるのではないか。なにか事業評価できる目標値を設定いただきたい。

基本施策3. 地域文化の継承と発展（市民文化政策・都市文化政策）6事業（内再掲2事業）

私たちは地域の独自のすばらしい文化の中で暮らしています。世代を越えて受け継がれてきた地域文化を絶やすことなく後世へ伝え広げるとともに、新たな文化の創造へつなげていくことが重要です。このため、郷土の偉人を顕彰するとともに、地域に根ざした文化活動を支援し、地域性豊かな市民文化の振興に努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①地域に根ざした文化活動の継承と活用		10	ふるさと文化育成事業（地域まちづくり支援交付金事業）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市都
	●◎	11	文化団体活動支援事業	文化振興課	市都
②歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用	●◎	12	人生伝承塾	生涯学習課	都
③伝統文化の担い手の育成		再	選択無形文化財保存事業（6の再掲）	文化振興課	都
④ふるさとに愛着心を持てる仕組みづくり		再	学校給食「はちまんの日」の実施（8の再掲）	学校給食センター	市都
	●	13	やまのこ・たんぼのこ体験学習	学校教育課	都市

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見

<No.11 文化団体活動支援事業>

- もっと幅広く市民の方が使えるように説明会を実施するなど、周知の方法、審査の方法の見直しが必要ではないか。
- 成果団体の発表会など、広く効果を公表する場を検討してはどうか。
- 採択事業に参加したが、参加人数が少ないものがあつた。費用対効果の検討や基準が必要でないか。
- 一部の市民を対象にした事業もあり、一過性の事業にならないかと懸念される。
- 参加者数だけで見るのか、市の文化の裾野を広げることを重視するのかで判断の基準が異なる。効果検証の検討が必要でないか。
- 参加者数を審査の評価に採り入れた方が、補助金をできるだけ欲しい申請者はPR等に努力をするのではないかと思う。
- 行っている内容がよい事業もあるのに、周知が不十分で、事業が見えづらいのが残念である。
- 盛り上げるイベントはお金も人もかかる。どちらが先かというものもあるが、お金をつぎ込んでどんどん応援者が増えるなどで盛り上がっていけばよいと思う。
- ◎ 市の広報には目を通してしているが、この事業については認識がなかった。周知が不足しているのではないか。

＜No.12 人生伝承塾＞

- 高齢化により、後継者が減ってきている。
- 学校によって毎年利用している学校や全く利用しない学校など利用頻度に差がある。
- 利用状況等を調査いただき、各学校のニーズを把握するなど、次年度以降の事業に役立てていただきたい。
-

＜No.13 やまのこ・たんぼのこ体験学習＞

- 医療的ケアが必要なこどもについて、配慮が必要という意見がでている。
- 昨年度、課題として挙がっていたサポーターの不足について、今年度は1日3名の参加があり、円滑に行っている。

基本目標Ⅱ 歴史的文化遺産の保存と継承

市は、地域の文化財、伝統的な行事等の歴史的文化遺産の保存及び活用並びに、伝統的な芸能の継承及び発展を図るため、歴史的文化遺産の調査、維持管理、修復、整備及び公開に努めるとともに、伝統的な芸能の活動の場及び鑑賞の機会の提供その他必要な措置を講ずるものとします。

基本施策1. 伝統文化の保存と継承（都市文化政策・市民文化政策）5事業（内再掲1事業）

本市には、様々な歴史的資産、伝統文化があります。また、近江八幡のアイデンティティでもある湖や緑豊かな自然環境もあります。さらに、古くからゆかりの文化人が暮らし、現在も各分野の専門性や学識経験を持った市民が居住されています。そしてなによりも本市を愛するすべての市民が近江八幡の文化資源といえます。これら本市の持つ文化の力を発揮して、個性と活力ある地域づくりを進めていきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①歴史的遺産、伝統文化の継承と発展		14	茶道体験	幼児課	市
		15	図書館運営事業（地域資料のデジタル化）	図書館	都
		16	安土城天主信長の館 自主文化事業（安土文芸の郷指定管理事業）	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市都
②豊かな自然環境の活用		17	西の湖ヨシ灯り展の開催支援	環境政策課	都
③人的資源の発掘と連携	（●◎）	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	都

基本施策2. 文化財の保存と活用（都市文化政策・市民文化政策）7事業（内再掲1事業）

先人が情熱を注ぎ築き上げ受け継いできた数々の文化財は、私たちの心のよりどころであり大切な財産です。そして、文化財を守りながら、さらに新たな文化の創造につなげていくことが重要です。このため、文化財保護思想の普及と啓発を図り、数ある有形・無形の文化財を後世に引き継ぎます。また、埋蔵文化財の調査や研究に努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①伝統的建造物群保存地区の保存・活用	（●◎）	再	伝統的建造物群保存地区保存事業（2の再掲）	文化振興課	都
②無形文化財の保存		18	ライティングプロジェクト事業	観光政策課	都
		19	指定文化財保存事業	文化振興課	都
③埋蔵文化財の保護・保存と活用	●	20	埋蔵文化財発掘調査事業	文化振興課	都
		21	市史編纂事業	文化振興課	都
④市民と行政相互の協働による文化財の保存活用の推進		22	旧伊庭家住宅施設維持管理事業	文化振興課	都
⑤体験学習等の文化財を学び親しむ機会の充実		23	歴史文化資産普及啓発事業	文化振興課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見
<p>＜No.20 埋蔵文化財発掘調査事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以前、資料館や図書館で成果展を開催したことがあった。部屋が狭く、展示スペースが限られているため、難しい。 ● 現在報告書等は、図書館などで市民に公開しているが、今後より多くの人に周知できるようデジタルで公開することも検討している。 ● 調査の成果発表を実施した回数を指標としたいが、年によって調査件数や成果物にムラがあるため難しい。成果発表だけでなく簡易な現地説明会等も含めての実施回数を指標としても良いかもしれない。

基本目標Ⅲ 文化交流と地域産業の振興

市は、文化の向上を図るため、国内及び海外との文化の交流の促進に必要な施策を講じるとともに、市民の文化活動の促進に資する地域産業の振興を図るものとします。

基本施策１．文化交流の促進（都市文化政策・市民文化政策）４事業

様々な文化が交流し合うことは、異なる文化と接することで自らの文化を再認識することとなり、新たな文化の創造へと発展していく契機となります。そのため、海外の友好都市や国内の夫婦都市との文化交流の促進を活性化していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
① 海外の友好都市との文化交流の促進	●	24	国際交流事業	まちづくり協働課	都
		25	朝鮮通信使関連推進事業	文化振興課	都
② 夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進		26	広域観光および友好都市交流事業（富士宮市親善訪問）	観光政策課	都
		27	夫婦都市児童相互交流事業	学校教育課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見
<p>＜No. 2 4 国際交流事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外からの移住者や旅行者が増加しているので、他の事業と協力して継続していただきたい。

基本施策２．地域資源を活かした産業や観光の振興（都市文化政策・市民文化政策）３事業

本市の魅力ある伝統文化を継承しつつ、地域資源を活かした産業や観光の振興など、様々な分野で戦略的な施策を推進していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
① 近江八幡版DMOの推進	●◎	28	観光ブランディング事業	観光政策課	都
② 西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進					
③ 沖島と湖魚文化（料理）を活用した取り組み		29	沖島離島振興事業	企画課	市都
④ 市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進		30	VR 安土城事業	文化振興課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）の意見
<p>＜No.28 観光ブランディング事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市内で生活していると近江八幡市のブランドのイメージがピン来ない。 ● 今まで築いてきた建物や景観など八幡の良さが昔から残っている。それを多くの人に知ってもらわなくて、継承していくことが今後重要だと思う。 ◎ そもそも論であるが、何をもってブランド化されたのかと思う。どういう状態を指すのかを見ていく必要があるのではないか。 ◎ ここ最近テレビで近江八幡関係のものを多く見るようになった。そういう意味では地域ブランドが上がってきたと思う。次期の文化振興基本計画では、旧市街地区の活用とか、個々の問題ではなく、市全体の問題として捉え、総合的な戦略と連動して行っていくのがよいのではないか。

基本目標Ⅳ 文化芸術創造都市の創造

市は、文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興、福祉、教育等に領域横断的に活用し、市民団体や地域の民間企業等が協働して、地域課題の解決に取り組む先駆的かつ多様な取り組みを支援するものとします。

基本施策1. 多様な文化活動の推進（市民文化政策・都市文化政策）35事業（内再掲6事業）

市民の文化活動は、心の豊かさや充足感を得るだけでなく、活力に満ちた社会や個性豊かな地域の形成など、様々な形で地域などにも還元されます。そのためには、地域間や世代間の文化交流を積極的に進めるとともに、市民誰もが多様な文化活動に参加したり、文化芸術に触れる機会を拡充する必要があります。それぞれの活動を高め、広げるとともに、このような文化を通じた公益的な市民活動を支援していきます。

また、市民が文化芸術に身近に触れる機会を充実するとともに、乳幼児・妊産婦、高齢者、障がい（児）者、外国籍市民、また一人暮らしや引きこもりになりやすい人など、市民誰もが多種多様な文化芸術を鑑賞・創造したり、多彩な文化活動に身近に参加できる環境づくりを進めていきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
① 市民主導の文化芸術活動の育成	（●◎）	再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課	市
② 地域間交流・世代間交流等による新たな文化の創造	●	31	多文化共生推進事業	まちづくり協働課	都市
③ 体験や参加、参画機会の充実		再	茶道体験（14の再掲）	幼児課	市
		32	市民文化祭共催事業	文化会館	市
		33	各学区文化祭	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
		34	音楽振興事業	文化振興課	市
		35	ブックスタート事業	図書館	市
		36	図書館運営事業（おはなし会）	図書館	市
		37	図書館運営事業（ブックトーク）	図書館	市
		38	図書館運営事業（図書館見学）	図書館	市

③体験や参加、参画 機会の充実		39	図書館運営事業（職場体験等）	図書館	市
	●◎	40	本のまち！動く図書館事業	図書館	市
④文化芸術に接する 機会の拡充		再	茶道体験（14の再掲）	幼児課	市
	●◎	41	文化会館自主文化事業	文化会館	市
		42	中央公民館講座	生涯学習課	市
	●◎	43	市民大学講座	生涯学習課	市
		44	やよいコンサート	総合医療センター 総務課	市
		45	絵画展示	総合医療センター 総務課	市
		46	左義長まつり写真コンクール	観光政策課	市 都
		47	図書館運営事業（歴史講座、コンサートの開催）	図書館	市
	(●◎)	再	関連施設における自主事業（安土文芸の郷指定管理事業）（9の再掲）	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市
		48	関連施設における自主事業（資料館、旧西川家住宅、かわらミュージアム、特別史跡安土城跡ガイダンス施設）	文化振興課（指定管理）	都 市
	●	49	関連施設における自主事業（安土城郭資料館、白雲館）	観光政策課（指定管理）	都 市
		50	市美術展覧会	文化振興課	市
⑤誰もが文化活動 に参加できる環境 づくり	●◎	51	人権フェスティバル	人権・市民生活課	市
		52	人権尊重のまちづくり市民講座	人権・市民生活課	市
		53	人権尊重のまちづくり推進員事業	人権・市民生活課	市
		再	市民文化祭共催事業（32の再掲）	文化会館	市
	●	54	図書館運営事業（貸館）	図書館	市
		55	文化会館管理事業（貸館）	文化会館	市
		56	障害者福祉事務事業	障がい福祉課	市
	●	57	市民共生センター運営事業（地域共生型サークルづくり）	障がい福祉課（市民共生センター）	市
		58	市民共生センター運営事業（ふくふくフェスタ）	障がい福祉課（市民共生センター）	市
⑥顕彰の実施	●◎	59	子ども文化芸術賞	文化振興課	都
⑦文化会館の積極的な利用	(●◎)	再	文化会館自主文化事業（41の再掲）	文化会館	市

＜No.3 1 多文化共生推進事業＞

- 国際協会が外国人住民に対して寄り添って対応している。担当課への橋渡しや、各課の様々な事業にも協力している。引き続き良好な関係で連携していただきたい。

＜No.4 0 本のまち！動く図書館事業＞

- ボランティアを活用し、規模に合わせながら事業を拡充しており、よいことだと思う。
- これからもニーズが増えていく中、ボランティアの役割も重要となるため、講座等ボランティアを支援する体制作りが必要ではないか。
- ◎ 近江八幡で、昔のように外に出かけて行って地域の人に利用してもらうというアウトリーチ事業のスタイルのサービスは人が少なくなっている中で、なかなか行えなくなっている。この事業で大事なものは、運営をどうするかは当然であるが、一番の課題としては、サービス拠点をどう増やしていけるかである。サービスそのものを維持、継続していけるよう、利用の拡大を図ることが課題ではないか。
- ◎ 利用が減少しているので云々というようなことを書かれているが、評価の指標をどうするかという時、子どもの数が毎年減っていく中で、数で管理をするということになると折角の値打ち、意味合いが評価されてこないことになりはしないかと危惧する。はっちこブック号は非常に役立っているということを強調したい。

＜No.4 1 文化会館自主文化事業＞

- 貸館事業から自主事業になっている事業が2事業あり、頑張って実施し、成果があれば自主事業として、文化会館で行ってもらえる。また、それが継続していくというのはよいと感じた。
- 一方で2事業の内容がよいため十数年来続いているということだと思うが、それ以外に新しく取り入れるような事業がないのか、育ちにくいのか疑問である。ある程度の収支が必要ということであるが、貸館から拾うような市民活動の場合は、市民の文化活動の裾野を広げたり、発展したりという意味では、必ずしも収支重視だけでなくてもよいのではないかなと思う。
- 同じ事業を継続して行っているということは安定といえば安定であるが、一方でいつまでこれを持続するのか、新しいおもしろいものがないのかとも思う。
- 枠として自主事業を貸館からピックあるするものがあると思う。収支、演目のバランスも必要であるが、もし可能であればチャレンジできるものでは、新しいものがあると思う。
- 文芸セミナリヨとの住み分けも難しいが、音楽関係の自主事業も検討すればと思う。
- 大ホールの稼働率が少ないが、施設全体での収入は多いということであれば、収入をある程度除いても稼働率を上げるような活動や市民がきてもらい賑わうような取組や仕組みづくりができればよいのかと感じた。
- 大ホール以外の部屋の稼働率が高くないのならば、いかに大ホールの稼働率をあげるかを頑張っていけば、メニューも増え、収入も入ってくるのではないかなと思う。
- 50%以上の稼働率があるホールで学校利用が多いとのことだが、無料に近い使用料で学校利用を検討してもよいのではないかな。その場合、電気代や人件費等の支出が増える可能性もあるが、それでもやるのかどうか、検討してはどうだろうか。
- ◎ 近隣他市町のホールでは華やかな著名人であるとか、色々なテレビで見聞きする人の講演や催しがある。一方、市内の文化会館を見ると自主事業がほとんどなく、何か素朴に見劣りする。もう少し市トータルで文化会館の外身と自分達でやる企画を、総合的に企画運営するような仕組みがいるのではないかな。
- ◎ 基本的に事業の対象やセグメントは、普通の文化ホールだと縦軸に市民参加事業や普及事業などがあり、

横軸に対象・ターゲットをこの辺にしているというように、世代に応じた事業がメニューとしてあるが、文化会館ではその辺が見えにくい。セミナーヨでも感じたが、連携をしているというのが見えない。これからは色々な社会的課題を解決する事業もないと駄目なので、福祉課やまちづくり協働課と色々な協働をしながら、事業を単独でするのではなく、文化会館も一緒に協働して行っていくという事業をこれからは盛り込んでいかないといけないのではないかな。

- ◎ 色々な所で様々な情報があふれ、何を選べばよいか分からない時代だと思う。だからこそ、個性的な人が来るような作戦、戦略が生きていくのではないかな。ストリートピアノなど、日常の中で芸術に触れ合う機会をどんどん作っていかれてはと思う。例えば文化会館の横に誰でもいいからギターを持ってきていいよ、ライブをできるよというような、誰が行ってもいいような場所を作ることも視野に入れてはどうか。
- ◎ 一般的に開館20年を超えると大規模改修や設備の更新が必要となってくるが、45年経ちこのような改修がされることは素晴らしいことである。3人のプロパーの採用もあり、文化会館の事業については、常々思っていることがあったが、そういった所も変わっていくと認識をしている。また、あり方検討委員会がこれから開催されていくが、すでに工事が開始された段階で、どのような改修計画がされているのか注意して見ていきたい。例えば、障がいのある方、車いすの方がお客さんとして来られる場合もあるけれども、舞台に立たれることもある。その辺の対応が、今までの設備では難しい面もあったかと思うが、どのようにされるのか、これから見せていただきたい。
- ◎ 自主事業の検討会議があり、そのメンバーに入ったが、年に1、2回しか行われておらず、見直しの機会が少ない。しかし、その機会に歴史講座を毎年やりますという話をして、来年から自主事業として行いましょうという話に繋がった。そういう意味で、意見を反映してくれる機会はあるため、市民の声をもっと引き上げていくことが必要ではないかな。文化会館の使用率、一般市民との近さはまだまだ弱い面があるので、もっと市民にとって非常に大事な文化会館であるという位置付けにもってってもらいたい。

<No.43 市民大学講座>

- 最近、歴史講座よりも健康をメインにした講座の方が人気がある。ただ、市民の人気のある喜ばれるテーマばかりの講座ではなく、人気が少なくても重要なものは選定する必要があると思う。ただ、そうすると人が集まらずPR不足じゃないかな等の意見がでてくる。参加人数以外の指標も目標の一つにすべきではないかな。
- メインターゲットを変更してもいいのではないかな。開催日時やテーマを変えれば参加者層も変わってくるのではないかな。
- 参加者の満足度は高いので、継続し定着すればより参加者が増えるのではないかな。

<No.49 関連施設における自主事業（安土城郭資料館、白雲館）>

- 城郭資料館と白雲館で訪れる観光客の目的が分かれている。城郭資料を訪れる観光客は、安土山が目的になり、県外からの観光客が多いが、白雲館を訪れる観光客は、近場の人が八幡堀や街並みなどを楽しみに観光に来ている。安土と八幡を周遊できるような自主事業があればいいと思う。
- 入館者数の向上のために、広域な周遊事業に参画したり、オリジナルグッズの販売等を行っている。さらに、今年は観光施設のあり方検討会を立ち上げ、より多くの観光客に対して施設の利活用ができるように検討会も行っている。
- インバウンドも増加しているので、外国人観光客向けの事業があってもいいのではないかな。

<No.51 人権フェスティバル>

- 昨年度から学区持ち回りになり、学区により人権に対する温度差がある中、人権に決して熱心でない会場

でも、新しい人や普段参加しない人が参加できるなど、すぐに効果・評価がでづらいたろうが、広がりが出るのではないか。

- 講演会の参加者を増やすには、それなりに名前が通った人を呼びたいが、10万近くが要約筆記、2万円が託児にとられ、予算25万円では少ない。もう少し予算拡充が必要ではないか。

＜No.5 4 図書館運営事業（貸館）＞

- 貸館利用が非常に多く、図書館に行く一つのきっかけ作りとしてよいのではないか。
- 本に少しでも興味を持ってもらうとか、展示に関係の本を借りていこうというきっかけづくりになればよいと思う。

＜No.5 7 市民共生センター運営事業（地域共生型サークルづくり）＞

- 市公式LINEが一番更新されており、事業の認知にも繋がり今後も継続してもらいたい。

＜No.5 9 子ども文化芸術賞＞

- 各学校によって応募件数に偏りがある。
- この事業をきっかけに市展や他の展覧会などへの出展に繋がれば良いと思う。
- 応募件数が増加しているので、引き続き継続していただきたい。子どもたちにとっても創作意欲の向上に繋がる良い機会になっていると思う。
- ◎ 総合的な形のものならば、学生たちの文化祭みたいな形でもっと広げていき、市展や次の展覧会の出展に繋げていってもらいたい。
- ◎ 学校の参画が多くなり、参加者が増えてきているが、まだまだ偏りがある。ある学校からはものすごく推薦があるが、ある学校はこの賞を分かっていないのか全然推薦がない。更にもう一歩進めていってもらいたい。

基本施策２． 文化の情報の収集と発信（市民文化政策・都市文化政策） １２事業（内再掲４事業）

近江八幡市の文化の魅力を高め、市民の文化芸術活動が活発に行われるためには、情報の収集と発信のための仕組みづくりを行い、市民が必要とする情報を効果的に提供することが必要です。市民誰もが容易に文化情報を手に入れることが出来るような情報流通の仕組みを構築していきます。市民文化活動における様々な情報交換が可能になるような双方向の情報の流れを作るなど、情報によって文化活動がより一層活性化する仕組みを検討していきます。特に、情報通信技術の目覚ましい革新から様々な新しいメディアが開発されてきており、それらへの対応も大きな課題として取り組みます。

また、本市で育った文化人、芸術家と連携、応援体制を確立することも必要です。

さらに、文化芸術の創造活動を支援するとともに、本市の個性的で多様な文化活動を市内で情報共有するとともに、市外・国外へと発信していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①文化情報の収集・発信		60	広報事業	秘書広報課	市
		61	読書活動推進事業（館報、ホームページ）	図書館	市
		62	ヴォーリズ建築文化ネットワーク	文化振興課	都
		63	マナビィ通信	生涯学習課	市
②文化団体に関する情報の発信		64	広報活動	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
		65	文化団体機関誌発行（文化団体活動支援事業）	文化振興課	市
③文化団体の交流の場の確保		再	市民文化祭共催事業（32の再掲）	文化会館	市
④文化情報のネットワークづくり		再	各学区文化祭（33の再掲）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
	（●◎）	再	観光プランディング事業（28の再掲）	観光政策課	都
⑤近江八幡市出身文化人・芸術家の把握と連携	（●◎）	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	都
⑥図書館資料と専門職員の充実		66	読書活動推進事業（資料収集）	図書館	市
		67	読書活動推進事業（雑誌スポンサー）	図書館	都

基本目標Ⅴ 文化活動の担い手の育成

市は、文化活動を担う人材及び団体を育成するために必要な施策を講じるものとします。

基本施策１．文化を創造する人材の育成（都市文化政策・市民文化政策）５事業（内再掲１事業）

市民が、その地域の自然や歴史などの文化に対する理解を深めるとともに、地域文化の大切さを知り、担い手を育成していくことにより、次の世代への文化の継承だけでなく、新たな文化の創造へとつながっていきます。年齢や経験に関わらず、一人でも多くの人に文化に関心を持ってもらい、活動に参画してもらうとともに、企画・制作、運営や情報提供など、地域文化振興に必要な専門知識を持った市民を増やしていきます。

また、子どもたちが様々な文化に触れ、文化に興味を持つことは、自らの文化活動への取り組み意欲の促進にもつながります。青少年期の文化に関する様々な体験は、生涯にわたる関心と、より深い理解の礎となります。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①後継者育成の仕組みづくりと指導者の育成		68	いきいき職員育成事業	総務課	都
		69	パイプオルガン奏者育成事業（安土文芸の郷指定管理事業）	文化振興課（安土町文芸の郷振興事業団）	市都
②子どもたちの文化創造体験の拡充	●	70	青少年美術展覧会	学校教育課	市
		71	アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業	文化振興課	
		再	音楽振興事業（34の再掲）	文化振興課	市
③地域文化振興の担い手の育成					

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見

<No.70 青少年美術展覧会>

- 特別支援学級の生徒の出品数の増加などにより、展示スペースの課題があるが継続していただいたい。

基本施策２． 文化によるまちづくり（市民文化政策）１２事業（内再掲１０事業）

文化行政は、文化の根付いた地域社会をつくりだすことです。このような地域社会をつくりだす主役は市民です。行政は市民が住みよいまち、住み続けたいと思うまちを市民と一緒に、文化的なまちをつくることが求められています。地域の活性化・まちづくりは、地域の文化資源を核にすることが大切です。魅力ある文化資源を充実させ、地域や市民に目を向け、市民と協働で文化の視点に立ったまちづくりが大切です。文化芸術活動を通して、心豊かな文化的風土を育むことが大切です。

また、文化と産業振興・観光などの分野とが、連携連動した文化振興施策の展開もますます重要になってきています。近江八幡市を訪れる人が文化的な魅力が感じられるように、文化によるまちづくりが大切です。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①市民の企画・立案・運営による文化芸術の振興	（●）	再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市
		再	文化会館管理事業（貸館）（55の再掲）	文化会館	市
	（●◎）	再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課	市
②地域の文化団体による文化活動の推進	（●◎）	再	文化団体活動支援事業（11の再掲）	文化振興課	市
		再	各学区文化祭（33の再掲）	各学区まちづくり協議会（まちづくり協働課）	市
③学校教育における文化活動の充実	（●◎）	再	人生伝承塾（12の再掲）	生涯学習課	市
		再	図書館運営事業（ブックトーク）（37の再掲）	図書館	市
		72	図書館運営事業（学校図書館支援事業）	図書館	市
		再	音楽振興事業（34の再掲）	文化振興課	市
④医療機関、福祉施設等との連携		再	やよいコンサート（44の再掲）	総合医療センター総務課	市
		再	絵画展示（45の再掲）	総合医療センター総務課	市
		73	市民共生センター運営事業	障がい福祉課（市民共生センター）	市

基本目標Ⅵ 協働の仕組みづくり

市は、市民が自主的かつ主体的に行う文化活動の充実を図るため、市民、芸術家等、事業者、教育機関等・福祉関係団体・医療関係機関及び市との間における様々な協働が活発に行われるように、協働の仕組みづくり及び場の整備等を行うものとします。

基本施策１．文化施設の有効活用（都市文化政策・市民文化政策） １２事業（内再掲２事業）

文化振興基本条例に基づき策定される本基本計画を推進していくためには、市民と市がそれぞれ役割を認識し、協働により市民文化の創造を実現することが大切です。県・近隣市町との連携を視野に入れ、行政における推進体制の整備を行うとともに、文化会館をはじめとする既存の施設の維持管理に努め、市民による自主的かつ主体的な文化活動が行える環境づくりを目指します。

また、文化会館については、これまで貸館を中心として良質な文化活動の提供を推進してきましたが、周辺市の文化施設の整備が進み、施設利用が伸び悩んでいる側面があるため、今後は市民に身近な存在として積極的に利活用してもらえ環境の整備に努めます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①文化会館の利用促進		再	市民文化祭共催事業（32の再掲）	文化会館	市
②行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備		74	近江八幡市文化振興審議会	文化振興課	都
		75	文化振興基本計画進捗管理	文化振興課	都
③施設・設備の充実等		76	図書館施設維持管理事業	図書館	市
		77	市民共生センター維持管理事業	障がい福祉課（市民共生センター）	都
		78	文化関連施設維持管理（指定管理施設）	文化振興課	都
	●◎	79	文化関連施設修繕（文化会館）	文化会館	都
		80	文化会館整備事業	文化振興課	都
		81	文芸セミナーヨ等長寿命化整備事業	文化振興課	都
④県・近隣市町との交流・連携		82	信長サミット	観光政策課	都
		83	広域観光および友好都市交流事業	観光政策課	都
		再	ヴォーリズ建築文化ネットワーク（62の再掲）	文化振興課	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見

<No.79 文化関連施設修繕（文化会館）>

- 工事後にどのように運営していくのが課題であり、検討願いたい。

基本施策2. 市民との協働（市民文化政策・都市文化政策）8事業（内再掲4事業）

市民の文化活動は、心の豊かさや充足感を得るだけでなく、活力に満ちた社会や個性豊かな地域の形成など、様々な形で地域などにも還元されます。市民個人や団体の活動はその活動だけにとどまることなく、他の団体等との交流や市民一般への干渉や体験の機会を持ったり、障がい者など文化との接触に困難を伴う市民に積極的に支援するなど、公益的な活動への広がりも見せてきています。それぞれの活動を高め、広げるとともに、このような文化を通じた公益的な市民活動を支援していきます。

基本施策に対する取組（●は重点事業として注目するもの、◎は審議会で審議されたもの）					
取組	重点	No.	事務事業名	事業担当課	区分
①市民文化活動への支援の拡充	（●）	再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市
	（●◎）	再	文化団体活動支援（11の再掲）	文化振興課	市
		84	文化関連事業に対する後援	文化振興課	市
②市民が主役の文化振興の仕組みづくり	（●）	再	図書館運営事業（貸館）（54の再掲）	図書館	市
	（●◎）	再	文化団体活動支援（11の再掲）	文化振興課	市
③市民参画・協働型事業の充実		85	広聴事業 未来を築く提言	秘書広報課	市
		86	図書館資料リサイクル	図書館	都
	●◎	87	近江八幡市障がい児者の居場所づくり事業	障がい福祉課（市民共生センター）	都

プロジェクト委員（●）・文化振興審議会委員（◎）意見
<p>＜No.87 近江八幡市障がい児者の居場所づくり事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度も内容としてよい事業だと感じたが、今年度も安定した参加者があり、もっと評価してもよいのではないかなと思う。今後も継続してもらいたい。 ◎ 評価として4でよい。今、障がい児が増えており、これからの時代に大事である。 ◎ とても素晴らしい事業だとは思いますが、障がい児の方が中心で、会場も共生センターで固定されているため、おそらく一定の方の参加が中心になっているかなと思う。安土の方とか、そのあたりでの巡回とか展開だとか、そういったことも検討いただきたい。 ◎ もっと障がい者は近江八幡市にはおられるので、全体とグループ化した形で、そういった人達があそこにいったら、こんなことが聞ける、こんなことが話せるというような機会を作ってほしい。

2. 事業実施状況（令和5年度）

事業実施状況（令和5年度）

I 文化的都市景観の形成

1 文化的な環境・景観の保全と継承

① 環境保全対策

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
1	びわ湖を美しくする運動	近江八幡市水産協議会 (事務局：農業振興課)	水草等の繁茂や廃棄されたごみを放置しておく、琵琶湖の水産物の生育に悪影響が及ぶことが懸念される。その影響は漁業者にとっては深刻な問題であることから、当該事業が開始された。	滋賀県では7月1日を「びわ湖の日」と定め、県内一斉に漁場の清掃活動が行われている。近江八幡市水産協議会では7月3日に水産協議会を中心として、琵琶湖漁業協同組合員や沖島町民等の協力のもと、滋賀県漁業協同組合連合会が主催する「びわ湖をきれいに」する運動」に参加し、水草やごみを回収して清掃活動を行う。	【最終：令和7年度】 琵琶湖の環境保全と漁場の生産力の回復並びに向上を図ることを目指す。 【目標設定の理由】 水産物や廃棄ごみは外的要因によることから、数値目標に示すことは困難なため、事業開始の目的達成を目指す姿としている。	【事業の効果・ねらい】 琵琶湖の環境保全と漁場の生産力の回復並びに向上のため。 【事業実績】 近江八幡市水産協議会の会員である、近江八幡漁業組合、沖島漁業組合を主とし、沖島自治会を含めて団体、地元住民・市職員により琵琶湖（漁港の周辺）の清掃を行い、可燃ごみを4t車で1.0台分、不燃ごみを4t車で0.5台分回収し、漁場の美化に努めた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞目標設定については、外的要因が大きいため数値目標は難しいですが、近年の環境への意識の向上などもあり、年々ごみの回収量が減ってきており、目標としている琵琶湖の環境保全と漁場の生産力の回復並びに向上に向けた取組ができていると考えます。 ＜評価に対する数値等＞令和3年度実績：可燃210kg、不燃270kg、令和4年度実績：可燃140kg、不燃330kg、令和5年度実績：可燃220kg、不燃70kg	引き続きごみの適切な回収を行い、漁場のみでなく、周辺湖岸の環境保全にも努める。
2	伝統的建造物群保存地区保存事業／重要な文化的景観保存活用事業	文化振興課	八幡堀や八幡商人の商家からなる重要伝統的建造物群を中心とする町なみは、近江八幡を代表する歴史的景観を形成する。また、西の湖や北之庄沢には、ヨシ群落と水郷からなる人々の営みの中で生み出された重要な文化的景観「近江八幡の水郷」の文化的景観が広がる。これらの、近江八幡らしい歴史的景観・文化的景観を保全し、次世代に継承することを目的とする。	重要伝統的建造物群保存地区内の町なみ景観の構成要素である伝統的建造物の修理事業に補助を行う。また、周辺の景観に調和した建物の新築・改築等の修景事業にも補助を行うことで、町なみ景観の保全を行う。	【最終：令和7年度】 伝統的建造物群保存地区および重要な文化的景観選定地区内の景観保全に補助を行う。 【目標設定の理由】 先人より守られてきた景観を保全することにより、市民生活の向上を目指す。	【事業の効果・ねらい】 伝統的建造物群保存地区内の建物や修理、修景することで歴史的景観の整備を行うことができた。重要文化的景観保存地区については、景観を損なわない意匠について協議を行うことでヨシ群落と水郷からなる風景の景観保全を行うことができた。また、重要文化的景観「近江八幡の水郷」における象徴的なヨシ群落・ヨシ地の環境保護・景観保全を目的として、広域・ヨシ刈り、ヨシ焼きといった保全活動を行う団体へ、備品（トラクター）購入費の補助を行った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞伝統的建造物群保存地区内での修理・修景件数については滞りなく補助を行った。 ＜評価に対する数値等＞目標4件→4件達成 【評価項目】 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞重要文化的景観内での開発について、景観を損なわない意匠とするよう指導を行った。 ＜評価に対する数値等＞目標値なし→7件指導 【評価項目】 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞重要文化的景観で象徴的なヨシ群落・ヨシ地の環境保護・景観保全を目的として、広域にヨシ刈り・ヨシ焼きといった活動を行う保全団体にに対し、補助金を交付した。 ＜評価に対する数値等＞目標値1団体→交付1団体	歴史的景観・文化的景観の保全には、継続した修理、修景の取組が必要となる。
3	環境保全対策事業	環境政策課	重要文化的景観の構成要素であるヨシの保全及び環境まちづくり活動団体による市内の環境保全活動を支援するため。	・近江八幡市ヨシ群落保全団体による自然の浄化作用を有するヨシ群落の保全活動の実施。 ・市民団体「水と緑の環境ネットワーク」による環境保全活動の実施。 ＜2団体の概要＞ 近江八幡市ヨシ群落保全団体・・・3団体 約60名（主に65歳以上の市民）で構成、ヨシ刈り・ヨシ焼き等に従事。 水と緑の環境ネットワーク・・・1団体10～20名の8団体で構成、環境保全に関心をもち活動している市民が環境保全活動に従事している。	【最終：令和7年度】 ヨシの保全及び環境まちづくり活動団体の11団体へ支援を行う。 【目標設定の理由】 ヨシの保全及び環境まちづくり活動団体による適正な保全活動の支援を行うため。	【事業の効果・ねらい】 重要文化的景観の構成要素であるヨシの保全及び環境まちづくり活動団体による市内の環境保全活動を支援するため。 【事業実績】 ・重要文化的景観の構成要素であるヨシ群落の保全に向けた事業により、重要文化的景観の保全に努めた。 ・環境まちづくり活動団体と連携、協働しながら、市域各地での継続した環境保全活動に取り組んだ。	【評価項目】ヨシ群落保全団体によるヨシ地の保全（ヨシ刈り、ヨシ焼き等）の実施 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞ヨシの浄化作用を有する貴重なヨシの保全活動に努めるため。 ＜評価に対する数値等＞実施した。 【評価項目】環境まちづくり活動団体による市内の環境保全活動の実施 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞ヨシ群落まちづくり活動団体と連携、協働し、自然環境及び景観の保全に努めるため。 ＜評価に対する数値等＞実施した。	ヨシ群落の保全や自然環境及び景観の保全のために、継続して各団体と連携、協働し、自然環境及び景観の保全に努める。 また、看板や広報等による啓発を強化し、ポイ捨てや不法投棄による散在性ごみの減少に取り組む。

② 風景計画

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
4	風景計画区域内における行為の制限	都市計画課	平成17年に水郷風景計画、平成19年に伝統的風景計画が施行された。また、平成28年には全市計画及び歴史文化風景計画が施行されることととも、水郷風景計画の区域が一部拡大された。 このことから、本市の風景づくりに関する施策の基本となる事項を総合的に定めることにより、市、市民、事業者等が連携、協働し、近江八幡の魅力ある風景を守り、はぐくみ、次世代に引き継ぐ営みを支援することを目的とする。	区域内の風景を保全・創出して、いくつものゾーンに分け、風景形成基準を定めることで、建築物等の形態意匠や外観の変更となる行為に好して、制限をしている。また、水郷風景ゾーン、伝統的風景ゾーン及び歴史文化風景ゾーンの3つのゾーンについて、地域別計画を定めており、より厳しい基準を設定することで、風景の保全を図っている。 ＜7つのゾーン＞ ・湖畔風景ゾーン ・水郷風景ゾーン ・伝統的風景ゾーン ・市街地風景ゾーン ・街道風景ゾーン ・田園風景ゾーン ・歴史文化風景ゾーン	【最終:令和7年度】 地域毎の風景計画を策定する。 【目標設定の理由】 本市においては、市域を7つのゾーンに区分しており、各ゾーン毎の地域特性に合った風景計画を策定し、各ゾーンにおける良好な景観を保全する必要があるため。	【事業の実績】 風景形成基準に適合する建築物等となるよう働きかけを行い、一区域内の風景の保全を図ることができた。また、一区域の風景形成基準に適合していない建築物については、景観への配慮を求めることで、区域内の風景と調和するよう指導を行うことができた。	【評価項目】風景計画区域内における届出に関する内容及び件数 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞風景計画区域内における届出内容が、本市の良好な風景を保全することについて、全ての届出内容が、本市の良好な風景を保全することに関わったため。 概ね適合しており、本市の良好な風景を保全することについて、全ての届出内容が、本市の良好な風景を保全することに関わったため。 概ね適合しており、本市の良好な風景を保全することについて、全ての届出内容が、本市の良好な風景を保全することに関わったため。	届出制となっているため、住民の想いを尊重されると、本市の風景計画における風景形成基準を一部満たしていない建築物が建築されることがあることで、各地域の良好な風景を保全していく。また、風景計画策定から時代は変化しつつあるが、風景への配慮を求めている。また、風景計画策定後、現代に合わせた風景形成基準の見直しの必要がある。 また、市域を7つのゾーンに区分し、地域特性に応じた市民の自主的な風景づくりを推進し、風景を生かした誇りあるまちづくりを進めることにより、素晴らしい風景、風景資産を守り、育て、次世代へ継承していく。ゾーン毎の個別計画策定に向け検討を進める。

2 歴史・文化と調和のとれたまちづくり

① 歴史・文化環境の保存・整備

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
5	河川管理事業	土木課	背景:昭和48年から5ヶ年計画の八幡堀改修工事が実施されてきたことをきっかけとして、景観を保つため樹木の剪定、石量等の修繕をしていくことになった。 目的:八幡堀の水量管理、樹木の剪定管理、遊歩道・石量等の管理(対象地域:1級河川八幡川)	八幡堀の水量管理(施設所管は滋賀県)、樹木の剪定・遊歩道石量等の修繕。	【最終:令和7年度】 道路、河川管理者の職能による事故をゼロ。 【目標設定の理由】 安全な公共施設を維持するため。	【事業の効果・ねらい】 施設等所等による道路上での職能事故等を防止するため。 【事業実績】 ・樹木剪定・修繕費 405,900円 ・ポンプ周辺清掃費 355,729円 ・ポンプ使用電気代 495,656円	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞利用者からの通報、自主ノットロールをするなかで施設等所等を発見した際、観光客や利用者が転倒されないよう早急に対応した。また、倒木樹木の撤去等、適正に維持管理できた。 ＜評価に対する数値等＞道路現状による事故は0件	課題:適正な維持管理をするには相当の経費がかかる。 方向性:事業を継続し、維持管理に努める。
6	選択無形文化財保存事業	文化振興課	国選択無形民俗文化財「近江八幡の火祭り」の中で、県指定無形民俗文化財の左義長まつり、県選択無形民俗文化財の八幡まつり及び篠田の火火を、継続実施することで後継者育成を図り、民俗文化財を後世に伝えることを目的とする。	左義長まつり、八幡まつり、篠田の火火の保存伝承活動を行う保存団体に対し、補助金を交付することにより支援を行う。	【最終:令和7年度】 指定民俗文化財の継続および後継者育成のための情報発信の継続と補助の充実。 【目標設定の理由】 各保存団体の活動を支援することによって文化の継承を継続する。	【事業の効果・ねらい】 近年の少子高齢化や生活様式の変化により、文化財を取り巻く環境も大きく変化し、民俗文化財の担い手である後継者不足が課題となっている。そのため、民俗文化財を保存・伝承することが困難になってきている。 近江八幡市では、「近江八幡市文化財保護条例」を定め、文化財の保存のための必要な措置を講じ、もって文化資産の向上に努めることとしている。補助を行う左義長まつり、八幡まつり、篠田の火火を含む「近江八幡の火祭り」は、平成4年に記載作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された貴重な文化財であり、保存伝承を行う必要性がある。 【事業実績】 国選択無形民俗文化財「近江八幡の火祭り」の保存団体のうち、近江八幡左義長保存会、八幡祭り保存会、篠田の火火保存会の3保存団体について、補助金の交付による支援を行った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞対象となる3団体に補助金の交付を行いました。 ＜評価に対する数値等＞目標3団体 → 交付3団体	無形民俗文化財の後継者不足は、今後も保存伝承を行う上で大きな課題であり、後継者育成活動につなげる支援を検討し、補助金の交付を継続する必要がある。

② 食文化の継承と振興

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
7	水郷ブランド農産物認証制度	農業振興課	「近江八幡市の水郷」が国の重要文化的景観に選定されたことなどから、農業と水郷地域の調和を図るとともに、環境に配慮して生産された、安全で安心な農産物の普及啓発を図るために事業を開始された。	近江八幡市の水郷等(等)に配慮し、基準を満たした農産物を認証することで、農産物のブランド化を図るとともに、安心安全な農産物を提供する。また、認証した農産物から検体を抽出し、残留農薬検査を実施することで、安心安全な農産物の普及につなげる。	【最終:令和7年度】 承認面積100ha 【目標設定の理由】 承認面積を増やすことで、農業と水郷地域の調和を図るとともに、環境に配慮して生産された安全で安心な農産物の普及啓発を図るため。	【事業の効果・ねらい】 市内で生産された農産物のブランド化を図るとともに、近江八幡市の美しい水郷風景を守るため。 【事業実績】 市内で生産された農産物のブランド化を図るとともに、近江八幡市の美しい水郷風景を守ることに着目した。	【評価項目】環境に配慮した安心安全な農産物の普及と承認面積 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞JA等と連携し、直売施設やJA店舗に水郷ブランド農産物のポスター等の掲示による啓発を行い、また、申請された農産物の内、3検体を抽出して残留農薬検査を行った結果、全てにおいて不検出であり、水郷ブランド農産物認証制度により、安心安全な農産物の普及啓発がでたと考える。また、令和5年度の承認面積は54.4haであり、引き続き目標達成に向けて啓発していく。 ＜評価に対する数値等＞残留農薬は検出されなかった。承認面積54.4ha	引き継ぎ風景と調和した環境に配慮した農産物づくりを推進し、滋賀県・JA等と協賛・連携を図り、より制度の効果を高め、安定生産とブランド化を図る。
8	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター	地産地消の推進を目的に平成17年度以前から実施している。 現在は、学校給食を通じて地域の食文化を知るとともに、郷土を愛する心や感謝の心を育てることを目的としている。 また、全国学校給食週間(1月)には、生産者のビデオメッセージを作成し各校園で活用していただいた。	給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき、市内産の野菜や特産品、草から伝わる郷土料理を取り入れた給食を実施している。 くちもみほろろ、各校園へ配送し、給食を食べる体験を通して子どもたちに地場産物や食文化等を伝えるとともに、市HPやLINE配信し家庭や地域へ周知している。 また、全国学校給食週間(1月)には、生産者のビデオメッセージを作成し各校園で活用していただいた。	【最終:令和7年度】 給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき実施する。 【目標設定の理由】 学校給食を通じて地域の食文化を知るとともに、郷土を愛する心や感謝の心を育てる。	【事業の効果・ねらい】 地産地消を推進するとともに、子どもたちに地域の食文化を伝え、郷土を愛する心や感謝の心を育てるため。 【事業実績】 丁字敷や赤こんにやく等の特産物は、子どもたち「はちまんの日」の献立について、各校園からは「地元食の食材に聞かせる、おいしく食べることができた」、「地場産物を意識して食べる」ことができ、また、生産者さんのビデオメッセージを見た、感想があり、給食を食べる体験を通して、地場産物や郷土料理を知り、興味・関心を深め、感謝の気持ちや食文化の大切さを感じることができた。また、生産者さんのビデオメッセージを見た、感想があり、給食を食べる体験を通して、地場産物や郷土料理を知り、興味・関心を深め、感謝の気持ちや食文化の大切さを感じることができた。また、生産者さんのビデオメッセージを見た、感想があり、給食を食べる体験を通して、地場産物や郷土料理を知り、興味・関心を深め、感謝の気持ちや食文化の大切さを感じることができた。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき実施し、学校給食を食べる体験を通じて市内の児童生徒・園児に啓発することができた。 ＜評価に対する数値等＞「はちまんの日」19回/19回 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞給食指導年間計画及び「はちまんの日」実施計画に基づき実施し、学校給食を食べる体験を通じて市内の児童生徒・園児に啓発することができた。また、指導用資料をLINE配信することで、家庭や地域へも周知する事ができた。	動画資料も導入し、引き続き実施する。

③ 地域の文化資源を活用した文化芸術活動の推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
9①1	安土文芸の郷指定管理事業＜ワコンコインコンサート＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	『ワコンコインコンサート』シリーズでは、乳幼児から入場が可能で、本物の音楽(生音)を聴く機会を提供しているコンサートである。また、親子の外出しやすいつまみ時間帯(土曜日の午前中)に設定している。	昨年実施してまいりました施設改修が終了し、例年どおり8回の開催を実施した。親子で楽しめる、聴きなじみのあるクラシックやポップス、唱歌、童謡など身近な楽曲を中心に楽しいお話を交えながら、約1時間のコンサートを実施している。曲目の中には、子ども向けプログラムだけでなく、クラシックの醍醐味を感じていただける楽曲も行っている。出演者の選定は、県内を中心に活躍している若手アーティストに積極的に出演いただき、本格的な音楽ホールでの演奏の場を提供している。	【最終:令和7年度】 乳幼児も入れるコンサートであるため、すべての来場者に理解いただくことを目指します。 【目標設定の理由】 乳幼児から本物の音楽を聴いていただきたいと願って開催するコンサートです。親子の外出しやすいつまみ時間帯(土曜日の午前中)に設定し、聴き馴染みのあるクラシックやポップス、唱歌、童謡まで、身近な楽曲を中心に楽しいお話を交えながら演奏します。	【事業の効果・ねらい】 乳幼児から入場できるクラシックコンサートは少なく、音楽ホールのセミナーとして小さな子ども連れながらご家族にも気軽に音楽を楽しんでいただける機会を提供していく。 【事業実績】 1.参加者属性: 男36%、女63%、市内14.3%、市外57% 10歳未満28%、10代4%、20代1%、30代10%、40代14%、50代16%、60代14%、70代27%、80代以上5% 2.満足度:大変良い81%、良い16%、普通1% 3.参加頻度:初めて32%、2～5回48%、6回以上21% 4.情報収集先:ポスター・チラシ61%、HP・市広報21%、知人等から18%	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞4 【評価理由】 乳幼児も入れる親子で楽しめるコンサートとして8回開催した。 聴きなじみのある身近な楽曲を中心に楽しい話を交えながら約1時間のコンサートを行った。 ＜評価に対する数値等＞ 8回公演で1,288名の入場者がありました。1回あたりの公演で161名の入場者となりました。	コンサートには乳幼児と一緒に入場できるが、大人のみの来場者の方もいる。コンサートマナーについては保護者にも伝えており、また乳幼児が騒いだ場合はロビーで休んでいただくよう案内しているが、来場されるすべての方にご理解いただくことは難しい。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し	課題・今後の方向性
90⑥	安土文芸の郷指定管理事業＜参加型事業＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	『ミュージックフェスティバル』では、県内外で音楽に携わる音楽家個人および団体の方に、本格的な舞台と創作表現の場を提供し、学生と音楽愛好家の発掘と育成、また、今後の会館利用促進と地域の芸術文化振興につなげる。	令和5年度では、ミュージックフェスティバルとして2事業を実施しました。] 器楽声楽編では、出演者として一般公募によるアマチュア演奏家の演奏会並び、団体に様々な演奏スタイルで聴き応えのあるコンサートを開催し、学生の方をはじめ地域で活躍する音楽愛好家の発掘と育成を目指す。 【目標設定の理由】 _	【最終:令和7年度】 県内外で音楽に携わる音楽家個人および団体の方に本格的な舞台と創作表現の場を提供し、学生の方をはじめ地域で活躍する音楽愛好家の発掘と育成を目指す。 【目標設定の理由】 _	【事業の実績】 令和5年度では、ミュージックフェスティバルとして2事業を実施しました。器楽声楽編では、出演者として一般公募によるアマチュア演奏家の演奏会並び、団体に様々な演奏スタイルで聴き応えのあるコンサートを開催し、学生の方をはじめ地域で活躍する音楽愛好家の発掘と育成、また、今後の会館利用促進と地域の芸術文化振興につなげられた。 【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞ 3	ホールの特性に合わせ、生音を重視した運営にしているが、PA(音響)を希望する出演者もある。また、多数回参加したいという方には有料の公演である。有料の公演の際には、選考のうえに一定のレベル以上の方を合格としている。	
90⑦	安土文芸の郷指定管理事業＜リトミック教室＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	『リトミック教室』では、0～3歳児が参加でき、親子でふれあいながら乳幼児の成長に良い効果を生み出すリズム活動を展開している。幅広い年齢層の親子が参加し、親子の交流の場として、親子で体を動かす場として役割も担っている。在宅の親子の運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して行った。	【最終:令和7年度】 子どもでふれあいたが乳幼児の成長に良い効果を生み出すリズム体験教室は参加が減少傾向であることから令和5年度をもってリトミック教室は終了とする。令和6年度からは、小学校でも体育の授業にダンスを取り入れられ、子供たちの間でも様々な種類のダンスが行われていることからダンスの楽しさを知っていたり、だきつけ作りやダンスを通じての仲間づくりを目的としてキッズダンス教室を開催しています。また、初心者から参加し門幅として行います。 【目標設定の理由】 _	【事業の実績】 1. 参加者属性 : 0～1歳児コース 87組 2～3歳児コース 57組 計 144組 (増加) 度一回、令和5年度8回(増加) 市内からの参加85%、ついで東近江市10%であった。 2. 満足度:大変満足、満足が100% 3. 参加頻度:初めて 16%、2～5回 60%、6回以上24% 4. 情報収集先:市広報 45%、ちらしを見て32%、知人の照会 18%、ホームページを見て5%	【事業の効果・ねらい】 天候に左右されず、親子ともとのびのびと活動できる広い空間である体育館での実施が好評であり、乳幼児の成長に良い効果があるとして長年多くの親子に参加していただいている。在宅親子の交流の場として、親子で体を動かす場として役割も担っている。在宅の親子の運動不足やストレス解消につながるよう予防策を強化して行った。 【事業実績】 1. 参加者属性 : 0～1歳児コース 87組 2～3歳児コース 57組 計 144組 (増加) 度一回、令和5年度8回(増加) 市内からの参加85%、ついで東近江市10%であった。 2. 満足度:大変満足、満足が100% 3. 参加頻度:初めて 16%、2～5回 60%、6回以上24% 4. 情報収集先:市広報 45%、ちらしを見て32%、知人の照会 18%、ホームページを見て5%	【評価項目】 ＜自己評価＞ 4 時代背景と家庭環境の変化から、募集人数が頭打ちしている。令和5年度も引き続き継続開催いたしましたが、参加人数は思わしくなく令和5年度をもつて廃止とします。実施形態を見直し、要望があれば今後取り組むことを企画します。	
90⑧	安土文芸の郷指定管理事業＜能楽教室＞	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	歴史豊かな地域にて、安土城に能舞台があった史実から『能楽教室』を開講する。歴史を低くして多くの人々に親しみやすく、安土城から学べる本物思考の教室として開催し、伝統芸能の振興と心身の鍛錬を通じて、地域文化振興の場への貢献を目指す。	観世流シテ方の講師を招き、月2回の指導および稽古を行った。年間47回講座を実施し稽古および発表会、修了式などを行った。また、受講生は7名であった。稽古は、観世流シテ方の団体の指導を行い、それぞれのレベルに合わせた、親しみやすい丁寧な指導を行った。新規受講生の申込を行ったが希望者がなく、令和5年度をもって終了とした。	【最終:令和7年度】 能楽教室については令和5年度をもって終了 【目標設定の理由】 _	【事業の効果・ねらい】 習い事が多種多様で選択が豊富な現在、伝統芸能という特異で希少な分野を手がけたい人材確保が重要になる。現受講者は若者から高齢者まで幅広い年齢層で構成され、また高齢化社会に伴い年齢を重ねれば利点から、伝統芸能の稽古という堅い印象を取り除き、誰もが挑戦できる分野として認識をもってもらいたくことが重要だと思われる。 【事業実績】 1. 参加者属性 : 受講生の割合:女性5名、男性2名 年に1回の発表会と年度終了時に修了式を実施した。毎月2回の稽古を継続して開催した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 令和5年度新規募集を行ったが希望者がなく、受講生も年々減少していることから新年度への継続は困難と考え令和5年度をもって終了とした。	

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
9②	安土・文芸の郷指定管理事業<貸館>	文化観光課(安土・文芸の郷振興事業団)	文芸の郷には、文芸セミナーヨ(音楽ホール)、あづちマリエート(体育館兼多目的ホール)、安土城天主 信長の館(展示館)、その他グラウンドやテニスコートなどのスポーツ施設があり、利用者への公平公正な判断基準に則り施設を貸し出しを行っている。	「文芸セミナーヨ」では、市内申請者に対し、6か月と3日前から予約受付を開始し、競合する場合は抽選にて決定している。市外申請者に対しては、6か月前から予約受付を開始する。 「体育施設」では、市体育協会加盟団体、スポーツ少年団等(当事業団が定める)に、優先的に年間希望調査を行っている。決定後、市外競技団体等事前申し込みの受付を行っている。 日常のクラブ活動等の日程調整は1か月ごとに調整を行い、その後は随時受付を行っている。 「安土城天主信長の館」では、団体、個人の入館に対応している。また、隣接する安土城考古博物館との共通券の販売も行っている。	【最終:令和7年度】 - 目標設定の理由】 - 目標設定の理由】	【事業の効果・ねらい】 公共ホールでは県内唯一であるバイブオルガンを設置している音楽専用ホール、冷暖房設備のある体育館等、文芸の郷公園の特徴を活かすことにより、文化、スポーツの振興を図る。 また、貸館にあつては、市条例や指定管理の協定に準拠しているため、これらの規程に則り実施している。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文芸セミナーヨ(音楽ホール)、あづちマリエート(体育館兼多目的ホール)、安土城天主 信長の館(展示館)、その他グラウンドやテニスコートなどのスポーツ施設があり、利用者への公平公正な判断基準に則り施設の貸し出しを行っている。	各施設において開設以来30年が経過し、施設、設備等の老朽化、経年劣化が認められ、また、コナラ館及び施設改修による休館により利用者が激減したが、利用者が使いやすい施設を目指します。

3 地域文化の継承と発展

① 地域に根ざした文化活動の継承と活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
10	ふるさと文化育成事業(地域まちづくり支援交付金事業)	各学区まちづくり協議会(まちづくり協議課)	各学区の特性に応じた方法で歴史文化や地域資源を後世に継承していくため、まちづくり支援交付金を交付し、地域に根ざした文化活動の継承と活用を行う。	各学区において、歴史講座や文化祭、生涯学習講座等の開催やサークル団体への助成等、地域の文化資源を活用した取り組みを行い、地域の伝統・文化および郷土芸能の振興を図る。	【最終:令和7年度】 各学区において、地域の伝統・文化に關わる講座や催しを実施する。 【目標設定の理由】 地域の歴史・文化の継承のため。	【事業の実績】 近年のコロナ禍においては多くの文化事業が中止又は規模を縮小しての開催となっていたが、令和5年度は各学区の地域特性を活かした各種イベントや文化講座に取り組み、各学区の事業の一環としては、歴史発見講演会、クリスマスコンサート、新しうき教室、手作り味噌づくり教室、歴史まちなみ保存活動、書道展、菊花展、寄せ植え教室、地域の歴史・文化・風土親子学習会など多種多様な文化芸術活動が開催された。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞各学区まちづくり協議会において、文化祭や講座を開催し、地域の歴史文化や地域資源に関する学習の機会を設けることができた。 ＜評価に対する数値等＞各学区で年々2～3回程度講座や催しを開催できた。	今後も各学区まちづくり協議会において、事業の検証・評価、見直しを行いながら、地域文化の保全、継承のため、新たな取組の創出を検討する。また、地域文化に対する住民理解・意識醸成の向上を図る。
11	文化団体活動支援事業	文化振興課	生活文化や芸術に親しむことのできる環境の醸成および、活動発表の場となる文化祭等の開催支援の要求があった。 ①「近江八幡市文化団体活動事業補助金」…文化団体連合会への支援を通して、地域での活発な文化芸術活動を推進し、市民が生き生きとした、活力ある地域づくりに寄与する。 ②「近江八幡市まちづくり芸術振興事業補助金」…補助金の交付により市内の文化団体が行う文化芸術活動を支援することで、市の文化芸術の発展に寄与する。	①近江八幡市文化団体連合会 ②市内文化芸術団体の事業に対して、補助金を交付し、地域での文化芸術活動の活性化を図る。 ③は公募し、応募のあった団体の事業について、文化振興審議会における審査を通して、採択団体へ補助金額を決定・交付する。双方補助対象経費の2分の1を補助する。	【最終:令和7年度】 市内文化芸術団体の活動を支援し、文化によるまちづくりの実現を目指す。 【目標設定の理由】 誰もが多様な文化活動に参加したり、文化芸術に触れる機会を拡充する必要があったため。	【事業の実績】 ①「近江八幡市文化団体連合会」・市民文化祭や市民音楽祭、文化講演会等を開催。また、機関紙「塔映」を発行。 ・富士宮市文化連絡協議会との交歓研修会の開催。 ②「まちづくり芸術振興事業補助金交付団体」・5団体に補助金(計2,681千円)を交付。(申請団体:6団体、申請額:4,310千円)	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文化振興基本計画に定める地域の文化団体による文化活動の推進に合致する事業であるため。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞前年度と比較し、より多くの市内文化芸術団体の活動を支援することができ、本市の文化芸術の水準向上と発展を図ることも、誰もが身近に文化芸術に触れる機会の拡充につながったため。 ＜評価に対する数値等＞補助金交付団体数:5団体(参考:昨年度実績 2団体)	・近江八幡市文化団体連合会が開催する事業について、他の文化芸術団体との連携を図り、より活性化・まちづくりの促進につなげる。 ・まちづくり芸術振興事業補助金については、より多くの団体に活用してもらうため、SNSなどを用いて様々な手法で周知を行う。

② 歴史や生活文化の理解のための地域人材の活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
12	人生伝承塾	生涯学習課	モノ作りの伝統や日本がこれまで培ってきた技術や精神等を持つ地域人材や企業、団体等が出席講座や見学や技能を児童・生徒に伝えることを通じて、地域人材の活用を図ると共に、児童・生徒へ技術や精神の継承を図る。	人生伝承塾の講師を冊子で紹介し、各校園での「ふさと教育」や授業づくりの支援を図る。	【最終：令和7年度】市内校園所や地域において事業を広く周知するとともに、講座や講演での講師依頼をスムーズに行うことができる。 【目標設定の理由】様々な分野で活躍されている方々の生き方や考え方を学び、生涯学習の一環として根付かせたいため。	【事業の効果・ねらい】近江八幡市教育委員会では、「ふさと学習」の推進を掲げている。子どもたちが自分の生まれ育った学区や近江八幡市の伝統文化、いろいろな分野で活躍する人との出会いを通して、生き方や考え方を学ぶことにより、郷土愛やふるさとに誇りをもつ心が育つ。また、自尊感情の醸成にもつながる。 高度情報化が進み、情報が氾濫している現代ではあるが、人と出会い、その生き方から感動的な体験学習をすることで、よりその効果が高まると考える。 【事業実績】人生伝承塾を「にこまるポケット」という名称にし、講師への施設と新規の講師登録を行った。講師リズを小中学校で閲覧できるように準備を進め、従来の紙媒体の冊子だけでなく、電子媒体で学校の校務パソコンからいつでも誰でも閲覧できるように整備した。	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	講師リストをねらいと合わせて周知し、更新していく必要がある。また、講師の活用状況についての調査を行う必要があると考えるので、各小中学校に活用状況を確認するとともに、新たな地域の人材の情報についても確認し、講師リストを更新していく。

③ 伝統文化の担い手の育成

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	瀬戸無形文化財保存事業	文化振興課				(No.6参照)	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	

④ ふるさとに愛着心を持てる仕組みづくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	学校給食「はちまんの日」の実施	学校給食センター	・やまのこ体験学習 次代を担う子どもたちが、森林をはじめとする環境および、近江八幡市の地理的特色や産業への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、学校教育の一環として、琵琶湖や琵琶湖を取り巻く森林環境を生かした体験型の学習を行う。 ・たんぼのこ体験学習 「食の教育」と食を生み出す「農の教育」を一体的に進めるために、学校教育の農家の皆さんの協力を得て、人の心を癒すものづくりを農業教育ファームとして展開することで、田畑を教室にして、知恵や心を育む地域ぐるみの学校づくりを目指す。	・やまのこ体験学習 市内小学校4年生が実際に森林に入り、木や草花などにふれ、森林に興味や関心を持つ。森林での体験を通して森林のはらきや重要性について理解する。 ・たんぼのこ体験学習 「食の教育」と食を生み出す「農の教育」を一体的に進めるために、学校教育の現場だけでなく、家庭、地域が一体となって子どもたちと関わり、具体的に農業を通じて身体・心を学んでいく。	【最終：令和7年度】参加校数：12小学校 【目標設定の理由】参加状況を調べるため	【事業の効果・ねらい】子どもたちの自然体験の減少が危惧される中、子どもたちが森林に入り、木や草花に触れたり、田植えや稲刈りを通じた農業体験をしたりすることは貴重な体験になっている。 【事業実績】たんぼの子体験学習では、様々な活動を通して、五感を使って自然と触れ合うことができた。田植えから稲刈りまでを行い、実際に食べることで、食べ物を大切にしようという意識が芽生えた。やまのこ体験学習は、沖島において、森林環境学習に取り組むことができた。市立12小学校すべてが参加した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市内12小学校全てで実施できたため。 【評価項目】障がい者・外国人の参加しやすい環境づくり ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞全ての児童が参加できる内容であったため。 【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞社会科・理科・総合的な学習の時間等と関連させて、五感を使った自然体験学習をとができたため。	および、近江八幡市の地理的特色や産業への理解と関心を深めながら、人と豊かに関わる力の育成を目指す。
13	やまのこ・たんぼのこ体験学習	学校教育課				(No.8参照)	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	

Ⅱ 歴史的文化遺産の保存と継承

1 伝統文化の保存と継承

① 歴史的遺産、伝統文化の継承と発展

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
14	茶道体験	幼児課	市内各地域で新興住宅地が増え、幼稚園や子ども園等に通う子どもも地元の子どもと、他市町からの移住者が混在するようになった。また、核家族化が進み、祖父母との交流が日常的に行われていたところと比較すると、家庭内での伝統・文化の継承も難しくなってきた。茶道に親しんだといわれる織田信長由來の近江八幡の子どもが、地域の方を講師に迎えてお茶会を経験することは、地域の文化に触れ、ふるさことに愛着をもつことにつながることを期待できる。	お茶席に必要な茶道具をそろえ、その使い方や茶道の歴史などについて話を聞く。 威かな雰囲気の中でお茶席ならではあいなさつや作法を体験する。 のお茶やお菓子を運んだり、いただいたりする。 (その他の子どもの活動や遊び) 耐すし体験 バイオオルガン鑑賞 松明・太鼓祭りの見学体験 篠田神社の歴史や仕掛け花火の話を聞く、安土城郭資料館見学、信長の面見亭、安土山・八幡山へ出かける	【最終:令和7年度】 地域の文化に触れ、ふるさことに愛着をもつ子を育てる 【目標設定の理由】 ふるさと教育推進のため	【事業の効果・ねらい】 お茶席に迎えてきた講師を通して、茶道の歴史や作法について聞かせていただいた。また、子ども一人一人がお茶を点て、改まった雰囲気の中でお茶会をするという事が貴重な体験となり豊かな経験につながった。 また、継続して取り組んでいることで保護者の中にも体験の実施に期待を寄せる声がある。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞お茶会体験を通して、子どもたちが作法や安土の歴史等に触れる機会となった。お茶会体験は一日だが、年間を通して地域体験などを行ってきたことで、伝統文化をより身近に感じることができ、ふるさことに愛着をもつきっかけとなったと考ええる。	各園の実態や実施状況に変化がみられるが課題解決や目標達成に向けて、茶道体験だけでなく、その他の伝統文化に触れる機会についても実施に向けて検討する中で、幼児の豊かな体験を保障していく必要がある。
15	図書館運営事業(地域資料のデジタル化)	図書館	平成29年度より事業開始。 貴重資料の劣化、変質への対応を行う。 地域資料の保存と公開を行うことにより、ふるさことに愛着と誇りを持つ市民を育成する。	図書館及び市が所蔵する貴重資料のデジタル化、及びホームページ上での公開等、デジタルデバイスを活用することで、利用者の利便性を図る。	【最終:令和7年度】 デジタルアーカイブのアクセシビリティを前年度比100%以上 【目標設定の理由】 「第2期近江八幡市立図書館サービス基本計画」指標	【事業の効果・ねらい】 デジタル化した資料を使って地域を知り、ふるさことに愛着と誇りを持てる文化を創ることができ、また、WEB上で公開することにより、地域の財産を全国に向けて発信することができる。 【事業実績】 貴重資料の適切な保存及び非米館型の研究利用に供する等、利活用を図ることができた。また、デジタルアーカイブを見て、問い合わせ等があった。デジタルアーカイブへのアクセス件数は、令和5年度:179,515件(令和4年度:425,561件 大幅な減少の要因は、カウント方法が令和5年度から変わったため。旧カウント方式では561,851件となり、増加した。)	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞デジタルアーカイブへのアクセス件数旧カウント方式で比較すると132%と大幅に増加した。(令和5年度:561,851件、令和4年度425,561件) 【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞来館せずとも貴重資料を閲覧することができ、小中学校等ではふるさと学習等への活用にも、市民の知る自由を保障することができた。	貴重資料のデジタルアーカイブ公開を通して、近江八幡市の文化資源を広く周知し、学校等へ幅広く活用してもらうよう、啓発する。
16	安土城天主信長の館自主文化事業(安土文芸の郷指定管理事業)	文化振興課(安土町文芸の郷振興事業団)	当財団は、文化芸術の振興にかかわる各種事業を推進し、以って、安らぎと活力あるよりよい地域社会の創造に寄与することを目的に事業を行つている。 安土城天主信長の館に設置されている「VR安土城シアー」のヴァーチャルリアリティ映像の機能を活かした事業を展開する。	『タイムスリップツアー』では、6月毎週土曜日に高感度の美しい画面で安土城創建当時の様子を解説入りでご覧いただき、安土城や城下町の様子を紹介しました。	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 平成27年4月にオープンしたVR設備を使った事業として、内容を一部見直しつつ継続して開催している。通常、一般放映している15分間のショートムービーだけでなく、マニュアル操作体験を通じてヴァーチャルリアリティの特殊映像で、安土城創建当時の様子を仮想実体験できる機会を提供している。 【事業実績】 タイムスリップツアー……参加者数147名、よかった・やや良かった92%、参加人数が限られるが、VRの建造上、通常の上映時間の合間の30分間で行う事業としては、最大限の内容である。参加者からはVR映像のリアルさや城・城下町の様子がイメージしやすいなど、好評な意見が多数である。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアクション＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞安土城天主信長の館に設置されている「VR安土城シアー」のヴァーチャルリアリティ映像の機能を活かした事業を展開でき、日常の上映では見ることのできない映像と詳しい説明を時間をかけて提供できる。 安土地域の歴史文化に根ざした事業を中心に、復元安土城主およびVR安土城の価値と魅力を引き出す学習会を開催できた。	今後も『タイムスリップツアー』は継続して開催する予定である。通常上映の合同で行う事業であることから、今後も午前中や開館前を中心に開催する。マニュアル操作は機械操作に慣れた職員でないと難しく、解説案内役と連携しての作業となることが準備日数が必要である。

② 豊かな自然環境の活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
17	西の湖ヨシ灯り展の開 催支援	環境課	ラムサール条約登録湿地で ある西の湖及びその周辺の ヨシ群落の保全に向けた啓 蒙を行うため、平成19年から 開催している。	西の湖ヨシ灯り展実行委員会より、西の 湖のヨシを素材にしたオブジェ「ヨシ灯 り」の作成を県内各地に呼びかけ、幅 広い年代層から作品を募集し展示し た。	【最終:令和7年度】 ヨシ灯り展の出展数450を目 標とする。 【目標設定の理由】 ヨシ灯り展を通じて、自然環 境保全の重要性を周知する ため。	【事業の効果・ねらい】 西の湖の環境保全に寄与するヨシの認知度が低 いことから、市民全般に対し自然環境保全の啓蒙 を行う必要があるため。 【事業実績】 ヨシの群落地であり、地域固有の自然がみられ、 文化的に重要な自然環境となっている西の湖でヨ シ灯り展を開催することで、次世代を担う子どもた ちを中心に環境保全の重要性について考えてもら う機会となった。	【評価項目】二ども・若者の参加状況 <自己評価> 3 <評価の理由> 創作者の参加状況を測るため。 <評価に対する数値等> 令和5年度 351点 (令和4年 度 351点)	ラムサール条約登録湿 地である西の湖の豊かな 利用を図るとともに、ヨシ 群落をはじめとした自然 の素晴らしさを次世代に 引き継ぐため、継続して 事業を実施する。

③ 人的資源の発掘と連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	人生伝承塾	生涯学習課				(No.12参照)		

2 文化財の保存と活用

① 伝統的建造物群保存地区の保存・活用

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	伝統的建造物群保存 地区保存事業	文化振興課				(No.2参照)		

② 無形文化財の保存

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
18	ライトアッププロジェクト事業	観光政策課	「文化芸術創造都市」近江八幡市では、八幡堀や重要伝統的建造物群保存地区、重要文化的景観の水郷、ヴォーリズ建築、安土城跡をはじめとする名勝跡、近江牛や湖魚を使った豊かな食文化など、地域の先人たちが守り育ててきた魅力的な観光資源が豊富にあり、年間多くの観光客が訪れている。しかし、当市は京阪神、中京圏からのアクセスが良かったため、滞在時間の短い通過型観光地となっており、滞在時間の短さや宿泊者数の少なさから、観光客に対する地元経済効果の低さが大きな課題となっている。これらの課題解決に向け、星間は一定の観光客で賑わう八幡堀とその界隈を、最新の照明技術や芸術性を加味したライトアップ(演出照明)により、昼とは趣の違う魅力的な夜間景観を提供し、観光客の長時間滞在や宿泊客の増加、地域経済への波及効果を高め、観光都市としての魅力の向上を図り、併せて八幡堀を良好な姿のまま、次世代へ継承していけるよう環境保存意識の醸成を図るため事業を開始した。	『八幡堀ライトアップ』の維持管理を行った。	【最終:令和7年度】 八幡堀の観光入込客数 164千人 【目標設定の理由】 ブランドデザイン向上に伴う誘客促進	【事業の効果・わらい】 八幡堀の夜間景観の構築により、歴史文化資産を活かした観光都市として、観光客の長時間滞在や宿泊客の増加、夜間の賑わいの創出を高め、その効果を八幡堀一帯に波及させていく。また、併せて歴史文化資産として、八幡堀を良好な姿のまま次世代へ継承していくために、保存意識の機運を高めることに繋げる。 【事業実績】 今年度は、八幡堀ライトアップの維持管理を行った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞八幡堀ライトアップの運営や各種観光施策に取り組み、多くの観光客に訪れた。また、併せて歴史文化資産として、八幡堀を良好な姿のまま次世代へ継承していくために、保存意識の機運を高めることに繋げる。 入込客数 205千人。	ライトアップによる自然環境や住民への配慮。 事業効果や地域の意向を踏まえ、ライトアップエリアの拡大検討。
19	指定文化財保存事業	文化振興課	昭和25年に「文化財保護法」が施行され、第3条において地方公共団体の任務として、文化財の保存が適切に行われるように、努めることが定められた。本市の古い建物でも、「近江八幡市文化財保護条例」を定め、文化財の保存のための措置を講じ、もって文化遺産の向上に資することとしている。	文化財を適切に保全し、後世に伝えていくためには、文化財が破損等をした場合、その都度速やかに所有者が保存修理等を行う必要があり、この保存修理等に対して補助金を交付することにより支援を行う。 令和5年度は、重要文化財長命寺エンシンボンツ修繕事業、特別史跡安土城跡災害復旧工事、重要文化財長命寺文書修理事業の3件に対して補助金交付による支援を行った。	【最終:令和7年度】 指定文化財の保存・活用のための情報発信と補助の継続。 【目標設定の理由】 文化財所有者・団体を支援することで文化財の継承を継続する。	【事業の効果・わらい】 近年の少子高齢化や生活様式の変化により、文化財を取り巻く環境も大きく変化し、寺社の構成員が著しく減少するなど文化財の担い手が著しく不足している。そのため、文化財所有者や寺社の構成員だけでは、文化財を維持管理することが難しくなっており、文化財の保存のための措置のひとつとして、修理等に対する補助金交付による支援に取り組み。 【事業実績】 経年劣化による修理事業とともに、防災・防犯設備の整備事業に対応し、文化財の適切な保存を行うことができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞助成を希望する文化財所有者・団体すべてに補助金を交付することができた。 ＜評価に対する数値等＞目標3団体→3団体すべてに交付	今後も破損等により修理の必要な文化財保存修理事業に対し、補助金の交付による支援を継続する。

⑤ 体験学習等の文化財を学び親しむ機会の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
23	歴史文化資産普及啓 発事業	文化振興課	近年の少子高齢化や過疎化の進行する社会の中、市民が歴史文化や文化財への理解を深め、またより身近に感じること、文化財の保存、活用を行い、まちづくりに活かすことが望まれている。そのため、市内の歴史文化に興味を持ってもらうための講座や体験学習などを要実施する。	ヴォーリス建築及び同時時代の近代建築調査について、関西学院大学ヴォーリス研究センターを中心とした調査チーム、滋賀県文化財保護課、市による連絡協議会にて調査方針や進捗確認などを行い、まちづくりに活かすこと、文化財の保存、活用を希望している。そのため、市内に残る歴史文化遺産の調査を行いました。市広報での歴史情報発信の連載、講座の実施、対応を行いました。	【最終:令和7年度】 紙媒体、デジタル双方での情報発信の継続。 【目標設定の理由】 情報発信により、郷土愛と文化の重要性を伝播する。	【事業の効果・ねらい】 歴史遺産、伝統文化の保存・保全・継承には継続的な資金が必要とされることもあり、文化的資源の価値に対して、担い手や市民が理解し、関心を深めて、誇りに思うことが重要である。さらに、平成31年の文化財保護法改正により、歴史文化資産をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、保存・継承に取り組んでいくことが求められている。 【事業実績】 市の広報に「ふるさと再発見」を12回記事を掲載し、令和5年はまちの名前をテーマに近江八幡市内の地域の名前の発祥について情報発信を行った。ふるさと観光塾で近江商人と豊臣秀次について講座対応。東中学校、西中学校においてふるさと学習の講師として町の歴史を紹介した。またヴォーリス建築及び同時時代の近代建築調査について、関西学院大学ヴォーリス研究センターを中心とした調査チーム、滋賀県文化財保護課、市による連絡協議会にて調査方針や進捗確認などを行いました。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞市の広報「ふるさと再発見」まちの名前を12回シリーズで掲載した。 ＜評価に対する数値等＞広報「ふるさと再発見」掲載12回 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞ヴォーリス建築及び同時時代の近代建築調査について、関西学院大学ヴォーリス研究センターを中心とした調査チーム、滋賀県文化財保護課、市による連絡協議会にて調査方針や進捗確認などを行った。また市内の歴史文化遺産についての調査を行った。 ＜評価に対する数値等＞近代建築調査調整会議 2回実施、歴史文化遺産調査4回実施。	今後も地域の歴史・文化について広報や講座対応により情報発信を行う。

Ⅲ 文化交流と地域産業の振興

1 文化交流の促進

① 海外の友好都市との文化交流の促進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
24	国際交流事業	まちづくり協働課	多くの市民に国際姉妹都市の文化や歴史、現地の人々に触れることの意義や、姉妹都市であることの誇りを広げ、多くの市民の理解を促進する。	海外友好都市との親善交流促進とこれからの国際交流事業を公益財団法人近江八幡市国際協会との協働により実施・充実を図る。	【最終:令和7年度】 国際姉妹都市提携を締結している都市について、多くの市民の理解を増進する。 【目標設定の理由】 国際親善交流の促進。	【事業の効果・ねらい】 多くの市民に国際姉妹都市の文化や歴史、現地の人々に触れることの意義や、姉妹都市であることの誇りを広げ、多くの市民の理解を促進する。 【事業実績】 ミシガン州友好親善使節団の受け入れを行い、5組のホームステイを実施し、市内観光を通して近江八幡市の魅力を伝えることができた。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞国際交流を深めるための講座の開催や、グラントラビッツ市の来賓受入やミシガン州友好親善使節団の来賓受入等により、お互いの文化や歴史を知り深く交流することができた。 ＜評価の理由＞国際交流を深めるための講座の開催や、グラントラビッツ市の来賓受入やミシガン州友好親善使節団の来賓受入等により、お互いの文化や歴史を知り深く交流することができた。	友好姉妹都市を周知する事業や、友好姉妹都市等からの使節団の受入対応、また親善使節団の派遣の支援や国際交流を深めるため、継続して事業を行う。
25	朝鮮通信使関連推進 事業	文化振興課	市内にも朝鮮人街道として足跡を残す「朝鮮通信使の歴史に基づき、当時の文化や国家間の善隣友好の精神を後世に伝える、地域資源としてまちづくりに活用しよう」と、全国の通信使に縁をもつ、全国の自治体等と連携する朝鮮通信使縁地連絡協議会(現NPO法人)に平成11年度から加入した。	NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会(縁地連)に加入し協議会の啓発や支援と事業協力(通信使の意義の啓発や日韓友好親善の支援等)及びユネスコ世界の記憶(世界記憶遺産)登録を契機とした事業を実施する。	【最終:令和7年度】 朝鮮通信使の精神を伝える。 【目標設定の理由】 相互を尊重する平和外交を伝えることで、国際交流の理念につながるため。	【事業の効果・ねらい】 朝鮮通信使の歴史的意義や当時の文化、通信使の記録を後世に伝える必要がある。 【事業実績】 NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会(縁地連)の活動を通して、当時の文化や国家間の善隣友好の精神を後世に伝え、地域資源としてまちづくりに活用しようとする通信使に縁をもつ、全国の自治体等と連携を一定図ることができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と連絡をとり、連携を図ったが、令和5年度に主だった活動の実績はなかった。 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 1 ＜評価の理由＞普及啓発活動はなかった。	ユネスコ世界の記憶(世界の記憶遺産)の登録を契機に、今後さらに朝鮮通信使の歴史的意義を広く周知し、地域資源を活用した取り組みを展開する。

② 夫婦都市である富士宮市等との文化交流の促進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
26	広域観光および友好 都市交流事業（富士 宮市親善訪問）	観光政策課	市民団体「富士と琵琶湖を 結ぶ会」の富士宮市との交 流事業が、都市間の夫婦都 市提携及び文化交流を行う きっかけとなった。両市の交 流の歴史と絆の深さを本市 市民らへ伝えるとともに、自 らの文化を再認識すること を目的に、夫婦都市である富 士宮市との文化交流の促進 を図る。	「富士と琵琶湖を結ぶ会」へ夫婦都市 交流事業を委託し、同会が継続して実 施する富士宮市親善訪問事業として、 富士宮市への訪問と市民同士の交流 を行う。	【最終：令和7年度】 親善訪問の市民参加者数 25名 【目標設定の理由】 コロナ禍前の令和元年度実 績	【事業の効果・ねらい】 両市の交流の歴史や深い繋がりや後世へ伝える ため。 【事業実績】 夫婦都市親善事業として第67回夫婦都市親善訪 問（令和5年7月30日（日）～8月1日（火））を実施し た。 本市は、登山コース15名（うち運営委員等2名、 事務局1名）、トレッキングコース6名（うち運営委 員等1名、事務局3名）計21名が富士宮市を訪 問し、親善交流を行った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞昨年までは、コロナ禍の影響により事 業規模を縮小して実施してきたが、一般公募を行い通 常どおり実施することができた。また、登山コースに加 え、広く参加してもらいやすいように新たにトレッキン グコースを創設し、取り組むことができた。 ＜評価に対する数値等＞参加者数 21名	単なる友好親善だけでな く、多分野にわたる都市 間交流の歴史と深さを本 市市民らへ更に伝えてい く必要がある。 そのためには、市民団 体組織ではなく、市民の 取組みではなく、市民レ ベルの事業として市民レ ベルでの自主的な実施を求 めていく必要がある。
27	夫婦都市児童相互交 流事業	学校教育課	夫婦都市提携を結んでいる 富士宮市と近江八幡市の小 学生が、豊かな自然や歴史 活動を通してお互いの親交 を深め、健全な青少年の育 成を図るとともに、両市間の 友好を深め、両市の今後の 発展に寄与する。	2泊3日の宿泊型体験学習。	【最終：令和7年度】 参加校数：12小学校 【目標設定の理由】 参加状況を測るため	【事業の効果・ねらい】 両市では、児童交流会だけでなく、行政・スポー ツ・文化などいろいろな面で交流し、友好と親善を 深めているとともに、災害時の相互応援の協定も 結ばれている。これまでの長い歴史を大切にしま ながら、新しい時代に向けてさらなる夫婦交流を深め ていくことが期待されている。 【事業実績】 本事業は隔年でお互いの市を訪れ、市の魅力を 伝え合うことで、両市の良さを感じると同時に、ふる さと近江八幡の良さを再確認することにつながって いる。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市内全12小学校より、児童が参加し たから。	市立小学校12校より参加 者を募り、両市の代表者 として交流を行う。お互 いの市の魅力を伝え合 い、学び合う活動を実施 すると、両市を愛する心情の 育成を目指す。

2 地域資源を活かした産業や観光の振興

① 近江八幡版DMOの推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
28	観光ブランディング事 業	観光政策課	市内には観光資源や事業者 が数多く存在するものの、そ れらの優位性を活かして、地 域外の資金や人材を呼び込 むという持続的な地域経済 の活性化に結びついていな い。 これらのポテンシャルを活か して、当市の観光地としての 競争力を更に高めることを目 的として、行政や観光事業 者が協力して、当市ならで はの観光資源を磨き上げ、そ の魅力を発信する「観光地 ブランディング」に取り組む。	・地域おこし協力隊（観光まちづくり）3 名の配置（既存2名＋新規1名）…観光 地域づくり法人（DMO）の活動支援 ・観光振興計画の推進	【最終：令和7年度】 観光各満足度 87% 【目標設定の理由】 ブランド化による観光客の満 足度向上	【事業の効果・ねらい】 観光資源のブランド化を進め、観光客や地域住民 の満足度を向上させる。 【事業実績】 観光振興計画の推進。 地域おこし協力隊活動報告会の開催（2月5日）。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞令和5年3月に改訂した観光振興計画 に基づき、観光理念「近江八幡ライヴスタイルツーリス ム」の推進に向け、各種施策を実施しブランド化に取 組めた。 また、地域おこし協力隊の活動内容を広く周知するた めに、報告会を初めて開催することができた。 ＜評価に対する数値等＞観光各満足度84.7%（令和4 年度）	観光地としてのブラン ディングは、地域の関係 者が一体となって推進す べきものであり、その舵 取り役として観光地づく り法人（DMO）の役割が 期待される。DMOがその 役割を發揮できるよう、そ の体制強化について、引 き続き支援が必要であ る。

② 西の湖の環境を活かした自然循環モデルの推進

③ 沖島と湖魚文化(料理)を活用した取り組み

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
29	沖島離島振興事業	企画課	2013年7月に沖島が離島振興対策実施地域に指定されたことを受け、同年10月に島民主体で島おこしを進めるため、沖島町離島振興推進協議会が設立された。この団体の活動を官民連携で推進するため、滋賀県と協調して団体事業への助言・支援及び活動費を補助している。	沖島町離島振興推進協議会が実施した下記の事業に対し、滋賀県と協調し補助金を交付した。 ・空き家利活用事業：島内の空き家を借り上げ、民泊施設、資料館として活用。 ・沖島PR事業：おさしまるしよの開催等。 ・来島者受入環境整備事業：献喜対策、散策道整備。 ・定住促進事業：空き家対策事業、高齢者の買い物支援、見守り事業。 ・第2期離島振興計画策定事業：島民意見の集約、知事との意見交換。	事業実施により 目指す姿・目標 【最終：令和7年度】 26,000人 【目標設定の理由】 来島者数	【事業の効果・ねらい】 沖島は、人口減少と高齢化の進行、主要産業である漁業従事者の減少が大きな課題となっており、交流から定住に繋げていく取組と、島の主要産業である漁業の振興、高齢者が安心して最期まで島で暮らせる取組を強化する必要があるため。 【事業実績】 4月2日に「おさしま資料館」が再館し、漁具や農具、沖島の暮らし等の展示が行われ、島文化の継承が行われている。また、湖魚を味わえる「おさしまるしよ」の開催や散策道整備等、島民が主体となり大学等と連携した交流人口創出に向けた取組が再開された結果、来島者数は、過去最高の約26,000人を記録した。	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞島の課題も多いため、島民の理解と協力を得ながら活動を行う必要があり、島内団体で構成される沖島町離島振興推進協議会に対し、補助金交付による側面支援を行うことで、島民が主体となった実施に即した取組みを支援することができる。 【評価項目】事業実施による波及効果 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞平成25年7月に離島振興対策実施地域として指定され、島民による主体的に離島振興を行う体制が整えられ、積極的なPR活動等を行ったことから、平成25年に12,800人だった来島者数が、令和5年には25,924人を記録した。	離島振興や漁業振興など様々な取組を行い、来島者数の増加に繋がっているが、依然として止まらない人口減少と高齢化の進行、主要産業である漁業従事者の減少が大きな課題となっている。島の主要産業である漁業の振興、高齢者が安心して最期まで島で暮らせる取組、空き家を活用した移住定住施策を強化する必要がある。

④ 市の歴史文化を活かしたロケツーリズムの推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
30	VR安土城事業	文化振興課	平成23年度に市内観光地への誘客や市民の文化遺産に対して意識の醸成を図り、新たな観光資源として活用するために、VR安土城の制作を行った。平成29年度にはさらに、周遊ルートの構築のためストーリーミュージアムの運用を開始した。	ヴァーチャルリアリティにより仮想空間で再現され、映像に入り込んだような臨場感を体験できるVR安土城を出版社やテレビ局など多くのメディアで利用してもらうことにより、利用実績を増加させ、全国に当市の魅力を発信するきっかけとする。また、VRとGPSを連携させ、スマートフォンやタブレットで当時の風景を現地で見たいというストーリーミュージアムアプリの運用により、当アプリ新規利用者の獲得を目指すと共に既存のアプリ利用者及び観光客の満足度を増加させる。	事業実施により 目指す姿・目標 【最終：令和7年度】 VRを通じて安土城の情報発信を継続して行う。 【目標設定の理由】 特別史跡安土城跡の全国的な認知向上により市民の愛着を高める。	【事業の効果・ねらい】 天王寺の建物が残っていない城跡は、一般の観光客の興味を引きにくく、歴史資産の活用が非常に困難である。安土城跡も特別史跡に指定されているが、天王寺の建物が現存しておらず、知名度と比べて、その内容の認知度が低い。そのためVRによる可視化によって認知度を高めるために継続していく必要がある。 合わせて観光地のルートに含めるためにもストーリーミュージアムで城下町を含める必要がある。 【事業実績】 VR作品『物語安土城』のメディア等における使用が、テレビ放送や歴史雑誌等で掲載されることが多いため、安土城の復元のイメージについて広範面へのPR効果は期待できる。 TOPPAN株式会社や関連事業者とのさらなる連携や、VR及びストーリーミュージアムを運営している自治体と協力し、これらの事業の一層のPR等が必要である。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞VRのメディアへの公開について一定の効果があった。 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞出版物、テレビ等のメディアへのコンテンツの許可を行えた。	引き続きVR安土城のコンテンツをメディアに公開していく。

IV 文化芸術創造都市の創造

1 多様な文化活動の推進

① 市民主導の文化芸術活動の育成

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	文化団体活動支援事業	文化振興課				(No.11参照)		

② 地域間交流・世代間交流等による新たな文化の創造

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
31	多文化共生推進事業	まちづくり協働課	今後、新たな外国人材の受け入れにより、外国人住民人口は増え、また長期在住で定住化する外国人住民が増えつつある。外国人住民が増えることで、外国人住民と日本人住民との交流の機会が増え、多文化共生のまちづくりが実現する。外国人住民と日本人住民との交流の機会を増やすことが、多文化共生のまちづくりの推進に必要である。	外国人住民とともに暮らす外国人住民の増加に伴い、外国人住民の定住化を促進するため、外国人住民の定住化を促進するための施策を実施する。	【最終：令和7年度】 全ての住民が、国籍、宗教、言語等の違いによらず、共に生活する「多文化共生」社会の推進を図る。 【目標設定の理由】 外国人住民とともに暮らす外国人住民の増加に伴い、外国人住民の定住化を促進するための施策を実施する。	【事業の実績】 交流イベント(わいわいフェスタ)等の事業を実施した。また、多くの問い合わせに対し、通訳業務、翻訳業務(ポルトガル語・英語・やさしい日本語)の発行や、市国際協会のFacebook等により情報の発信に努めた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市国際協会と連携し、日本在住の外国人との交流イベント(わいわいフェスタ)や多文化共生講座を開催し、住民に対し、様々な国の文化や風習について知る機会を提供できた。 また、ボランティアによる日本語教室について、市国際協会を通じて支援することができた。 外国人相談窓口では、1,278件の相談に対応できた。 ＜評価に対する数値＞外国人住民との交流会を1回開催、多文化共生の講座等3回以上開催し、通訳・翻訳業務では1,200件以上対応した。	多文化共生推進に係る事業を実施するとともに、引き続き(公財)近江八幡市国際協会と連携し、啓発事業や通訳、翻訳業務を実施するなど、外国人住民を含む市民に向けた普及啓発を図り、暮らしやすい多文化共生のまちづくりに取り組む。あわせて、やさしい日本語の話し方講座も積極的に開催する。

③ 体験や参加、参画機会の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	茶道体験	幼児課				(No.14参照)	4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	
32	市民文化祭共催事業	文化会館	市民の文化芸術や文化団体等の活動の場を提供する。事業開始時期：平成23年度以降	大ホール・舞台で芸術発表等を行う。また、小ホールをはじめとした館内各地で展示等を行う。	【最終：令和7年度】 参加団体が主体となり本事業を作り上げていく姿。 【目標設定の理由】 市民の自主的な文化活動ができる事業としたため。	【事業の効果・ねらい】 市内文化団体活動の成果を発表する場を提供する。 【事業実績】 令和5年度 入場者実績約300名	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞本事業の順番や演目等を参加団体で考え、実施したため。	より多くの市民の参加が得られるよう、内容等を工夫する。
33	各学区文化祭	各学区まちづくり協議会(まちづくり協働課)	各学区が文化活動の拡充を図ることを目的とし、活動の成果・発表の場づくりとして文化祭を開催。	日ごろのサークル活動の発表の場を提供し、学区民が文化活動の成果・発表を楽しむとともに、文化活動に対する参画意欲を促す。	【最終：令和7年度】 各学区の文化活動の拡充を図り、活動の成果・発表の場づくりとして文化祭を開催する。 【目標設定の理由】 日々の活動について発表の場を設けることで学区民の文化活動を推進するため。	【事業の効果・ねらい】 各学区が文化活動の拡充を図るために活動の成果・発表の場をつくり、文化によるまちづくりを推進する。 【事業実績】 各学区で趣向を凝らした文化祭が開催され、学区民の作品展示や利用団体のステージ発表、アトラクションなどが行われた。 令和5年度は発表、パズル、キッチンカー等のコロナ禍以前に実施していた内容を盛り込んだ学区もあり、多くの学区民が参加し盛況であった。(来場者数：八幡学区650人・北里学区600人・馬淵学区の作品展示数1,144点、展示参加人数371人)	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞各学区で地域の文化団体や学区民の参加協力のもと文化祭が開催され、多数の来場者が訪れるなど文化活動の推進に寄与しただけでなく、地域住民の交流の機会となった。	各学区まちづくり協議会において、今後も文化祭が地域の文化活動への住民理解・意識醸成が高まるような機会となり、より多くの人が参加できる文化祭となるよう、事業内容を見直し、検討を実施していく。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4. 妥当、3. ほぼ妥当、2. 改善、1. 見直し	課題・今後の方向性
34	音楽振興事業	文化振興課	2001年に文化芸術振興基本法が制定され、以来、時代を担う子どもたちに豊かな芸術体験を提供していくことは、文化政策の重要課題の一つとなっている。 子どもたちから様々な芸術に触れることは、あらゆる人々が文化芸術を享受できる環境づくりには不可欠であり、少子高齢化が進む社会変化の中で、人々がより創造性を高め、いくことが重要視される。 豊かな芸術体験を通じて得られ育まれる情緒豊かな感性や創造性は、豊かな地域社会を築く未来世代を育成することにつながる。ことから、プロの演奏家を学校へ派遣する事業として「お出かけ演奏会」を、また、当市の特色を打ち出した文化事業として、県最大のバイオルガンを活用したワークショップ、「キッズオルガン教室」「バイオルガントーン探検隊」がスタートした。	【お出かけ演奏会】市内の園所、小学校へプロの演奏家を派遣するアトリウム事業。対象は、未就学児及び児童。子どもたちの日常的な空間の中で、身近で響きを感じる距離感を大切にしながら、本物の楽器や音楽に触れる時間を創出する。16世紀に安土・桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、古楽器(声楽・フルート・ポルトギーゼ・バイオルガン)の演奏を通してふるさと学習を行う。 【キッズオルガン教室・バイオルガントーン探検隊】県最大のバイオルガンを活用したワークショップを実施。	【最終：令和7年度】 令和7年度実績：3事業、累計80回 【目標設定の理由】 体験的な学習の中で、郷土の歴史を学び文化にふれるふるさと学習への関心を高め、その発展に努める質や能力の開発機会を創出する。教養を養い、情緒を育む事業を継続実施する。	【事業の効果・ねらい】 地域の「ふるさと学習」として、歴史や音楽、芸術文化を題材に、子どもたちの文化芸術体験機会の創出に注力する。当市独自の文化事業として、対象年齢に合わせたカリキュラムに工夫を凝らし、歴史や音楽、芸術への興味喚起を図る。 文化芸術は、豊かな人間性を涵養し、創造性と感性、コミュニケーション能力など、人間にとって重要な資質を形成すること。とりわけ、子供たちが文化芸術の育成に大きな効果が期待される。 【事業実績】 「お出かけ演奏会」を4校9園所に対し15公演を実施。 「キッズオルガン教室」は児童1名につき計5回、「バイオルガントーン探検隊」は計1回開催し、県最大のバイオルガンをを通して楽器やオルガン音楽や楽器の普及と啓蒙を行った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞当市、独自の事業であり、近隣市町に類似事業がない点 参加児童(未就学児)だけでなく、児童(未就学児)の体験を通して、家族にとっても気軽に音楽会へ足を運び、芸術への教養や知識を広げる機会となっている点。 ＜評価に対する数値等＞お出かけ演奏会＝15公演、キッズオルガン教室＝5回(児童一人につき)、バイオルガントーン探検隊＝1回	市独自の事業の強みがいかに、今後も継続的に事業を行っていく。
35	ブックスタート事業	図書館	平成19年度より事業開始。 赤ちゃんの健やかな成長を応援し、家庭で読書を楽しむきっかけづくりとする。 平成24年から「スマイルを守らせないで！」と、スマイルが赤ちゃんの心や脳に与える影響を一般社団法人日本小児医会発行の「チランを渡して伝え、大人からの温かな言葉かけが何より大事であり、絵本を介して親子の楽しい時間を作ってもらおう」を促す。	親子で絵本を読む楽しさをメッセージとして伝え、赤ちゃんにとって初めての絵本(ファーストブック)を1冊プレゼントし、希望者には図書館の利用カードの作成を行う。また、必要に応じて、絵本や読み聞かせについての質問に答えたい。	【最終：令和7年度】 赤ちゃん絵本の貸出冊数前年度比90%以上 【目標設定の理由】 家庭での赤ちゃんへの読み聞かせを定着させる。100%以上でないのは赤ちゃん絵本以外の絵本の利用もあるためとした。	【事業の効果・ねらい】 市内のすべての4ヶ月児554人(令和4年度は639人、13%減)とその保護者にメッセージを伝え、ファーストブックを手渡すことができた。そのうち400人が図書館の利用カードを作成した。赤ちゃん絵本の貸出冊数は31,865冊で、令和4年度31,905冊をわずかに下回った。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞赤ちゃん絵本の貸出冊数(赤ちゃん絵本にどれだけ親しんだかわかる数値) 前年度比99.9%と微減。赤ちゃんの数の減少(13%減)を鑑みると一人当たりの貸出は増加しているといえる。 令和5年度 31,865冊 令和4年度 31,905冊 令和3年度 35,100冊 令和2年度 28,526冊(コロナのための休館があり、貸出数減)	絵本を楽しむきっかけづくりとして継続して実施し、赤ちゃんへの温かな言葉かけの大切さを保護者に伝え、引き続き図書館の利用カード登録を促し、カードがあれば、気軽に親子で図書館や移動図書館で本を借りることができる状況をつくる。 また、ブックスタート後も絵本を楽しめるよう、乳幼児向けおはなし会(おはなしリーディングサービス)充実させ、児童サービス(乳幼児サービス)に対応できる職員の育成に努める。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
36	図書館運営事業(おはなし会)	図書館	平成9年より事業開始。幼い頃から絵本に親しむことで、生涯にわたる読書習慣を身につける。また、4ヶ月健診時のブックスタートから継続した乳幼児への読書支援を行う。	近江八幡図書館で月1回、安土図書館で月1回開催し、乳幼児向けの絵本2冊の読み聞かせや、手遊び・わらべ歌などを親子で楽しんでもらう。参加者にはスタンプカードをつくり、5回参加すると職員の手づくりのおもちゃをプレゼントする等、参加したくなるような工夫を行っている。会が終わった後、おはなし室を開放し、保護者同士交流を持ってもらえるようにしている。	【最終:令和7年度】 おはなしリーダの増加(前年度以上) 加入数の増加(前年度以上)	【事業の効果・ねらい】 子どもの読書離れが社会現象となっている昨今、生きる力をつける読書の習慣を幼い頃に身につけ、読書の喜びや楽しさを体験してもらうことが重要である。そのため、乳幼児期から親や祖父母と一緒に行う必要がある。また、保護者に向けて、乳幼児への言葉かけの大切さを伝えることができる場もある。また、おはなし会終了後はお母さん同士の交流の場としてももらえるよう努める。 【事業実績】 絵本を讀んでもらうことが楽しいことであるということ、親子で実感できる機会となった。同時に子どもは絵本があるのか、どのような絵本が乳幼児に合っているのかを知る場にもなっている。また、子育て世代の交流の場になりつつある。 令和5年度 近江八幡図書館:322人、安土図書館:125人、合計447人 令和4年度 近江八幡図書館:172人、安土図書館:55人、合計227人(安土図書館は8月から再開) 令和5年度から移動図書館はちっこブック号ミニ(8園巡回)では、貸出の他に毎回おはなし会を開催している。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞おはなし会参加人数 前年度比197%と大幅に増加したが、コロナ前と比べると少ない。(令和元年534人:比較84%) 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞赤ちゃん絵本の貸出冊数 前年度比99.9%と微減、赤ちゃん数の減少(13%減)を鑑みると一人当たりの貸出は増加しているといえる。 令和5年度 31,865冊 令和4年度 31,905冊 令和3年度 35,100冊 令和2年度 28,526冊(コロナのための休館があり、貸出数減)	ブックスタート事業へのフォローアップとしておはなし会を充実させる必要がある。また、館内のおはなし会だけでなく、移動図書館はちっこブック号ミニでの巡回時にもおはなし会を積極的に行う。そのための職員の読み聞かせのスキルアップが課題である。
37	図書館運営事業(ブックトーク)	図書館	読書離れを始める小学3年生から中学1年生が、読書の興味関心を抱き、読書の楽しみを知ってもらおう。	テーマに沿って、様々なジャンルから選んだおすすめ本8冊前後を紹介する。市内の公立の小学校3年生から中学校1年生を対象に各クラスにおいて授業時間(40分程度)に実施する。	【最終:令和7年度】 実施回数(小学3年生から中学校1年生の各学校各学年1回)	【事業の効果・ねらい】 近年子どもの読書離れが問題視されており、平成12年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され、読書環境の整備が義務付けられた。これを受け、当市では「近江八幡市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもに関わる家庭、校園、図書館が一体となって子どもの読書環境の整備に取り組んでいる。 自分の興味のある本だけでなく、本の世界の奥深さ、おもしろさを知ってもらえたら、直接子どもたちに働きかけができること、ブックトークを実施している。 【事業実績】 令和5年度は未実施。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 1 ＜評価の理由＞令和5年度は職員体制が整わず、未実施となった。 令和2年度はコロナ禍のため中止、令和3年度は生涯学習課主催で司書やボランティアのブックトーク実演をビデオに収め、市内小学3年生から中学1年生が視聴、令和4年度も視聴形式となった。	ビデオは、紹介された本への興味が湧きにくいという意見があり、対面での実施を目指す。そのためのブックトークができる職員の育成が必要である。
38	図書館運営事業(図書館見学)	図書館	図書館の役割や利用の仕方を学び、本や図書館への理解、関心を高める。自分(本人)の利用カードを作成し、実際に本を借りてもらうことで、自分の意志で本を借りることが出来ることを知ってもらおう。機会とし、図書館利用につなげる。	市内公立小学校3年生を対象に図書館の業務内容や施設等の説明、及び、ミニおはなし会を実施し、実際に本を借りる体験をしてもらう。	【最終:令和7年度】 すべての小学3年生が図書館を利用を体験する。 【目標設定の理由】 図書館への理解を深め、図書館利用につなげる。	【事業の効果・ねらい】 公共施設を利用するにあたってのルールや施設の目的を学ぶ機会とする。また、本を借りてもらうことで図書館利用につなげ、読書習慣を身につけるきっかけとする。 【事業実績】 市内すべての小学校12校の3年生に実施した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞令和5年度全校実施(100%)	会計年度任用職員を含め、実施できる職員を育成する。
39	図書館運営事業(職場体験等)	図書館	図書館の仕事を体験してもらい、働くことの意義を知り、図書館への理解を深めてもらう。	カウンターでの貸出返却処理、本棚への返本作業、本の修理、館報の作成、おすすめ本のPOP作りなど、図書館の仕事の全般を体験してもらおう。	【最終:令和7年度】 要請があれば可能な限り受け入れる。 【目標設定の理由】 図書館への理解を深めてもらう。	【事業の効果・ねらい】 実際に職場で働く体験を通して、将来どのような職業に就きたいのか、進路を考えるきっかけづくりとする。 【事業実績】 令和5年度は市内の中学校3校から計6人を受け入れた。実施しなかった1校については、こちらの日程と合わず、断念した。 令和4年度は市外に通う市内在住の中学生を受け入れたので、計5校、13人の参加。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞実施校3校÷依頼校4校×100＝75% 依頼を受けたにもかかわらず、実施できなかった。	依頼があればできる限り受け入れるが、移動図書館やおはなし会など、重なり、受入が困難な場合がある。対応でできるの育成が必要。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
40	本のまち！動く図書館事業	図書館	図書館から遠い地域に住む市民の方への図書の貸出サービスを充実させるため、小ントラックを改良した移動図書館車「はちっこぶつ」を図書館から遠い地域へ巡回している。令和3年度4月から運行開始した。 また、公立、私立園間わず市内の園児が共通の絵本体験が就学時までに出ていけることを目指し、まずは図書館から遠い就学前施設へ巡回する軽自動車改造型移動図書館車「はちっこぶつ号ミニ」を整備した。(令和5年4月から運行開始)	はちっこぶつ号でコミュニティセンター(人幡、神島除く)、サンビレッジ、商業施設、旧保健センター跡地などの一般ステーション13か所と、小学校5校、中学校2校、就学前施設5か所、合計25か所を巡回している。令和5年度は、軽自動車改造型移動図書館車の8台、はちっこぶつ号ミニにて就学前施設8園への巡回を始めた。巡回時にはおはなし会を必ず実施し、本を借りてもらっただけでなく、実際に絵本やおはなしに親しんでもらえるようにした。また、2台の移動図書館車の絵を描いてくれた絵本作家と園児とのワークショップを行い、移動図書館車に吊るす暖簾づくりを行い、子どもたちがより移動図書館に親しんでもらうよう工夫した。	【最終:令和7年度】 移動図書館車での貸出冊数の増加(前年度比)と、令和5年から就学前施設への定番絵本のよみかきせの実施度 【目標設定の理由】 図書館から遠い地域での貸出サービス、児童サービスを実施させる。 【目標設定の理由】 図書館から遠い地域での貸出サービス、児童サービスを実施させる。	【事業の効果・ねらい】 全ての市民が公平に図書館サービスを受けられること目的とし、全蔵サービスの充実を図る。 当市においては、図書館の場所が近江八幡館、安土館ともに市の中心部になく、公共交通機関もないことから平成16年から予約本を市内のコミュニティセンターまで届けるサービスを行っていたが、自分が求める本だけでなく、移動図書館車を巡回させることで、様々な本に触れて読書要求が刺激され、市民の読書領域を広げること目的としている。 【事業実績】 はちっこぶつ号:巡回実績12,716冊 定期巡回:24か所、巡回回数233回、貸出冊数7,622冊 特別巡回:4か所、貸出冊数630冊 はちっこぶつ号ミニ:巡回実績12,716冊 定期巡回:8か所、巡回回数140回、貸出冊数5,622冊 特別巡回:7か所、貸出冊数1,022冊	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞定期巡回の他に、未巡回の就学前施設や、子育て関連施設、イベント会場へ積極的に出動し、貸出やPRを行った。令和4年度のはちっこぶつ号、はちっこぶつ号ミニの総貸出冊数(延長も含む)は16,368冊、令和5年度は20,709冊となり、比較すると126%で、増加となった。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞就学前施設へ巡回した際のおはなし会をすべての巡回において実施した。	はちっこぶつ号の利用が減少しているの、利用者対応をいよめ細かくし、未利用者に対してPRを行い、さらなる利用拡大を図る。はちっこぶつ号ミニにおいては、引き続き巡回おはなし会を実施する。おはなし会については、経験豊富なボランティア団体と連携し、より質の高いおはなし会を実施し、子どもたちに絵本を楽しんでもらい、感性を養う機会としたい。ストーリーテリングを含めたおはなし会を実施できる職員育成が喫緊の課題である。
(No.14参照)								
41①	文化会館自主文化事業<劇団四季ファミリーミュージカル『ジョン万次郎の夢』>	文化会館	生の舞台芸術を鑑賞する機会をつくる。	劇団四季によるミュージカル公演。	【最終:令和7年度】 すぐれた舞台芸術に触れる機会を提供する。 【目標設定の理由】 市民に優れた舞台芸術に触れる機会を提供することが地域の文化振興に寄与すると考えるため。	【事業の効果・ねらい】 優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、地域の文化振興に寄与する。 【事業実績】 令和5年度 入場者数865人	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市民にも広く周知されており、リピーターも多い、終演後にはにこやかな顔で体感する市民がほとんどのため。	市民の満足度をさらに上げられるよう演目を精査する。
41②	文化会館自主文化事業<オンタイムうたえコンサート>	文化会館	市民へ、生の音楽に触れる機会を提供する。	ポップスを中心とした、観客も一緒に歌う参加型のコンサート。	【最終:令和7年度】 チケット販売数700枚 【目標設定の理由】 生の音楽に触れる機会に触れる市民を増やすため。	【事業の効果・ねらい】 生の音楽演奏に触れる機会を提供し、地域の文化振興に寄与する。 【事業実績】 令和5年度 チケット販売数813枚	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞毎年実施してまい、楽しみにしている等の好評をいただいているため(公演後アンケートで)	さらに市民が満足するよう、さらに内容を精査していく。
41③	文化会館自主文化事業<近江笑人寄席>	文化会館	伝統芸能である落語に生で触れる機会を提供し、市民の文化に対する意識高揚に寄与する。	社会人落語「泉笑会」による寄席。	【最終:令和7年度】 チケット販売数300枚 【目標設定の理由】 落語に生で触れる機会に触れる市民を増やすため。	【事業の効果・ねらい】 伝統芸能である落語に生で触れる機会を提供し、市民の文化に対する意識高揚に寄与する。 【事業実績】 令和5年度 入場者数124人	【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞令和5年度の入場者数が5124人であり、広報活動の改善が必要と考えたため。	内容等を精査し市民の満足度向上に努める。
41④	文化会館自主文化事業<桂米朝一門会>	文化会館	伝統芸能である落語に生で触れる機会を提供し、市民の文化に対する意識高揚に寄与する。	開館以来継続している桂米朝一門会の落語会。	【最終:令和7年度】 チケット販売数800枚 【目標設定の理由】 落語に生で触れる機会に触れる市民を増やすため。	【事業の効果・ねらい】 市民に伝統芸能である落語に触れる機会の提供。 【事業実績】 開館以来、毎年1月初旬に開催している事業で、文化会館の恒例行事として定着している。	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市民にも広く周知されており、リピーターも多い、終演後にはにこやかな顔で体感する市民がほとんどのため。	米朝事務所と日程や内容等を調整して継続。
41⑤	文化会館自主文化事業<NHK公開収録上り演芸会>	文化会館	市民の文化に対する関心を高める機会を提供し、地域の活性化を図るため。	上方芸人による漫才、漫影など、上方ならではの活芸の数々を届ける。	【最終:令和7年度】 入場者数800人台を維持する。実施(採択)されなければ実施不可) 【目標設定の理由】 より多くの市民に文化に対する関心を高める機会を提供するため。	【事業の効果・ねらい】 市民に文化に対する関心を高める機会を提供し、地域の活性化を図る。 【事業実績】 令和5年度 入場者数:831人	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞NHK実施アンケートにて来場者の満足度が高かったため。	可能な限り実施を希望し継続していく。(採択されなかった場合は実施不可)

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標	課題・今後の方向性
41⑥	文化会館自主文化 事業文化会館自主文化 事業＜7色の音楽祭＞	文化会館	市内の学校の演奏発表の場 を提供する。	市内の中学・高校(7校)の吹奏楽部の 合同演奏会。	【最終:令和7年度】 全体(有料・無料含む)入場者 数600人台を維持する。 【目標設定の理由】 市内中学・高校吹奏楽部員 の発表をより多くの市民に見 てもらうため。	【事業の効果・ねらい】 市内の学校の演奏発表の場を提供する。 【事業実績】 令和5年度 有料入場者数518人 全体(有料・無 料含む)約860人	【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞ 4 開始平成29年度～を記録したため。	内容を精査し、よりよい 市民中学生、高校生の特 表の場を整えたい。
42	中央公民館講座	生涯学習課	かつては、学区ごとに「公民 館」が市によって設置され、 そこにおいて事業の実施を 行ってきた。現在は、各学区 まちづくり協議会により、学 区コミュニティにおいて各種事 業(講座・講演・学習会・体 験教室等々)を実施してい る。ただ、このような事業実 施形態は、より地域に密着し た課題を学ぶ。しかし、市 民全体の共通の学習の観点 では十分な対応ができてい ない。そこで、その点をカ バーすべく、市の中央公民 館事業として本事業を実施 している。	10月に中央公民館講座として、パティ シエの山村さえごさんをお招きし親子 ハロウアーンクッキー作り、11月には親 子山登り、2月には親子水鳥観察会を 実施した。	【最終:令和7年度】 生涯学習の機会を通して、地 域のまちづくりのリーダー的 人材を育成する。 【目標設定の理由】 近江八幡市生涯学習社会づ くり推進計画に沿った目標で あるため。	【事業の効果・ねらい】 ふるさと近江八幡への愛着と誇りを醸成するとど に、社会の変容を反映した現代的な社会課題を学 ぶ機会を提供する。 【事業実績】 10月の親子ハロウアーンクッキー作りは12組、11月 の親子山登りは20名の参加、2月の親子水鳥観察 会は47名の参加があった。	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞中央公民館講座水鳥観察会前年度 に上回る多数の参加者があり、また、福三先生から子 ども達に対して、これはなんの鳥ですかという問いかけ にも丁寧に、子ども達は、資料を参考にしながら一生懸命 考えて答えていた。また参加したいなどの感想を いただき、参加者から大変好評だったため。	事業継続。多様な媒体 による市民周知に努める とともに、多くの市民に関 心のある内容(テーマ 等)の講座を検討する。
43	市民大学講座	生涯学習課	近江八幡市がめざす生涯学 習社会の実現に向けて、学 びをとおした人づくりに とを目的とした理念として、 「ふるさとへの愛着と誇りから 学びが生かされ、つながる しみが創る 元気なまち 近 江八幡 ～郷土愛が初め 江八幡の生涯学習社会～」 と定めている。これを達成す るため、市民が学ぶ場として の「市民大学講座」を開催し ている。	各分野の有識者を講師に招き、対面に よる講座を年5回開催した。 内容:文化「書」の美を探る」 歴史「織田信長と安土城」 芸術「源氏物語と紫式部」 生活「近江の麻とお花のスクエアリース 講座」	【最終:令和7年度】 生涯にわたって学びを継続 できよう学習機会を提供す る。 【目標設定の理由】 近江八幡市生涯学習社会づ くり推進計画に沿った目標で あるため。	【事業の効果・ねらい】 生涯学習の課題や市民ニーズに沿った講座を開 講することで、市民が生涯にわたって学習活動を行 い、生活に潤いや生きがいを見出して自己実現 が図ることができよう機会を提供する。 【事業実績】 参加者数 歴史「織田信長と安土城」19名 歴史「源氏物語と紫式部」11名 芸術「静物画基礎講座」21名 生活「近江の麻とお花のスクエアリース講座」11名	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞市民大学講座の事後アンケートで「大 変良かった」「はかった」と肯定的に回答した参加者の 割合が98%となっており、市民の満足度が高い講座を 開催できたため。	多様な媒体による市民周 知に努めるとともに、多く の市民に関心のある内 容(テーマ等)の講座を 検討する。
44	やよいコンサート	総合医療セン ター総務課	2005年10月、若くしてお亡 なりになられた故・浅野弥生 氏のご遺族より、音楽をこよ なく愛された弥生氏の遺志 を尊重してベーズンドル ファアの「グラントピア」が寄 贈されました。このピアノを用 いて「やよいコンサート《音 楽の花束》」を開催し、ご来 院された全ての人々に希望 と勇気を与え、心を癒す豊か な時間を分かち合います。	当院エントランスホールにあるベーズン ドルファアの「グラントピア」(故・浅野弥 生氏 寄贈)でコンサートを実施し、ご 来院された全ての人々に希望と勇気 を与え、心を癒す豊かな時間を分かち 合います。	【最終:令和7年度】 1回/年開催 【目標設定の理由】 プロの奏者によるコンサート 開催を想定しているため	【事業の効果・ねらい】 病院には体や心を病んでおられる患者様が多数 来院されます。弥生氏の遺志を尊重し、音楽を通 じて闘病されている患者様に、穏やかな時間を過 ごしていただけるような空間づくりが必要と考えま す。 【事業実績】 滋賀県立芸術劇場ゆわゆわホール主催の「ホスピタ ルコンサート」を、当院にて令和5年9月21日に開 催。当院で毎年実施している敬老の日イベントとし て開催し、多くの入院・外来患者さんや医療従事 者がコンサートを楽しみました。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞プロの演奏者によるコンサートを開催 することができました。	コンサートの開催が、外 来診療や入院支援業 務の時間帯と重なた ため、音量等の配慮が必 要。新型コロナウイルス 感染症等の感染予防対 策を行い、継続した開催 に向けて引き続き検討し 取り組んでまいります。
45	絵画展示	総合医療セン ター総務課	当院の開院(平成18年10 月)後に、市内の美術愛好 家グループ「八美会」さん から、絵画展示の申し入れを いただき、以来10年以上に わたり、入院生活という非日 常の生活を過ごされている 入院患者様をはじめ、外来 患者様、患者のご家族様など 多くの方々から絵画を鑑賞 していただくことのできる癒し の空間を提供している。	医療センター2階の周回通路の壁面を 市内の絵画愛好家グループ「八美会」 の絵画常設展示スペースとして提供す る。展示作品は、①モチーフは季節感 のある風景や静物とする。②危険防止 のため、額縁のガラスを入れない。③絵の 題名は明るい題名とするなど、医療機 関での展示であることに配慮された作 品を4半期ごとに入れ替えてい たい。	【最終:令和7年度】 絵画展示の継続 【目標設定の理由】 長年展示いただけており、多 くの方に絵画を鑑賞いただ いていただくため。	【事業の効果・ねらい】 入院患者様をはじめ、外来患者様、患者のご家族 様など、多くの方々から絵画を鑑賞していただくこ とで、癒しの空間を提供する。 【事業実績】 医療機関での展示であることに配慮された作品を を、4半期ごとに入れ替えて展示いただいている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞当院が直接実施している事業ではな いが、病室や病棟の静寂のために来院、入院してお る患者様やご家族が足を止めて、絵画を見入られる など、入院治療や闘病生活という非日常の生活の中 で、心を和らげ、癒しとなる機会が提供できている。	周回通路という特性から 絵画の展示に限定され るが、当院としても継続した 展示を続けていきたい。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4. 妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
46	左義長まつり写真コンクール	観光政策課	近江八幡市を代表する火祭りの歴史、文化を継承するとともに、地域の活性化や市民の充足感の獲得に繋がる文化芸術を身近にすることを目的とする。	左義長まつりの写真を広く募集し、審査会において優秀作品となったものについて市内の観光施設において展示及び表彰を行う。また、応募作品については左義長まつりのチラシやポスターなどにも活用される。	【最終：令和7年度】 写真コンクール応募数 600点 【目標設定の理由】 コロナ禍前の平成31年度実績数値	【事業の効果・ねらい】 左義長まつりへの誘客促進及びまつりの魅力をより広く周知する。歴史、文化の継承を支えるとともに、地域の活性化に繋げる。 【事業実績】 コロナ禍の影響により開催を見送っていた写真コンクールを今年ぶりに復活できた。 併せて、新たにインスタグラム部門を設け、観光客・市民等の自発的なSNS投稿を促進し、まつりを盛り上げた。 【応募数】プリント部門 438点、インスタグラム部門 675点。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞久しぶりの写真コンクールの開催にも拘わらず、多くの応募数が得られた。 ＜評価に対する数値等＞応募数 438点	写真コンクール及びインスタグラムの更なる周知と内容の充実を図る。
47	図書館運営事業(歴史講座、コンサート開催)	図書館	地域の文化財や自然を未来へ語り伝えていく。また、親子で絵本を介した物づくりの楽しさを体験してもらうため、ワークショップを行う。	地域に根差した歴史や文学に関する講演会や展示を開催する。また、ワークショップなどを通して、子どもたちに絵本の楽しさや物づくりの喜びを体験を通して知ってもらう。	【最終：令和7年度】 年2回以上実施 【目標設定の理由】 一般向け、児童向け：各1回以上	【事業の効果・ねらい】 地域の自然・文化を知ってもらい、次世代に受け継いでもらうため、講演会等を開催するとともに、子どもたちに向けて、読書の楽しさを広げるために、絵本作家によるワークショップ等を開催する。 【事業実績】 ①絵本作家はやしますみ氏によるワークショップ(暖簾づくり) 計4回 ②絵本作家くせさなえ氏原画展 鑑賞者195人、講演会 参加者43人 ③松本なお子氏講演会 参加者57人 ④指田和子氏講演会 参加者53人	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞開催回数4回(令和4年度:3回)	近年、児童対象の催物が多いので、一般対象の歴史講座なども検討する。
再掲	安土文芸の郷指定管理事業	文化観光課(安土町文芸の郷振興事業団)	各施設より良いサービスの提供および管理運営のため、地方自治法第244条の2に基づき指定管理者による管理運営を行っている。	施設の管理運営を行い、歴史・文化・芸術・教育に関する市民活動および観光客への情報発信拠点としてイベントやサービスを提供する。	【最終：令和7年度】 市の歴史・文化・芸術に関する資料を公開する。 【目標設定の理由】 市民への歴史・文化等への関心を理解を深めるため。	【事業の効果・ねらい】 市内に残る歴史資料の保存・管理・公開を行うことにより、文化財に対する市民の理解・関心を深め、文化財継承のための土壌を育成する必要性があるため。 【事業実績】 資料館、旧西川家住宅及びびわわミュージアムでは前年度以上の入館者数を上回ることができた。また、学校や団体客への案内も行い、次世代に向けた継承活動も行った。引き続き来館者増加に向けて情報発信や企画を実施し、関心が高まるよう努める。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞市立資料館の入館は13,520名で、研修室、コワーキングスペース利用者 946名を計上した。 重要文化財旧西川家住宅の入館は18,714名だった。かわらミュージアムの入館は13,467名で、体験工房が1,072名、研修室利用者が477名を計上した。 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞チラシ・ポスターだけでなくラインやHPによる情報発信を行った。	引き続き市民および観光客へ向けた事業を実施し、より関心を深める。
48	関連施設における自主事業(資料館、旧西川家住宅、かわらミュージアム、特別史跡安土城跡ガイダンス施設)	文化振興課(指定管理)	各施設より良いサービスの提供および管理運営のため、地方自治法第244条の2に基づき指定管理者による管理運営を行っている。	施設の管理運営を行い、歴史・文化・芸術・教育に関する市民活動および観光客への情報発信拠点としてイベントやサービスを提供する。	【最終：令和7年度】 市の歴史・文化・芸術に関する資料を公開する。 【目標設定の理由】 市民への歴史・文化等への関心を理解を深めるため。	【事業の効果・ねらい】 市内に残る歴史資料の保存・管理・公開を行うことにより、文化財に対する市民の理解・関心を深め、文化財継承のための土壌を育成する必要性があるため。 【事業実績】 資料館、旧西川家住宅及びびわわミュージアムでは前年度以上の入館者数を上回ることができた。また、学校や団体客への案内も行い、次世代に向けた継承活動も行った。引き続き来館者増加に向けて情報発信や企画を実施し、関心が高まるよう努める。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞市立資料館の入館は13,520名で、研修室、コワーキングスペース利用者 946名を計上した。 重要文化財旧西川家住宅の入館は18,714名だった。かわらミュージアムの入館は13,467名で、体験工房が1,072名、研修室利用者が477名を計上した。 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞チラシ・ポスターだけでなくラインやHPによる情報発信を行った。	引き続き市民および観光客へ向けた事業を実施し、より関心を深める。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
49	関連施設における自主事業(安土城郭資料館、白雲館)	観光政策課(指定管理)	○白雲館 【背景】国の登録文化財。明治10年に八幡東学校として費用の大宗を近江商人の寄附金で建築されたという歴史的にも貴重な洋風建築物。平成6年に市が解体修理を実施。平成18年4月から指定管理者による運営に移行。 【目的】明治建築の原型を保存し、伝統文化の保存と継承及び地域文化の普及振興を図り、多くの人々がふれあい、文化を生み出す力を育むとともに、観光及び物産の振興を図り、地域の活力を増進させることを目的とする。 ○安土城郭資料館 【背景】昭和63年に開館。平成21年4月から指定管理者制度による運営に移行。 【目的】主に中世から近世における城郭に関する資料及び安土城のひな型を展示し、地域文化の普及振興と観光の振興を図ることを目的とする。	各施設の設置目的に沿って、指定管理者(一般社団法人近江八幡観光物産協会)が食糧及び自主事業を行う。	【最終:令和7年度】 観光客入込客数(城郭資料館) 20千人 【目標設定の理由】 自主事業による誘客促進	【事業の効果・ねらい】 地域文化の普及振興と観光の振興を図り、地域の活力を増進させる。 【事業実績】 デジタル限定土産品の販売や喫茶メニューの開発をはじめ、誘客促進に向けた広域の周遊事業等に参画し、入館者数増に取り組めた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞自主事業や周遊事業に取り組み、多くの方に入館いただいた。 ＜評価に対する数値等＞令和5年観光客入込客数(城郭資料館) 30千人	安土城築城450年祭などに向け、自主事業の企画や展示物のリニューアルなどを検討し、更なる入館者数の向上を図る。
50	市美術展覧会	文化振興課	昭和31年に第1回市美術展覧会開催。昭和54年5月に文化会館が開館し、以降展示会場となる。平成18年に文化芸術政策の指針を定めた「文化芸術振興基本法」が制定され、平成25年3月に「近江八幡市文化振興条例」を制定。文化の振興に関する基本理念と、施策の基本となる事項を定めることにより、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進し、個性豊かで活力ある地域の文化生活に寄与することとしている。 本事業は、市民に対し日常的な創作活動発表の場を提供することにより、より一層の創作意欲の向上を図り、市の美術文化の発展をめざす。また展覧会を通して市民に芸術文化を身近に鑑賞し親しむ機会を提供し、市民文化の向上を図る。	・年3回、9人の美術家を委員とした市美術展覧会委員会を開催し、当年度の運営や企画の詳細を決める。 ・平面、立体、工芸、書、写真の5部門において、各審査員による審査後、入選作品を5日間文化会館で展示。 ・入選作品のうち、特に優れた作品に、対し特選(市展賞、市長賞)後援団体からの賞)、準特選、奨励賞等の賞を決定し、表彰する。 ・作品鑑賞会を行い、陳列された作品について見どころの説明や制作にかかわるアドバイス等を審査員や委員に行っていた。	【最終:令和7年度】 展覧会を通して、誰もが文化芸術活動に参加できる環境づくりを実現する。 【目標設定の理由】 文化振興基本計画に基づき、誰もが身近に文化芸術活動に触れる機会が必要であるため。	【事業の効果・ねらい】 平成27年に実施した市民アンケートでは、「関心のある文化・芸術分野」は音楽に次いで『美術』と答えた人が54.6%であった。しかし、市内には常設の美術館がなく、市民が気軽に、身近な場所で芸術性の高い美術作品に触れる機会が少ない。また、創作者は、各々所属する団体で展示会等を開催している場合もあるが、団体に属さない人たちにとっでは、創作活動発表の場が制限されている。審査員による審査や講評についても、ある程度大きな展覧会でないといふ実施は難しく、市美術展覧会がその貴重な機会となっている。 【事業実績】 出品者にとっでは創作活動発表の場であり、有識者による審査を受け講評を得ることができ、入賞者は、評価、表彰されることで今後の活動の励みとなっている。また、鑑賞者にとっでは、身近な場所と様々な美術作品に触れることのできる機会となっており、鑑賞会は直接美術家からアドバイス等を得られる貴重な機会となっている。 平成29年度 出品者253名、来場者数1,126名 平成30年度 出品者237名、来場者数920名 平成31(令和元)年度 出品者209名、来場者数917名 令和2年度 コロナ禍で中止 令和3年度 出品者183名、来場者数700名 令和4年度 出品者200名、来場者数940名 令和5年度 出品者203名、来場者数711名	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞来場者アンケートより、「大変よかった」「よかった」が全体の75%となったため。 ＜評価に対する数値等＞アンケート回収総枚数:(302枚)、回収率:42.4% 【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞「大変よかった」「よかった」が全体の75%となったため。 ＜評価に対する数値等＞アンケート回収総枚数:(302枚)、回収率:42.4% 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞誰もが気軽に芸術に触れるきっかけとなるよう、新たに市展の開催期間中に「対話型鑑賞会」を実施。 ＜評価に対する数値等＞参加者数:14名	より多くの市民に周知し、参加してもらうための方法を検討する。

⑤ 誰もが文化活動に参加できる環境づくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4.妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
51	人権フェスティバル	人権・市民生活課	人権問題は身近に数多くあるにも関わらず、多くの人が人権について無関心で、人権について考えるきっかけづくりとなる場を提供しなげれば、人権問題を自分ごととして捉えることは難しい。人権問題の解決に向けた啓発活動とともに、相互理解に向けた交流を進めることで、人権意識の向上を図りたい。	人権教育・人権啓発活動に取り組む。市民団体である近江八幡市人権尊重のまちづくり推進協議会(市人権協)に委託し実施した。「自分らしく生きる ～いんな個性でつながる地域づくり～」としてmottoひょうご代表の栗木剛さんによる講演を行った。	【最終:令和7年度】 アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。 【目標設定の理由】 人権問題を自分ごとと捉え、人権について考えていただく機会とするため。	【事業の効果・ねらい】 事業の目的と同じ 【事業実績】 人権フェスティバル」と「男女共同参画市民のつどい」を、八幡学区まちづくり協議会人権部会と合同で「人権・男女共同参画フェスタ」として開催した。人権擁護作品入賞者表彰式や講演会、人権コンサート、人権啓発パネル展のほか、世界・郷土の料理コーナー、民族衣装体験コーナー、子ども向けのワークショップや遊びのブースなど、盛りだくさんのプログラムで、300名以上の参加があり、多くの方々に様々な人権について考える機会を提供することができた。	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞アンケートの満足度について、「よかった」が9割以上となったが、回答数が17であり、アンケートの回収率が低かった。 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞八幡学区まちづくり協議会人権部会と合同開催したことにより、イベント内容が充実したものとった。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞当日参加者が300名程度と、たくさんの方に来場いただけた。	近江八幡市人権尊重のまちづくり推進協議会(市人権協)への業務委託により開催した。市人権協の活動の活性化とともに、市民の自主的な企画・啓発の事業として実施していく。昨年度までは文化会館を主な開催場所としていたが参加者が低迷していたため、今年度から各学区コミュニティセンターを開催場所とするように変更することと、各学区の地元の方々と来てもらいやすいようイベントでのイベント工未した。八幡コミュニティセンターでのイベントでは来場者数が増加したため、引き続き各学区コミュニティセンターでイベントを開催し、より多くの市民に来場いただけるよう、魅力的な企画や効果的な広報を検討する。
52	人権尊重のまちづくり 市民講座	人権・市民生活課	人権問題は身近に数多くあるにも関わらず、多くの人が人権について無関心で、人権について考えるきっかけづくりとなる場を提供しなげれば、人権問題を自分ごととして捉えることは難しい。人権問題の解決に向けた啓発活動とともに、相互理解に向けた交流を進めることで、人権意識の向上を図りたい。	2023年度に近江八幡市パートナーシップ宣言制度を導入したことから、「自分らしく生きる ～私の通んだ道～」と題して、コミュニティ代表の棚田智也さんによる講演を実施した。	【最終:令和7年度】 アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。 【目標設定の理由】 人権問題を自分ごとと捉え、人権について考える機会とするため。	【事業の効果・ねらい】 事業の目的と同じ 【事業実績】 アンケートの回収数は52枚であった。全体の満足度としては、「よかった」と「まあよかった」が9割以上だった。	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞アンケートの満足度について、「よかった」と「まあよかった」が9割以上となった。 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞性的マイリタの人権について考えていただくことができたと同時に、パートナーシップ宣言制度を周知できた。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞参加定員100名のところ、当日参加者は60名であった。	事業継続しつつ、多くの方に参加してもらえるよう企画、周知方法について検討を行う。
53	人権尊重のまちづくり 推進員事業	人権・市民生活課	市民がさまざまな人権問題と出会い、あらゆる差別や偏見をなくし、すべての市民の人権が尊重される明るく住みよい地域づくりの実理のために、自治会を単位とする地域における人権学習は不可欠である。そのために、各自治会の推薦を受けて市が委嘱する「人権尊重のまちづくり推進員」を設置している。同推進員には、各自治会主催の「人権尊重のまちづくり懇談会」(まち懇)の企画など、地域における人権啓発の中心的な役割を担うことだけでなく、同推進員を対象とした人権意識を高める人権学習の機会を提供(研修会開催)し、まち懇等の地域での人権学習を積極的に実施してもらうことを目的とする。	「人権尊重のまちづくり推進員」対象の事前研修会を各学区コミュニティセンターにて開催した。各自治会主催の「人権尊重のまちづくり懇談会」は、懇談が可能な自治会には人権学習資料(紙資料の提供)の自治会内での配布・回覧による学習機会を設けることを依頼した。	【最終:令和7年度】 自治会全体の9割における人権尊重のまちづくり懇談会の実施。 【目標設定の理由】 より多くの市民に人権啓発を行うため。	【事業の効果・ねらい】 事業の目的と同じ 【事業実績】 多くの自治会で懇談会や資料の配布・回覧等により、人権学習の機会をもってもらえた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞全自治会数169に対して、139の自治会が人権尊重のまちづくり懇談会を実施自治会数139 【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞各学区で人権尊重のまちづくり推進員を対象とした事前研修を実施することができた。 【評価項目】事業実施による波及効果 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞まち懇を通じて、全ての人の人権が尊重される明るく住みよいまちづくりについて考えていたことができた。	地域における人権学習の必要性について理解していただき、まち懇の未実施の自治会に対して積極的に働きかけることにより、懇談会実施率を高めている。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績 (No.31参照)	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	市民文化祭共催事業	文化会館						
54	図書館運営事業(貸館)	図書館	市民の心豊かな文化活動の推進に寄与すること。図書館集会施設の有効活用により、図書館利用者の増加を図る。	市民および団体を対象に、図書館内の集会施設を文化芸術団体や生涯学習団体に貸し出すことで読書普及や文化芸術振興に結び付ける。	【最終:令和7年度】 毎月最低2件以上の利用 【目標設定の理由】 市民の求めに応じ、活動場所を提供することで、文化活動及び読書推進活動に寄与する。	【事業の効果・ねらい】 市民が地域の課題を市民自らが考え解決することがますます求められており、図書館はそのような自立した市民の活動を、資料・情報・活動の提供によって支えていく必要があるため。 【事業実績】 貸館件数:100件、利用人数:1,088人	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞毎月2回以上の利用があり、市民の文化活動及び読書推進活動の場を提供することができた。	引き続き、求めに応じて活動の場を提供する。単なる場所の提供だけでなく、自立した市民の活動を図書館としてサポートする方法として、本を提供する機会を作る。
55	文化会館管理事業(貸館)	文化会館	市民の文化芸術や文化団体等の活動の場を提供する。	大・小ホールをはじめとした館内各施設の貸出し。	【最終:令和7年度】 年間利用人数 95,000人 【目標設定の理由】 より多くの市民に文化芸術活動の場を提供することが地域の文化振興に寄与すると考えるため。	【事業の効果・ねらい】 昭和54年の開館以来、市内外および県外からの、利用の要望に応える。 【事業実績】 大・小ホールを中心に、市民が生の文化芸術を体験できる場を提供し、併せて各種サークル等の活動の場を提供し、文化芸術活動の振興を図る。	【評価項目】市民の満足度 ＜自己評価＞2 ＜評価の理由＞令和5年度は、舞台照明・舞台機構等改修工事の影響で大・小ホールの使用不可期間が発生した。そのため市民の文化芸術活動に制限が発生したため。	安全で快適な施設及び設備等の管理・運営を行う。
56	障害者福祉事務事業	障がい福祉課	障がい者の文化的活動を通じて、障がい者本人が文化活動に参加し、親しみ、また障がい者以外の市民への障がいへの理解を深め、後援等を行うことによりこれを支援する。	障がい者が行う文化活動や講演会等の後援、市広報やHPによる情報提供を行い、障がい者への理解を深めるための支援を行う。	【最終:令和7年度】 障がいに対する理解を深め、誰もが文化活動に参加できる環境をつくる。 【目標設定の理由】 障がいのある無に問わず、誰もが地域で安心して暮らしていくために、市民も障がい者とともに文化活動や講演会、障がい者等に対する理解を深める必要があるため。	【事業の効果・ねらい】 障がいのある無に問わず、誰もが地域で安心して暮らしていくためには、市民も障がい者とともに文化活動や講演会等に積極的に参加し、障がいに対する理解を深める必要があるため。 【事業実績】 ・平成31年度:後援12件、広報・HPについては、毎月スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会等の開催について掲載している。 ・令和2年度:後援3件、広報・HPについては、毎月スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会等の開催について掲載している。 ・令和3年度:後援3件、広報・HPは、随時スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会の開催について掲載している。 ・令和4年度:後援3件、広報・HPは、随時スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会の開催について掲載している。 ・令和5年度:後援3件、広報・HPは、随時スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会の開催について掲載している。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞広報・HPについて、随時スポーツ大会や養成講座、相談会、各種講演会等の開催について掲載した。 【評価項目】障がい者・外国人の参加しやすい環境づくり ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞障がい者・外国人の参加しやすい環境づくり、障がい者の余暇活動支援事業等と連携して、障がい者の余暇活動支援事業等の周知を随時行った。	障がい者支援のため、文化活動や講演会等については市の後援を行うとともに、市広報やHPにおいて市民に広く情報を提供し周知するなど、今後も継続して事業に取り組む。
57	市民共生センター運営事業(地域共生型サークルづくり)	障がい福祉課(市民共生センター)	高齢者や障がい者の団体やサークル等の活動の場を提供するため。	【内訳】 講座の開催のべ45回 ・パソコン教室 8回・寄せ植え教室 1回・カラーリング教室 1回・パソコンフォロー教室 17回・囲碁将棋交流大会 2回・ヒーローボリング教室 1回・点字体験教室 5回・自衛隊教室 3回・折り紙教室 3回・ポッチャ教室 4回	【最終:令和7年度】 高齢者や障がい者の健康増進、居場所づくりを図る。 【目標設定の理由】 本施設の設置目的に基づき、	【事業の効果・ねらい】 高齢者や障がい者の積極的な自立や社会参加を促し、共生する社会を目指すため。 【事業実績】 延べ参加人数288名(高齢者155名、障がい児者50名、健常者63名)	【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞想定通りの参加者が来館されたことから、広報、HP、チラシに加え、市の公式LINEを活用したことにより、十分な周知が行き渡ったと考えられる。	引き続き、高齢者及び障がい者(児)の利用拡大を図るため広報、HP、チラシ、公式LINE等による告知を行う。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
58	市民共生センター運営事業(ふくふくフェスタ)	障がい福祉課(市民共生センター)	障がい者を個性として捉え、障がい者や高齢者など地域に住むすべての市民が互いに人権を認め合い、共に生き、共に支え合う市民社会づくりに向けて、フェスタを開催。以前は「はつらつのつばい」として、市民共生センター内で単独開催されたが、令和2年度より、「ふくふくフェスタ」として、市文化会館にて障がい福祉課と共催する形となった。	「共に生き、共に支える」をテーマに、ダンスや手話歌の発表、自雇術の普及や発達障がい・知的障がいに関する講演を行う。また、当センターで活動中の団体が手掛けた、絵画や絵手紙、書道等の作品展示も行う。	【最終:令和7年度】 高齢者・障がい者(児)の参加促進や、障がい者週間に関わったため。 【事業実績】 予定通り実施した。(参加者数約200人)	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 ＜自己評価＞ 3 【評価理由】本事業により、高齢者及び障がい児者を中心としたサークル活動や、各種障がいの内容について、参加した市民への理解を促したことから、「誰もが文化活動に参加できる環境づくり」に関して、ある程度貢献することができたと考えられる。	引き続き、毎年12月の障がい者週間に合わせた開催に向けて、広報HP、チラシ等による告知を行う。	

⑥ 顕彰の実施

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
59	子ども文化芸術賞	文化振興課	本賞の制定は、当時のローカルメディアの大きな項目のうちの一つ、「心豊かな人と文化を育むまぶくり」の中の一事業として位置づけられ、平成20年度に創設。 本市には、豊かな自然環境や歴史的背景、数多くの文化財など、優れた風土に恵まれ、文化に根ざった素晴らしい風景は多数存在し、それが人間の感性を豊かにし、文化芸術の振興にも大きな役割を果たしている。 子どもたちの豊かな心と感性を育む上で、文化芸術活動の推進は極めて重要であり、様々な文化芸術活動に励む子どもたちを応援し、文化芸術活動への意欲を高めることを目的に顕彰事業を行う。	受賞候補者及び受賞候補団体の公募を行い、受賞者を決定し、表彰式で表彰する。 令和3年度は、10月1日から12月17日まで、受賞候補者や団体の応募を行い、小・中学校・保護者を通じた計61件の応募から、審査会で計36件(「子ども文化芸術特別賞」10名、「子ども文化芸術賞」22名)2団体、また、「子ども文化芸術審査会特別賞」2名)を受賞決定。 令和6年3月23日(土)に、文化会館小ホールを会場に受賞者の表彰式を行い、表彰状及び表彰楯、副賞を授与した。	【最終:令和7年度】 各賞のレベルを高めていく。 【目標設定の理由】 今後の活躍が期待できる人材をより多く発掘するため。	【事業の効果・ねらい】 次代の担い手である子どもたちの文化芸術活動への支援は、地域の文化継承にも繋がる重要な事項である。少子化の時代背景も受け、幼少期からの文化芸術活動の活性化は、今後の課題となる。受賞者自身の意識高揚だけでなく、組織(所属団体)が活性化され、努力と成果に対し「公式」に認められる機会として、当賞は当市の表彰文化の向上に寄与する。 【事業実績】 表彰の対象者は18歳以下の市内在住、通学者またはそれらの者を主に有する団体、各学校や地域、市広報・HPで応募を呼びかけ、応募件数は年々増加傾向であり、当賞の認知度が少しずつ増している。 表彰式では、表彰状および表彰楯の授与の他に、子どもたちの活動発表の場として、作品の展示や楽器演奏、作文発表を行い、式典出席者の前で披露する舞台発表の時間を設けている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 【評価理由】令和4年度応募数34件は、令和5年度応募数61件と大幅に増加した。応募数が増加は、子ども文化芸術賞が各小・中学校で認知された結果であり、各賞のレベルを高めたことにつながった。 【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 2 【評価理由】学校推薦による格差は年々縮小しているが、依然として偏りがある状況である。募集要項を見直し、推薦・申請の段階で受賞歴の統一(例:特別賞の場合、全国レベルのコンテストを2賞受賞など)を行い、応募期間の拡充と市内各小・中学校、高等学校や自治会にも啓発していく必要がある。	子どもの文化芸術活動への意欲を高めることを目的に、今後も継続実施。 賞の創設から10年が経過したことから、過去の受賞者や団体で、その後文化芸術分野へ進み、さらなる飛躍を遂げたアーティストとして活躍している人の有無など、追跡調査の可能性も探っていくたい。

⑦ 文化会館の積極的な利用

番号 再掲	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
	文化会館自主文化事業	文化会館				(No.40参照)		

2 文化の情報の収集と発信

① 文化情報の収集・発信

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当、3: ほぼ妥当、2: 改善、1: 見直し	課題・今後の方向性
60	広報事業	秘書広報課	紙媒体の情報発信に始まり、ケーブルテレビを活用した情報発信に努めてきた。 近年は、ホームページやSNS等のネット環境を使った多様な情報発信が求められている。 広報紙やケーブルテレビ等を通じて、市内各施設や民間が行う情報の発信を行い、市民への啓発を図る。	広報紙、ケーブルテレビ、SNS等を活用した情報発信および報道機関への情報提供。	【最終: 令和7年度】 信すべき情報を適宜発信する。 【事業実績】 適切な時期に正確な情報を市民に発信するため。	【事業実績】 広報紙の部で知事賞を、広報写真の部で協会長賞を受賞するとともに、近畿市町村広報紙コンクールにおいて優良を受賞し、良好な評価を得た。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞広報紙やホームページ、SNSなどを活用し、必要な情報発信ができています。	紙面や締め切り等により、広報紙ではすべての情報を扱うことが困難であるため、さまざまな媒体を活用して情報発信する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
61	読書活動推進事業 (館報、ホームページ)	図書館	市民への読書普及および生涯学習の推進をはかる。	図書館の発行。 ZTVにによるおすすめ本の紹介。 図書館HPによる行事案内、月替わりのコーナー展示紹介。	【最終:令和7年度】 情報発信(館報・HP)回数 各12回以上 【目標設定の理由】 月1回×12か月	【事業の効果・ねらい】 あらゆる年代に向けて広報を行い、図書館利用及び生涯学習を推進する。 【事業実績】 館報発行回数 大人向け・年12回、児童向け:年12回、YA(中高生)向け:年2回、ZTVによる本の紹介 毎週1冊、計49冊を紹介した 図書館ホームページ 毎月1回以上	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞図書館の情報をホームページや館報で周知し、本の紹介を館報・ZTVで行った。ホームページに向けては、講演会などの周知を随時実施し、きめ細かな情報の提供を行った。	館報についてはより親しみやすく、図書館利用につながる紙面づくりに努める。また、読書離れの傾向にあるYA(中高生)世代に向けて、魅力的な館報の発行を年4回発行する。
62	ヴォーリス建築文化ネットワーク	文化振興課	ウィリアム・メレル・ヴォーリスやヴォーリス建築事務所が携わったヴォーリス建築は日本各地に点在し、その多くは保存、活用が行われている。しかし、それぞれの連携が十分でなく、ヴォーリス建築をより広く発信し、啓蒙するためには全国に広がるヴォーリス建築所有者を中心とする広域なネットワークを形成することが求められている。	ヴォーリス建築所有者、研究者を中心とした全国ネットワーク組織(平成19年度発足)に加盟することで、広域的で効率的な普及啓蒙活動を行う。 ・インターネット(HP、facebook、Twitter)での啓蒙活動。 ・全国大会開催(静岡県御殿場市) ・VMCA東山荘にて6月10日～11日開催 ・ヴォーリス建築マップの頒布。(令和2年度に改訂版を作成・配布。) 他	【最終:令和7年度】 ヴォーリス建築を中心とした市内に残るヴォーリス建築の調査研究と普及啓蒙の推進。 【目標設定の理由】 ヴォーリス建築を中心とした近江八幡市の建築文化やその理念をもととするまちづくりの推進。	【事業の効果・ねらい】 ヴォーリス建築は全国各地に所在しているが、全国的な情報共有等の場がなく、効率的な普及啓蒙活動の困難な状況が見られている。 【事業実績】 ネットワーク組織により、各種事業を実施すること で、広域的なヴォーリス建築の普及啓蒙活動に繋げることができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞幹事を務めるヴォーリス建築全国ネットワークの見学会を近江八幡市で開催し、市民や県内外の人のひとりに近江八幡市のヴォーリス建築に関する歴史文化の情報発信を行うことができた。	ネットワーク加盟団体で、情報交換等を行い、各種普及啓蒙事業を実施することによってヴォーリス建築についての理解を深める。
63	マナビイ通信	生涯学習課	市及び関連施設の行事・講座等を専門的にまとめて広く周知するものが不足しているため、市民への学習機会の提供と充実及び学習成果を生かせる「生涯学習社会」の創出に開始した。	生涯学習の情報を収集し、市民へ提供するため、市及び市関連施設の行事・講座・教室の予定一覧を、市及び市関連施設に配布し、市のホームページにも掲載する。市のホームページにも掲載する。	【最終:令和7年度】 生涯学習の情報を収集し、市及び市関連施設の行事・講座・教室の予定一覧を提供する。 【目標設定の理由】 生涯学習の情報を収集、市民へ提供するため、市および市関連施設の行事・講座・教室の予定一覧を、市および市関連施設に配布し、市のホームページにも掲載し、市のホームページにも掲載した。	【事業の効果・ねらい】 生涯学習の情報を収集、市民へ提供するため、市および市関連施設の行事・講座・教室の予定一覧を、市および市関連施設に配布し、市のホームページにも掲載し、市のホームページにも掲載した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞生涯学習の情報を収集した通信を、各コミセンや関係施設に配布し、市のホームページにも掲載することができた。より幅広い層に情報提供できるようにしていく必要がある。	本通信や、生涯学習に関する情報を、幅広く情報提供ができるように改善していく必要がある。市民への学習ニーズと提供情報のマッチングや、学習課題が各分野・縦横にわたるため、市民の学習機会の充実を図りたい。

② 文化団体に関する情報の発信

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
64	広報活動	各学区まちづくり協議会(まちづくり協議課)	各学区におけるまちづくり協議会の存在や地域文化活動の存在や地域文化活動の存在を広く周知し、地域活動の活性化を図る。	各学区まちづくり協議会が取り組み、実施している事業やその実績報告を主に学区民を対象に周知に努め、各学区における広報紙を発行し、地域活動の活性化を図る。	【最終:令和7年度】 地域の文化活動の内容を広く周知し、地域活動の活性化を図る。 【目標設定の理由】 地域の文化活動の拡充を図るため。	【事業の効果・ねらい】 各学区におけるまちづくり協議会の存在や地域文化活動の存在を広く周知し、地域活動の活性化を図る。 【事業実績】 各学区において毎月「まち協だより」などを発行し、生涯学習講座や文化活動、イベントに関する情報が発信されている。従来の2色刷りからカラー印刷に変更した学区もあり、一人でも多くの学区民に読みやすいものとなるよう工夫を重ねている。また、8学区においてホームページが開設された。学区内における行事や情報、予定が学区民に周知されている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞各学区まちづくり協議会において月1回「まち協だより」を発行し、文化活動の内容を広く周知するだけでなく、ホームページやブログなど新たな媒体を活用しながら広報活動を行い、地域活動の活性化を図った。 ＜評価の理由＞各学区まちづくり協議会が開設された。8学区内における行事や情報、予定が学区民に周知されている。	現在8学区においてホームページやブログが開設されているが、より効果的な広報の方法を研究し、全学区が積極的に地域文化活動を発信できるよう支援する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
65	文化団体機関紙発行 (文化団体活動支援 事業)	文化振興課	近江八幡市文化団体連合会の構成団体である近江八幡市文化協会と安土町文化協会は、連合会設立以前からそれぞれ団体の機関紙を継続発行していた。文化芸術にかかわる活動を団体自らが発信することは、事業内容の周知や参加者募集など、団体活動の活性化へとつながり、市の文化芸術の発展に寄与するため、補助金交付(事業No.11)に含むにより文化団体の活動を支援している。	補助金を活用して機関紙を発行し、近江八幡市文化団体連合会の活動内容の報告や参加の呼びかけ等を行い、広く市民に周知するほか、各種事業においては案内チラシ等を作成し、配布する。	【最終:令和7年度】 文化団体連合会構成団体の活動や文化情報を幅広く市民に発信する。 【目標設定の理由】 構成団体の活動の活性化と身近に文化芸術に触れる機会を市民に提供するため。	【事業の効果・ねらい】 熱心に活動している、また、参加を呼び掛けることで、新たに市民が文化芸術に触れる機会が持てる。 【事業実績】 機関紙の発行 「文化のなかま」は第77号(近江八幡市文化協会が発行・市内全域に全戸配付)。「塔映」第50号(安土町文化協会が発行、安土地域で各戸配布) その他、各実施事業の案内チラシを発行し、文化団体連合会の事業や活動について周知することができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞4 ＜評価の理由＞近江八幡文化協会と安土町文化協会では市内全域に発行された。 ＜評価に対する数値等＞機関紙の発行回数:各1回	旧市町の団体それぞれで活動形態が異なるため、安土地域での活動は市内全域に発信されていないことが課題としてある。

③ 文化団体の交流の場の確保

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	市民文化祭共催事業	文化会館				(No.32参照)		

④ 文化情報のネットワークづくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	各学区文化祭	各学区まちづくり協議会(まちづくり協議課)				(No.33参照)		
再掲	観光プランディング事業	文化振興課				(No.28参照)		

⑤ 近江八幡市出身文化人・芸術家の把握と連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	人生伝承塾	生涯学習課				(No.12参照)		

⑥ 図書館資料と専門職員の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
66	読書活動推進事業 (資料収集)	図書館	「誰でもなんでも聞ける、調べられる」図書館をめざし、市民のニーズに応じた資料、新鮮で魅力的な資料を計画的に収集・保存する。	図書館資料の収集、読書環境の充実。	【最終:令和7年度】 市民一人当たりの貸出冊数:継続して前年度比100%以上 【目標設定の理由】 「第2期近江八幡市立図書館サービス基本計画」指標	【事業の効果・ねらい】 市民の知りたい、読みたいという読書要求に応え、市民の知の拠点としての責任を果たすため、資料整備を行う。 【事業実績】 雑誌を除く資料の購入冊数は、近江八幡図書館9,110冊、安土1,699冊、移動図書館3,249冊購入した。そのうち移動図書館は一般書が1,446冊、児童書1,816冊を購入した。移動図書館の児童書については、公立国民図書館問わず、すべての国民に共通の絵本体験をしようため、はちっごっく男ミコには定番絵本を揃えた。また、はちっごぶつく号の方は、普段図書館に来ることができない子ども達に本を身近に感じてもらうため、話題のある本や、子どもたちが今必要としている本をすぐ到手渡せるよう、選書した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞3 ＜評価の理由＞近江八幡文化協会と安土町文化協会の協力で、近江八幡市立図書館の資料収集、利用に供する。そのために職員は、何が必要かの判断を求められるので、図書館全体として資料収集、選書の経緯と知識を蓄積していく必要がある。	市民ひとりひとりの読書要求に応じて、多様な資料を収集し、利用に供する。そのために職員は、何が必要かの判断を求められるので、図書館全体として資料収集、選書の経緯と知識を蓄積していく必要がある。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
67	読書活動推進事業 (雑誌スポンサー)	図書館	平成28年度より事業開始。 スポンサーのご協力を得ながら、市民に幅広い新鮮な情報を少しでも多く提供すること。	図書館資料の充実をはかるため、雑誌購入代金をスポンサー（企業・団体・個人）に負担していただく代わりに、提供誌の最新号カバーに広告を掲載し広報宣伝として活用してもらう。	【最終:令和7年度】 雑誌スポンサータイトル数:継続して前年度比100%以上 【目標設定の理由】 「第2期近江八幡市立図書館サービス基本計画」指標	【事業の効果・ねらい】 雑誌の受け入れタイトル数が県内図書館の中でも高いため、スポンサー雑誌によるタイトルの充実を図る。 【事業実績】 11団体・企業と8名の個人が32誌を提供。全受入雑誌数144誌の22%を雑誌スポンサー制度でまかなっていることになる。団体・企業は広告を掲載することですぐに団体のPRに繋がった。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞スポンサー雑誌32誌(令和4年度は34誌)減って、前年度比94%	雑誌スポンサー制度について、各団体・企業向けて周知し、さらなる購読雑誌の充実を図る。団体・企業にとつて広告のメリットだけでなく、利用者に見てもらいたいことを図書館も館報等で周知していく。

8

V 文化活動の担い手の育成

1 文化を創造する人材の育成

① 後継者育成の仕組みづくりと指導者の育成

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
68	いきいき職員育成事業	人事課	急速な社会情勢の変化とともに、市民のライフスタイルや価値観は多様化し、感染症の拡大防止に係る新しい生活様式や自然災害への対応するため、限られた人的資源と財源の中で柔軟かつ的確に対応することが一層求められています。時代のニーズや情勢の変化に対応できるよう、令和3年度に人こそが最大の地域資源であり、かつ貴重な財産であるという意味を込め「人材育成基本方針」と改名し、新たな持続可能な特色あるまちづくりを進めるには、職員一人ひとりの活躍はもちろん、市民と共に課題を見つけ、解決できる考え方や仕組みが必要であり、各職員が能力を存分に発揮し、働きがいを持って働ける環境、それを実現する仕組みや取り組みの組織を構築すべく、本方針に則り人材育成を進めるものです。	人材育成基本方針に基づき、OJT研修や仕事の進め方研修などの内部研修を実施し、派遣研修として、滋賀県市町村職員研修センターの階層別研修等へ派遣を行った。人事評価制度においては、能力評価の評価者訓練として対面の研修と併せて制度の研修をe-ラーニングで実施した。職員派遣については、滋賀県等へ派遣した。	【最終:令和7年度】 3つの愛(ふるさと愛、仲間愛、自分愛)を育む職員の育成 【目標設定の理由】 人材育成基本方針に記載している目指すべき職員像であるため	【事業の効果・ねらい】 地方公務員法第39条において、職員の人材育成基本方針、計画に基づく研修の実施が規定されているため。 【事業実績】 人材育成基本方針に基づき、内部研修、派遣研修、職場研修を実施した。特に新規採用職員の福祉研修を再開し、福祉施設に訪問した中での研修を実施した。また、地域調査研修では地域に外出し、地域の方に聞き取りを行い、現地に出身き調査を行う研修や、沖島に訪れ、その歴史や地域調査等を学ぶ機会を持つなどし、これからのまちづくりを推進する職員として必要となるテーマによる研修を実施した。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞令和3年度に改訂した人材育成基本方針に目指すべき職員としてふるさと愛、仲間愛、自分愛を定めている。その基となるものに市総合計画の「人がつながり未来をつむぐ「ふるさと近江人」があり、人と人とのつながりを大切にし、市民と行政との協働のもと、直面する様々な課題に対応し、自然や歴史、文化を守るとともに、それらの資源を活かした活力ある地域をつくり、次の世代が地域に愛着と誇りをもてるように引き継ぐとあり、この計画を基に人材育成していくため。	引き継ぎ、人材育成基本方針を基に、具体的な取組を推進していく。
69	バイブオルガン奏者育成事業(安土文芸の郷指定管理事業)	文化振興課(安土町文芸の郷振興事業団)	当財団は、文化芸術の振興に係る各種事業を推進し、もって安土と活力あるより良い地域社会の創造に寄与することを目的に事業を行っている。 滋賀県内ホールで唯一バイブオルガンを設置してある文芸セミナリオで、オルガンを活用した事業を積極的に活用し活用する。	『オルガン・教室』では、3年のカリキュラムでオルガン演奏の習得に努めていた。月2回のオルガニストによる個人指導で、年に2回成果発表の場を設けている。『バイブオルガン・ホールレッスン』では、ホールの空き日に1時間単位で個人練習やレッスンを開催。オルガン愛好者やオルガンの演奏をしてみたいという希望者に応えている。『オルガン見学会・総合学習』では、ホールの空き日に、30分程度の見学会を開催している。学校の総合学習では専属オルガニストが対応を行うが、一般の見学会では「オルガン・教室」卒業生(市内在住)が演奏と説明を行う。希望者には演奏台まで案内を行い、オルガンに触れる機会を積極的に提供している。また、オルガン教室卒業生に活躍の場を提供している。	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 令和5年度のオルガン教室受講生は55名。受講生による発表会を年に2回開催し、参加者数は310名であった。また、ホールの空き日に実施しているホルツェンの利用者は24名。オルガン見学会及び総合学習への参加者は635名になった。改修工事ににより使用できなかった期間はチャーチオルガンを開催し、33名の利用があった。	【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞滋賀県内ホールで唯一バイブオルガンを設置してある文芸セミナリオで、オルガンを活用した事業として「オルガン・見学会・総合学習」を開催。演奏台の案内などオルガンに触れる機会を積極的に提供している。また、オルガン教室卒業生に活躍の場を提供している。	文化芸術の振興に係る各種事業を推進し、もって安土と活力あるより良い地域社会の創造に寄与するために、滋賀県内ホールで唯一バイブオルガンを設置してある文芸セミナリオで、オルガンを活用した事業を積極的に活用し活用する。

② 子どもたちの文化創造体験の拡充

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当,3:ほぼ妥当,2:改善,1:見直し 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞各校園所より1,288点の出品があったため ＜評価に対する数値等＞目標1,400点に対して1,288点 【評価項目】市民への周知度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞前年度8,179人の来場者が7,251人に減少したため。 【評価項目】市民主体の取組 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞79%の校園所から出品があったため。 ＜評価に対する数値等＞市内43校園所のうち34校園所	課題・今後の方向性
70	青少年美術展覧会	学校教育課	市内の幼児・児童生徒の作品を展示し、子どもの豊かな心情を育むとともに、市内校園所における図工・美術・書写教育の振興と文化の向上を図るため昭和37年より実施。	小中教育研究会と共催で、平面・立体・書写の3部門において各審査員による審査後、特選(県小中教育研究会優秀賞含む)を決定する。 また、入選作品を3日間文化会館(小ホール、2階展示室)で展示し、児童生徒だけでなく、多くの世代の方に鑑賞していただけるようにする。	【最終:令和7年度】 出品数:1,400点 【目標設定の理由】 参加状況を測るため	【事業の効果・ねらい】 毎年、市内保育園所、こども園、幼稚園、小・中学校より1,300点以上の出品があり、校種を超えた子どもたちの貴重な学びの機会であるとともに、多くの世代の方々に鑑賞いただく機会となっている。 【事業実績】 各校園所の子どものすばらしい作品を審査員の先生方に見ていただき、教員は審査員の先生方から直接、指導を受けることができた。講評を各校園所に伝えることで、今後の書写教育、図工・美術教育の指導や学習に生かすことができた。 子どもたちは、異学年の作品作りへの意欲を高めることができた。市民の方々には、各校園所での取組を知っていただく機会となった。	令和5年度も文化会館で開催することができ、多くの方に子どもたちの作品を見ていただくことができ、今後も、市内の子どものすぐれた作品を展示して作品鑑賞しあう機会を作り、芸術性の向上や創造力を育めるようにする。	
71	アートで広げる子どもの未来プロジェクト事業	文化振興課	令和4年度からの新規事業。 教育現場において基礎学力重視の風潮が高まる中、芸術分野の科目は削減傾向にあり、子どもたちが多様な文化活動の中で自己表現や自己実現する機会が減少している。子どもたちの感性を磨き、豊かな創造性と独創的な自己表現を育む芸術体験を提供し、次代を担う子どもたちに、文化や芸術を体験する機会を積極的に創出することで、文化の薫り高いまち、文化芸術創造都市の実現に欠かせない人材の育成につなげるとともに、文化芸術の教養・素養を身につけ、子どもの人生を心豊かにする。	R5年度 【学校連携プログラム】美術分野や音楽分野、表現の分野のアーティストを、市内の小・中学校・特別授業の特別講師として派遣するアウトリーチ事業 【芸術鑑賞プログラム】小学校4～6年生を対象に実施する舞台芸術鑑賞大学【外壁アートプログラム】成安造形大学との連携協定による文芸セミナリヨの外壁工事に合わせて外壁アートを実現	【最終:令和7年度】 体験者数:毎年度3,500人。 令和4年度から7年度の累計数:11,000人。 【目標設定の理由】 優れた文化芸術に直接触れる機会を創出し、子どもたちの芸術教育、文化体験の充実を図る。	【事業の効果・ねらい】 【学校連携プログラム】【外壁アートプログラム】と題した3つのプログラムを通して、子どもたちが本物の文化芸術に直接触れ、文化芸術の教養や素養を身につけ、知的好奇心や感受性を育みながら創造活動に参加する機会を創出することを目的として実施する。教育機関との連携強化を図る。 【事業実績】 【学校連携プログラム】8名の特別講師による各アーティストの専門分野によるWSを、市内6校に計35回実施。計1,478名(教諭含む)の児童・生徒に対し、豊かな文化芸術体験を通して自己表現の機会を創出した。 【芸術鑑賞プログラム】音楽「伝統文化」[ミュージカル・鑑賞会]と題し、小学校4～6年生児童と教諭を各学年計2,551人(教諭含)を対象として舞台芸術鑑賞事業を3公演実施。派生事業として吹奏楽と和太鼓の「楽器講習会」を、中学校4校101名の生徒および小学校2校122名の児童に対し、プロの奏者が技術指導を行った。 【外壁アートプログラム】成安造形大学との連携協定により、文芸セミナリヨの外壁改修工事に合わせて、外壁アートを實現。	【学校連携プログラム】新たな分野の講師の発掘など、提供するプログラムの拡充り、継続実施する。 【芸術鑑賞プログラム】令和6年度は、参加対象を市内在住の県内養護学校の児童・生徒に広げており、今後は参加対象については継続して検討していく。また、プログラム内容について、アンケート結果等を踏まえて、よりよいプログラムを提供できるよう検討していく。	
再掲	音楽振興事業	文化振興課						

③ 地域文化振興の担い手の育成

2 文化によるまちづくり

① 市民の企画・立案・運営による文化芸術の振興

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	図書館運営事業(貸 館)	図書館				(No.53参照)		
再掲	文化会館管理事業 (貸館)	文化会館				(No.54参照)		
再掲	文化団体活動支援事 業	文化振興課				(No.11参照)		

② 地域の文化団体による文化活動の推進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	文化団体活動支援事業	文化振興課					(No.11参照)	
再掲	各学区文化祭	各学区まちづくり協議会(まちづくり協働課)					(No.33参照)	

③ 学校教育における文化活動の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	人生伝承塾	生涯学習課					(No.12参照)	
再掲	図書館運営事業(ブックトーク)	図書館					(No.37参照)	
72	図書館運営事業(学校図書館活用支援事業)	図書館	市内の小中学校の図書館活動を支援する。	授業で使う資料や、学級文庫として使う資料を、求めに応じて市内公立小学校・中学校名で団体貸出を行う。	【最終:令和7年度】 学校の団体貸出冊数前年度比100%以上 【目標設定の理由】 学校図書館をのぐくみ、支援したかを数値で測るため	【事業の効果・ねらい】 調べ学習などにより、生徒自らで資料を探し、調べることが増えており、学校図書館の利用が多くなってきた。公共図書館としては、学校図書館を補う形で、先生や学校司書の求めに応じて授業や学級文庫で使用する資料を貸し出している。 【事業実績】 小学校、中学校への団体貸出冊数2,906冊。学校の求めに応じ、対応している。調べ学習の場合は、求める資料が各学校重なる場合があるので、学校間で調整してもらい、年度初めの図書館担当者会議で周知した。また、学校へ児童書のリサイクルを行い、8校に489冊譲渡し、利活用を図った。	【評価項目】目標の達成度 <自己評価> 4 <評価の理由> 小中学校への団体貸出冊数2,906冊(令和4年度2,271冊) 前年度比28%	学校の授業のために、図書館が複本を揃えていくのではなく、学校が予算を確保し、調べる学習等を行い、そのうえで、学校図書では用意できない図書を図書館が購入することを考えていきたい。
再掲	音楽振興事業	文化振興課					(No.34参照)	

④ 医療機関、福祉施設等との連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	やよいコンサート	総合医療センター 総務課					(No.43参照)	
再掲	絵画展示	総合医療センター 総務課					(No.44参照)	
73	市民共生センター運営事業	障がい福祉課(市民共生センター)	高齢者や障がい者の団体やサークル等活動の場の提供のため。	センターの貸館事業や自主事業講座の開催および絵画や書道等の作品展示。	【最終:令和7年度】 高齢者や障がい者の積極的な自立や社会参加を促し、共生する社会を目指す。 【目標設定の理由】 本施設の設置目的に基づく。	【事業の効果・ねらい】 高齢者や障がい者の積極的な自立や社会参加を促し、共生する社会を目指すため。 【事業実績】 月平均利用人数:2,097.7人 前年比:+5.2%	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥当性 <自己評価> 3 <評価の理由> 高齢者・障がい児者を中心とした団体のみなならず、一般市民によるサークル等の利用も数多くあったことから、「文化によるまちづくり」について、十分な効果をめざしと考える。	築20年を迎え、設備の老朽箇所が増加しているため、利用者が安全・安心して利用できる施設の維持管理。

⑤ 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取り組み

VI 協働の仕組みづくり

1 文化施設の有効活用

① 文化会館の利用促進

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	市民文化祭共催事業	文化会館				(No.32参照)		

② 行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
74	近江八幡市文化振興 審議会	文化振興課	平成26年3月に制定した市文化振興条例の第16条に基づき、市の文化振興に関する事項について調査・審議する組織として設置した。現在は、主に市の文化振興基本計画に基づく施策の進捗管理に関する審議等を行っている。	市長からの諮問に対し、審議会において検討し答申を出す。 ・文化振興基本計画進捗状況に対する意見。 ・年度に実施予定の文化振興事業にかかる意見。 会議は年2～3回程度、審議員は、学識経験者のほか、公募による市民委員で構成されている。	【最終:令和7年度】 市の文化芸術振興を充実させ、個性及び活力の豊かな地域の文化生活の実現を行う。 【目標設定の理由】 文化振興基本計画の目的であるため。	【事業の効果・ねらい】 文化振興条例に定める文化振興政策についての目的達成や課題解決に向け、審議会議で頂いた意見や提言を基に文化振興政策の進捗管理を行うことで、一層の文化振興政策の推進を図る。 【事業実績】 令和5年度は、進捗管理のための様式の見直しに時間を要し、審議会を1回しか開催できず、十分な審議を行えなかった。	【評価項目】効果・ねらいの達成に向けてのアプローチ<自己評価> 2 <評価の理由> 例年2～3回開催している審議会について、1度しか開催することができず、文化振興施策に際しての十分な審議を行えなかった。 <評価に対する数値等> 審議会開催回数 1回(令和5年度)/2～3回(通常時)	年間の審議会の開催時期、審議会内容について、計画的に行うことで、文化振興施策の推進に際して審議会運営を行う。
75	文化振興基本計画進 捗管理	文化振興課	平成26年3月に市文化振興条例が制定され、それを受け平成28年3月に文化振興基本計画が策定された。この計画に基づき、市の文化振興施策が実行されているか、進捗状況を管理することとなった。	・市内の文化関連事業を実施する所管課に対し調査シートを配付し、前年度に行なった事業についての振り返りを行う。 ・各課からの調査シートのうち、重点的に点検したい事業を抜粋し、市内で組織する「近江八幡市文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員会」にて事業の点検評価を行う。 ・プロジェクト委員会で行った点検評価を文化振興審議会に提示し、さらに事業を絞り点検評価を行う。 ・プロジェクト委員会および文化振興審議会から出た意見を、各担当課に返す。また、各課で出た意見や、各事業をとりまとめた報告書を作成し、市のホームページで公開する。	【最終:令和7年度】 市の文化振興基本計画に基づき、文化振興施策が実行されているか定期的に点検評価する。 【目標設定の理由】 市文化振興条例に則り、市の文化振興施策を効果的・効率的に推進するため。	【事業の効果・ねらい】 市文化振興条例に則り、市の文化振興施策を効果的に推進していくために、計画的で組織的な管理体制が必要である。 【事業実績】 プロジェクト委員会の実施(2月)文化振興審議会での点検評価(3月)	【評価項目】目標の達成度<自己評価> 3 <評価の理由> プロジェクト委員会及び文化振興審議会において、進捗状況についての点検・評価を実施する10か年の事業総括の準備を行う。 また、次期計画策定に向けた準備を進める。	令和7年度で文化振興基本計画の計画期間が終わるため、単年度ごとの点検・評価を継続するとともに、令和7年度の事業総括の準備を行う。 また、次期計画策定に向けた準備を進める。

③ 施設・設備の充実等

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
76	図書館施設維持管理 事業	図書館	利用者にとって安全・安心な施設であるため、施設・設備の適切な維持管理を行う。	施設および設備の維持管理。	【最終:令和7年度】 適切な施設管理及び計画的な修繕を行う。 【目標設定の理由】 老朽化した施設の長寿命化を図るため。	【事業の効果・ねらい】 適切な維持管理及び計画的な修繕により、施設の長寿命化を図る。 【事業実績】 近江八幡市図書館と安土図書館の老朽度調査を実施し、2館の老朽度を明らかにした。これにより、計画的に館の修繕等を実施することができるようになった。他に近江八幡図書館FreeWi-Fi整備、安土図書館のブックポスト設置工事等を実施。他に近江八幡市図書館の温水水養生機・排煙窓・トイレ手洗水栓取替等を修繕した。いづれも、利用者の安全を最優先し、優先順位の高いものから実施した。	【評価項目】目標の達成度<自己評価> 4 <評価の理由> 必要な修繕を行い、利用者の安全を図った。	老朽度調査の結果に基づき、優先順位の高いものから修繕改修を実施する。また、修繕する価値のあるものか、関係部署と協議しながら、見極める必要がある。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当, 3:ほぼ妥当, 2:改善, 1:見直し	課題・今後の方向性
77	市民共生センター維持管理事業	障がい福祉課(市民共生センター)	利用者の利便性を図るため、施設・設備の修繕を行う。	高齢者や障がい者等の団体・サークルが安心して利用できるよう施設・設備の維持管理を行う。	【最終:令和7年度】 高齢者や障がい者等の団体・サークルが安心して利用できるための施設・設備の維持管理 【目標設定の理由】 基本計画「VI 協働の仕組みづくり」の「文化施設の有効活用」に基づく。	【事業の効果・ねらい】 築10年以上経過しており、所々老朽箇所が増加している。 当センターは、地震等自然災害時の避難場所にも指定されているため、その機能を保持するために施設維持管理が必要不可欠である。 【事業実績】 下記の修繕を行った。 ・和室照明器具修繕 ・空調設備修繕	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞今年度に関しても、修繕を要すべき箇所は修繕を行えたことから、目標に関しては十分に達成できていると考えられる。	経年劣化による施設・設備の修繕計画をまとめ、予算確保に努める。 脱炭素化及び省エネ化に向けて、水銀灯のみならず、将来生産が停止される蛍光灯及びLED化を。ランプもLED化する。
78	文化関連施設維持管理(指定管理施設)	文化振興課	文化芸術的活動の拠点となる市内の文化施設を適正に維持管理及び運営し、利用者の満足度向上を図るため 【施設】 特別史跡安土城跡ガイダンス施設、資料館、重要文化財西川家住宅、かわらミュージアム、安土文芸の郷公園	文化施設が有効かつ安全に利用できるよう維持管理と運営を指定管理者に業務委託し、連携することで適切な維持管理を行う。 【施設】 特別史跡安土城跡ガイダンス施設、資料館、重要文化財西川家住宅、かわらミュージアム、安土文芸の郷公園	【最終:令和7年度】 施設の維持管理に必要な修繕等を実施し、施設利用者が利用しやすい環境を整える。 【目標設定の理由】 一	【事業の効果・ねらい】 文化施設の適切な維持管理により、市民が自主的かつ主体的な文化活動が行える場を継続的に提供するため。 【事業実績】 施設の維持管理のため、適切な修繕を行った。 【特別史跡安土城跡ガイダンス】多目的広場修繕工事、多目的広場除草 【資料館】(旧西川家住宅)建築物定期点検、建築設備・防火設備点検 【かわらミュージアム】小便器取替修繕、漆喰修繕、便所前排水管つまり修繕、天井装飾物、フロア排水抑制法に基づく定期点検 【文芸の郷公園】冷却水ポンプ修繕、屋外屋根防水修繕、オイルタンク電気式液面装置等修繕、建築設備、防火設備点検など	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文化振興基本計画に定める施設整備による環境づくりと合致する事業であるため。	施設の老朽化や災害等による破損等が生じた場合、利用者が安全に施設を利用できるよう、早急に修繕等の対応を行う。
79	文化関連施設維持管理(文化会館)	文化会館	市民の文化芸術や文化団体等の活動の場を提供し、安全で快適に利用できるよう施設の管理を行う。	施設(資材)の維持管理及び修繕	【最終:令和7年度】 市民が安全で快適に利用できるよう維持管理に努める。 【目標設定の理由】 市民の文化芸術活動の場を維持していく必要があると考えるため。	【事業の効果・ねらい】 設備が老朽化し、耐用年数を過ぎていることから、改修を行わなければ使用上危険や不具合が生じる恐れが高い。また、施設の適切な維持管理を行い、利用者の安心・安全確保が必要。 【事業実績】 令和5年度には、舞台照明・舞台機構等改修工事を実施し老朽化した舞台照明・舞台機構を更新し、催し中止リスクの軽減・利用者の安全確保ができた。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞施設不備による催し中止等が発生しなかったため、目標は達成したと考える。 ＜評価に対する数値等＞施設不備等による催し中止の件	築45年を過ぎ、施設や設備の経年劣化が激しいため、順次改修等を行い、利用者が安心・安全に施設を利用できる環境を整備する。

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
80	文化会館整備事業 (文化会館)	文化振興課	市民の文化活動の拠点となる文化会館は、建築から40年以上が経過し、老朽化が顕著となっており、長寿命化のための大規模改修を行うこととなった。	文化会館は建築から40年以上が経過し、施設と設備の老朽化が顕著であり、市民の文化活動の拠点となる施設であることから、市個別施設計画に沿って、長寿命化のための大規模改修や、修繕等を行う。また、エレベーターや十分な数の洋式トイレが設置されていないことから、利便性を高めるための改修を行う。	【最終:令和7年度】 長寿命化に必要な工事を行い、市民の文化活動の拠点を活用して利用する。 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 施設利用者が安心、安全に施設を利用できる環境をつくり、利便性を高めるため。 【事業実績】 各種工事等を実施し、施設及び設備の整備を行った。 【設計業務委託】 文化会館改修工事設計業務委託、文化会館外壁改修工事設計業務委託、文化会館舞台照明・舞台機構修正設計業務委託、文化会館排煙設備改修工事設計業務委託 【工事】 文化会館舞台照明及び舞台機構等改修工事、文化会館排煙設備改修工事	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文化振興基本計画に定める施設整備による環境づくりと合致する事業であるため。 ＜自己評価＞ 2 ＜評価の理由＞文化振興基本計画において、重点事業として文化会館の利活用の促進が掲げられ、自主事業として教育や医療・福祉分野と連携したさまざまな文化振興事業の実施の検討することがあげられている。動や自主事業のあり方を含めた運営について、検討を進めている。	市民の文化芸術活動の推進及び文化芸術創成拠点となるよう、順次整備を進める。また、整備にあわせ、市民による活動や自主事業のあり方を含めた運営について、検討を進めている。
81	文芸セミナーヨ等長寿 命化整備事業	文化振興課	建設から30年が経過し、老朽化が顕著な安土文芸の郷公園の各施設について、平成28年度に策定した「安土文芸の郷公園長寿命化計画」に沿って、社会資本整備交付金等を活用して、文芸セミナーヨ、安土城天主信長の館等の大規模改修を計画することとなった。(体育施設はスポーツ課が担当)	平成28年度に策定した「安土文芸の郷公園長寿命化計画」に沿って、社会資本整備交付金等を活用して、文芸セミナーヨ、安土城天主信長の館等の大規模改修を実施する。	【最終:令和7年度】 長寿命化対策に伴う工事を完了し、公園施設利用者が利用しやすい環境を整える。 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 施設利用者が安心、安全に施設を利用できる環境づくりを繋げる。 【事業実績】 各種工事等を実施し、施設及び設備の整備を行った。 【設計業務委託】 文芸の郷公園内トイレ改修工事設計業務委託、スベイン広場修正設計業務委託 【工事】 文芸セミナーヨ外壁改修工事、あづちマリエート外構改修工事、安土文芸の郷公園舗装等改修工事	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞文化振興基本計画に定める施設整備による環境づくりと合致する事業であるため。 【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞計画通りに長寿命化対策を実施できている。 (参考)今後の計画 令和6年度に18施設についての長寿命化対策実施。 ＜評価に対する数値等＞ 34/54 (令和5年度までに長寿命化対策が終了した施設数/長寿命化対策が必要な施設数)	施設利用者が安心して利用できるよう、安土文芸の郷公園の長寿命化計画に沿って、順次、施設改修及び設備の更新を行う。

④ 県・近隣市町との交流・連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
82	信長サミット	観光政策課	織田信長との関わりを大切にし、魅力あるまちづくりを目指すことを目的とし、加盟市町との交流を深めると共に、加盟市町から自治体のPRを行う。	織田信長にゆかりのある市町との交流を進め、歴史、観光、文化、産業の振興を推進する。 具体的には、それぞれの市町の観光部局の担当者会議及びサミットを開催している。(担当者会議、サミットともに2年に1度)	【最終:令和7年度】 - 【目標設定の理由】 -	【事業の効果・ねらい】 織田信長公ゆかりの関係市町が一堂に会し、観光・文化・産業の振興を根幹とするまちづくりを共に考え、交流を深め、まちづくりに対する思いを共有できる貴重な事業となっているため。 【事業実績】 小牧市で信長サミットが開催され、市のPRと他市町との交流を行った。	【評価項目】 ＜自己評価＞ - ＜評価の理由＞ - ＜評価に対する数値等＞ -	NHK大河ドラマ「豊臣兄弟」の放送に向けて、サミットの継続することに加え、市町の連携強化、歴史、観光、文化、産業の振興を一層図る。

④ 県・近隣市町との交流・連携

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
83	広域観光および友好 都市交流事業	観光政策課	周辺市町・関連自治体の観光施策と連携し、宿泊型・滞在型観光を促すとともに広域連携による他団体もつ観光資源を活用して効果的な観光振興を図る。	広域の観光協議会等に参加し、果城及び広域的な観光振興を推進し、効果的な事業及び情報宣伝活動を展開する。(公社)びわこビジュアルセンター(果城)、歴史街道推進協議会(近畿圏)、東近江観光振興協議会(東近江地域)、滋賀ロケーションオフィス(果城)との相互協力により、観光パンフレットや各種Web掲載等の観光情報の発信を行う。	【最終:令和7年度】 _【目標設定の理由】 _	【事業の効果・おらい】 本市の観光が比較的短時間の見て回り中心から、宿泊・滞在型へ転換を図る方策として、広域連携による観光資源の相互活用やそれらの情報発信を広域的に行うことが有効である。 【事業実績】 広域の観光協議会等に参加すること、他市との連携や広域的な情報収集及び情報発信を行った。	【評価項目】 ＜自己評価＞ - ＜評価の理由＞ - ＜評価に対する数値等＞ -	参画市町と密に連携をとり、滞在・周遊型の観光商品企画などを実施する。
再掲	ヴァーリズ建築文化 ネットワーク	文化振興課				(No.61参照)		

2 市民との協働

① 市民文化活動への支援の拡充

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4: 妥当、3: ほぼ妥当、2: 改善、1: 見直し	課題・今後の方向性
再掲	図書館運営事業(貸館)	図書館				(No.53参照)		
再掲	文化団体活動支援事業	文化振興課				(No.11参照)		
84	文化関連事業に対する後援	文化振興課	全国の自治体において、文化等の振興、その他福祉の増進に寄与する目的を持つ事業に対し、後援名義の使用承認及び市長賞等の交付を行っている。	事業等の実施により、市政の発展と向上に大きく寄与すると見込まれる内容に対し、後援及び賞状交付の基準に合致する事業について、後援名義の使用承認及び市長賞の交付を行う。	【最終:令和7年度】 _【目標設定の理由】 _	【事業の効果・ねらい】 団体等が主催する各種の事業や行事等に対し、市がその趣旨に賛同し奨励の意を表して後援名義を使用承認することによって支援し、当市の施策と関連した事業の顕在化を図り、文化振興の目的達成を目指す。 【事業実績】 令和5年度において、文化振興課で事務手続きを行った件数は27件。(当市全体で94件、令和4年度は22件)。 各主催団体において、本市の後援名義使用承認を受けた事業については、信頼性を高く得られる結果につながっている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞各主催団体において、本市の後援名義使用承認を受けた事業については、信頼性を高く得られる結果につながっている。	文化振興課で後援名義使用を承認・非承認を審査する文化事業等については、件数が市民の文化活動等の活発化を推し計る指標となる。継続して後援承認業務を行う。

② 市民が主役の文化振興の仕組みづくり

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4:妥当、3:ほぼ妥当、2:改善、1:見直し	課題・今後の方向性
再掲	図書館運営事業(貸 館)	図書館				(No.53参照)		
再掲	文化団体活動支援事業	文化振興課				(No.11参照)		

③ 市民参画・協働型事業の充実

番号	事業名	担当課 (連携団体等)	事業の目的	事業内容	事業実施により 目指す姿・目標	事業の効果・実績	評価指標 4.妥当、3.ほぼ妥当、2.改善、1.見直し	課題・今後の方向性
85	広聴事業 未来を築く 提言	秘書広報課	市民の行政へのアイデアや 提言を聴き、市政に反映さ せる。	市長への手紙等の対応や、市長とはち まんとトークの開催。	【最終：令和7年度】 市民の提言を参考に、市民 に寄り添った市政運営に努め る。	【事業の効果・ねらい】 市民の市政へのアイデアや提言を聴き、市政に反 映させるため。 【事業実績】 市長への手紙では、多子世帯の保育料減免や効 果的な婚活支援、ネット銀行での公共料金納入な どの提案を受けた。	【評価項目】目標設定の妥当性 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞提言をそのままだ政策に反映することは 困難であるが、意見を参考とした市政運営に努めてい る。	市長への手紙を中心に、 市民の意見を丁寧に同 じ、市政への反映を検討 する。
86	図書館資料リサイクル	図書館	令和2年度より事業開始。 近江八幡市立図書館除籍 基準に則り、長年廃棄本を 古紙回収に出していたが、 図書館において一定の役目 を終えた本を必要としている 人に活用してもらうことを目 的に、公募した市民団体へ 無償譲渡し、安価な価格で 販売し、得た収益を市民に 還元する事業を実施する。	「近江八幡市立図書館におけるリサイ クル資料を活用した市民提案事業」に より、市民団体に図書館の除籍本を譲 渡し、リサイクル販売の収益をもとに、 市民への還元事業を行う。	【最終：令和7年度】 毎年、還元事業等を実施す る。	【事業の効果・ねらい】 図書館から3,246冊の除籍本を譲渡し、近江八幡 図書館2階の八幡山城展示室において、今年 度初めて玄関ホールでリサイクル本の販売を行っ た。近江八幡図書館で1,824冊、安土図書館で 2,224冊、計4,048冊が売れた。この収益で、児童 文学者指田和氏の講演会「えほん」プロジェクト たかぞくから、平和を考える講演会、はぐしま み氏ワークショップ等を実施した。また、雑誌ス ンサーとして雑誌の協力をいただいている。	【評価項目】目標の達成度 ＜自己評価＞ 4 ＜評価の理由＞リサイクル本4,048冊が売れ、収益で ワークショップ、講演会の講師料、コンクールの副賞、 雑誌スンサー制度の雑誌4誌の講師料を負担した。 雑誌スンサー制度の雑誌4誌の講師料を負担した。	今後も2館の除籍本を譲 渡し、リサイクル事業に協 力する。収益の活用につ いては、主催の団体と協 働で、市民にとって最大 限有効な方法を考える。
87	近江八幡市障がい児 者の居場所づくり事業 （民生センター）	障がい児福祉課（市 民共生センター）	障がい児者の居場所（余暇 を過ごすための場所）につ いては、障がい児者地域自 立支援協議会余暇活動支 援プロジェクトチーム、障が い福祉施設整備検討会等 の課題でもあり、特別支援学 校保護者の会からの要望も あがっている。また、当事者 及びその家族においても、 公共の施設等に長時間通 することは、周囲への配慮等 により難しく、雨等で屋外で 過ごせない場合、行く場所 が無いとの要望があった。こ れを踏まえて、障がい児者 が気軽に訪れることができ る場所を確保するため、令和4 年10月より、「近江八幡市障 がい児者の居場所づくり事 業」を開始した。	障がい児者に向けて、運動・遊戯・休 息・交流等の為の場所を提供する。	【最終：令和7年度】 障がい児者及びその家族等 が抱える、居場所に関する悩 みの解決。 【目標設定の理由】 本事業開始に至った要望等 に基づく。	【事業の効果・ねらい】 障がい児者及びその家族等が抱える、居場所 に関する悩みの解決の糸口となる。 当事者同士及びその家族との交流の機会を提 供する。 【事業実績】 令和5年度については、月1回、第3日曜日に実施 した。 4月 35名（利用者14名、同伴者11名、協力者10 名） 5月 20名（利用者8名、同伴者8名、協力者4名） 6月 31名（利用者12名、同伴者12名、協力者7 名） 7月 21名（利用者8名、同伴者6名、協力者7名） 8月 22名（利用者9名、同伴者5名、協力者8名） 9月 22名（利用者8名、同伴者7名、協力者7名） 10月 22名（利用者8名、同伴者8名、協力者6名） 11月 24名（利用者9名、同伴者10名、協力者5 名） 12月 21名（利用者9名、同伴者8名、協力者4名） 1月 31名（利用者11名、同伴者10名、協力者10 名） 2月 28名（利用者11名、同伴者10名、協力者7 名） 3月 31名（利用者9名、同伴者11名、協力者11 名）	【評価項目】事業実施による効果・ねらいの設定の妥 当性 ＜自己評価＞ 3 ＜評価の理由＞月平均約25.6名の来場となっており、 ほぼ想定通りの来場実績となった。このことから、障が い児者が余暇を過ごすための居場所として、当事者及 びその家族達との交流の場としての機能がある程度働 いていると考えられる。	広報、HP、公式LINE等 を活用し、より多くの障が い児者の参加を呼び掛 ける。 利用者が起きることなく 長期間に渡る参加を促 すため、会場のレイアウト 等に工夫を凝らす。

(参 考 资 料)

(前文)

近江八幡市は、世界有数の古代湖である琵琶湖とその内湖、水路などに象徴される景観と多様な動植物の生態がみられる豊かな自然に抱かれている。

歴史文化に目を向ければ、古来よりの歌どころである老蘇の森、県内では最古最大級の瓢箪山古墳、戦国の雄たちの居城であった観音寺城、安土城、八幡山城など、著名な史跡に恵まれ、中山道、朝鮮人街道、八風街道などの陸路と湖上水運の要所として人と物資の往来が絶えず、いつの時代にあっても豊かな生産力が維持されていた。

このような豊かさを背景に持つわたしたち近江八幡市民は、自然や風俗・習慣・歴史などの文化の恵みを、市民共有の財産としている。社会をめぐる諸条件の変化により、伝統的な文化や価値観の継承が困難となりつつある今日、次の世代に引き継ぐこと、また様々な新しい文化を理解し調和させていくことなど、意識的な取り組みが必要となっている。そのために、私たちは地域の歴史と風土に学び、地域の良さをあらためて認識することに努め、それらを活かした多彩な文化活動の振興を図るものとする。

(目的)

第1条 この条例は、文化の振興に関し、基本理念を定め、市及び市民の役割を明らかにするとともに、文化の振興に関する施策（以下「文化振興施策」という。）の基本となる事項を定めることにより、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進し、もって個性及び活力の豊かな地域の文化生活の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 文化 文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊、メディア芸術（映画、漫画、アニメーション及び電子機器等を利用したもの。）等の芸術、地域において継承されてきた文化的資産（有形及び無形の文化財、生活文化等）、人々の生活とともに形成されてきた魅力ある風景等をいう。

(2) 文化活動 文化を創造し、若しくは享受し、又はこれらを支える活動をいう。

(基本理念)

第3条 文化の振興に当たっては、次に掲げる事項を基本理念として取り組むこととする。

(1) 文化活動を行うことが市民の権利であることに鑑み、市民が等しく文化活動に参加できる環境の整備が図られなければならない。

(2) 市民一人ひとりの自主性及び創造性が尊重されなければならない。

(3) 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。

(4) 先人たちの営みによって築かれた文化が市民共有の財産としてわかちあわれ、次代に引き継がれるよう配慮されねばならない。

(市民の役割)

第4条 市民は、文化活動を担う主体であることに鑑み、様々な機会を通じ相互に理解し、尊

重し、交流を深めることにより文化の振興に寄与するよう努めるものとする。

（市の役割）

第5条 市は、第3条に定める基本理念に基づき、文化振興施策を総合的に策定し、及び実施するものとする。

2 前項の規定による文化振興施策の策定及び実施に当たっては、次に掲げる事項について十分に配慮しなければならない。

（1） 広く市民の意見が反映されるようにすること。

（2） 文化活動を行う団体及び個人（以下「団体等」という。）では実施が困難なものに取り組むこと。

3 市は、文化振興施策の策定及び実施のために必要な体制の整備、財政上の措置に努めるものとする。

4 市は、市が実施する各種の施策において、文化振興を図る視点を取り入れるよう努めるものとする。

5 市は、団体等の自主性及び団体等が行う文化活動の多様性に十分に配慮しながら、当該文化活動及びその相互の連携が促進されるよう、助言、環境の整備その他の支援を行うものとする。

（文化振興基本計画）

第6条 市長は、文化振興施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、文化の振興に関する基本的な計画（以下「文化振興基本計画」という。）を定めるものとする。

2 文化振興基本計画は、文化振興施策の大綱その他文化の振興に関し必要な事項について定めるものとする。

3 市長は、文化振興基本計画を定めるに当たっては、文化振興施策と産業、まちづくり、教育、福祉その他の分野における施策との連携が図られるよう配慮するものとする。

4 市長は、文化振興基本計画を定めるに当たっては、あらかじめ、広く市民の意見を聴くとともに、第16条に定める近江八幡市文化振興審議会に意見を求めるものとする。

（多様な文化資源の把握等）

第7条 市は、独創的で優れた地域文化の形成等を図るため、地域に根ざした伝統文化、新たに創造された地域文化その他の多様な文化資源の把握、保存、継承及び活用の促進、当該文化資源に関する情報の収集及び発信その他の必要な施策を講ずるものとする。

（協働の仕組みづくり）

第8条 市は、市民が自主的かつ主体的に行う文化活動の充実を図るため、市民、芸術家等、事業者、教育機関等及び市との間における様々な協働が活発に行われるように、協働の仕組みづくり及び場の整備等を行うものとする。

（子ども、高齢者、障がい者等の文化活動の充実）

第9条 市は、全ての市民の文化活動への参加を実現するため、文化活動の範囲を制約されがちな子ども、高齢者、障がい者等が文化に親しみ、これに参加し、又は自主的な文化活動が活発に行われるよう施設の整備、支援その他の必要な措置を講ずるものとする。

（交流）

第10条 市は、文化の向上を図るため、国内及び海外との文化の交流の促進に必要な施策を

講ずるものとする。

（歴史的文化遺産）

第 1 1 条 市は、地域の文化財、伝統的な行事等の歴史的文化遺産の保存及び活用並びに伝統的な芸能の継承及び発展を図るため、歴史的文化遺産の調査、維持管理、修復、整備及び公開に努めるとともに、伝統的な芸能の活動の場及び鑑賞の機会の提供その他必要な措置を講ずるものとする。

（地域産業の振興）

第 1 2 条 市は、市民の文化活動の促進に資する地域産業の振興を図るとともに、当該地域産業による地域文化の形成を促進するため、これらに関する情報の提供その他の必要な施策を講ずるものとする。

（文化活動の担い手の育成）

第 1 3 条 市は、文化活動を担う人材及び団体を育成するために必要な施策を講ずるものとする。

（文化的都市景観の形成）

第 1 4 条 市は、文化及び自然に配慮し、周囲の自然環境及び地域の歴史的景観と調和のとれた都市景観の形成に努めるものとする。

（顕彰）

第 1 5 条 市は、文化の振興に関し功績のあった団体等の顕彰に努めるものとする。

（審議会）

第 1 6 条 市における文化振興に関する事項について調査及び審議するため、近江八幡市文化振興審議会（以下「審議会」という。）を置く。

2 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査及び審議する。

（1） 文化振興基本計画の策定に関する事項

（2） その他文化の振興に関する重要事項

3 審議会は、文化の振興に関する事項について、市長に意見を述べることができる。

4 審議会は、委員 10 人以内をもって組織し、市長が次に掲げる者のうちから委嘱する。

（1） 学識経験を有する者（文化に関し識見を有する者を含む）

（2） 公募による市民

（3） その他市長が必要と認める者

5 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

（委任）

第 1 7 条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

2. 令和6年度近江八幡市文化振興審議会委員名簿

(敬称略、順不同)

	氏名	所属等
会 長	中 川 幾 郎	帝塚山大学名誉教授
副会長	辻 喜 代 治	成安造形大学名誉教授
	國 松 完 二	近江八幡市図書館協議会会長
	高 島 知 佐 子	静岡文化芸術大学教授
	浅 岡 徹 夫	近江八幡市文化団体連合会会長
	疋 田 三 保	社会福祉法人グロー 上席専門員
	中 西 和 子	公募委員
	雪 吹 薫	公募委員
	上 野 智 士	校園所長会 会長
	三 橋 亮 子	公立保育所・幼稚園・子ども園園長会

3. 令和6年度近江八幡市文化振興基本計画進捗管理プロジェクト委員名簿

(敬称略、順不同)

所属	職名	氏名
人権・市民生活課	課長補佐	片 山 香 織
障がい福祉課	主任主事	奥 田 美 紗 季
教育委員会 学校教育課	指導主事	石 原 広 基
教育委員会 生涯学習課	課長	森 野 克 彦
教育委員会 図書館	館長補佐	村 田 な お み
観光政策課	課長補佐	黒 川 崇
まちづくり協働課	課長	武 田 善 雄
文化会館	主事	津 田 雄 一
総合政策部 文化振興課（文化財保護G）	副主幹	森 山 宗 保

事務局：総合政策部 文化振興課（文化振興G）